



工務

- 各線橋梁鐵桁ペイント塗替
  - 應舎床下敷物修繕
  - 品川驛構内水道鐵管防護暗渠改設
  - 品川驛構内二哩七十鎖附近電車線模様替
  - 大井試験所内軌道試験車庫設置
  - 各線軌條更換
  - 沼津驛構内建物災害復舊
  - 田端驛構内北部官舎(職員長屋)第十號外六棟災害復舊
  - 田端驛構内蓄電池機關車庫新築其ノ他
  - 新宿驛構内職員集會所設置
- 名古屋鐵道局
- 天龍川及釜戸驛計重臺設置竝改修其ノ他工事
  - 各線軌條更換
  - 橋梁桁ペイント塗替
  - 豊橋驛本屋増築其ノ他工事
  - 姨捨驛貨物線増設其ノ他工事
  - 敦賀港海棧橋修繕工事
  - 柳ヶ瀬隧道内線路應急工事

神戸鐵道局

- 大阪驛西部第一種聯動裝置改修工事
  - 各線軌條更換
  - 各線橋梁構桁ペイント塗替工事
  - 京都驛本屋修繕其ノ他工事
  - 鷹取工場天窓硝子屋根修繕其ノ他工事
  - 嵯峨龜田間線路土留石垣補強工事
  - 高知機關庫車輛修繕場建築工事
- 門司鐵道局
- 安藝中野海田市間百八十三哩五十八鎖附近水害應急工事
  - 山陽ホテル地下室一部模様替工事
  - 幡生長門二見間水害應急工事
  - 小倉工場組立及旋盤場修繕工事
  - 門司機關庫改築其ノ他工事
  - 小倉工場事務室改増築工事(保存補充關聯工事)
  - 熊本運輸保線事務所新築工事(保存補充關聯工事)
  - 人吉機關車庫修繕工事(保存補充關聯工事)
  - 佐賀驛本屋一部模様替工事(保存補充關聯工事)

工務

久保田驛構内西寄亘線新設其ノ他工事保存補充關聯工事  
津久見驛驛舎改増築其ノ他工事(保存補充關聯工事)

仙臺鐵道局

各線軌條更換(保存補充關聯工事)

仙臺驛北目町架道橋改築(保存補充關聯工事)

五十島馬下間釣濱隧道改修工事(保存補充關聯工事)

板谷峠隧道内道床改築其ノ他工事(保存補充關聯工事)

橋梁溝橋鐵桁ヘイント塗替工事

一ノ關給水鐵管改築

原ノ町驛給水木管改築

余目驛轉車臺新設其ノ他工事

札幌鐵道局

各線軌道修繕用砂利採集撤布

釧路災害官舎復舊

室蘭構内陸上棧橋其ノ他修繕

手宮海上及陸上棧橋修繕

手宮驛構内甲號合宿所復舊其ノ他

岩見澤乙號合宿所假設其ノ他

各線防雪柵設置其ノ他工事

各線軌條更換

砂川驛構内官舎復舊

茲ニ最近三箇年間ニ於ケル保存費ノ決算額ヲ示セハ左ノ如クニシテ昭和元年度ハ大正十四年度ニ比シ參百拾參萬四千百四拾圓(五分七厘)大正十三年度ニ比シ九拾萬八千五拾圓(一分六厘)ヲ孰レモ増加セリ

年 度	保 存 費
昭和元年度	五八〇,五五〇
大正十四年度	五四九,九四〇
大正十三年度	五七,一五,四九一

第二章 補充工事

本年度ニ於テ施行セル主ナル工事ヲ舉クレハ左ノ如シ

東京鐵道局

東京驛構内水道鐵管修繕其ノ他

品川驛構内水道鐵管防護暗渠新設

汐留驛構内砂利取卸場新設其ノ他

大井試驗所内線路増設

大井工場ビット増設其ノ他

工務

長津田中山間九哩二十五鎖附近線路水害復舊  
山手線及總武線ノ一部軌條更換  
東京鐵道局教習所附屬倉庫新築

名古屋鐵道局

名古屋驛灰坑増設其ノ他工事  
名古屋鐵道局假廳舎増築其ノ他工事  
垂井關ヶ原間側溝石垣新設其ノ他工事  
千種驛本屋模様替其ノ他工事  
各線軌條更換

金澤檢査所倉庫新設工事

高岡驛排水設備工事

北陸線君水外二隧道待避所改築工事

栗津外一驛信號機増設工事

神戸鐵道局

守山驛砂利積込用側線新設工事

東山及逢阪山隧道内軌條更換

西ノ宮蘆屋間大社村官舎地築排水溝改築

曾根驛本屋建築其ノ他工事

嵯峨龜岡間第一龜山外一箇所隧道内側溝新設

福知山驛機關庫増築工事

海舞鶴及米子驛貨物上家建築其ノ他工事

門司鐵道局

小倉工場事務室改増築其ノ他工事(保存補充關聯工事)

熊本運輸保線事務所新築其ノ他工事(保存補充關聯工事)

人吉機關車庫修繕工事(保存補充關聯工事)

佐賀驛本屋一部模様替工事(保存補充關聯工事)

久保田驛西寄亘線新設其ノ他工事(保存補充關聯工事)

武工場客貨車修繕場上家新築工事

日豐線佐志生隧道電燈設備工事

津久見驛驛舎改増築其ノ他工事(保存補充關聯工事)

仙臺鐵道局

各線軌條更換工事(保存補充關聯工事)

仙臺驛北目町架道改築其ノ他工事(保存補充關聯工事)

五十島馬下間釣濱隧道改修工事(保存補充關聯工事)

鉢崎青海川間護岸石垣修繕其ノ他工事

板谷峠隧道内道床改築其ノ他工事(保存補充關聯工事)

工務



東海道線線路増設

一、品川鶴見間貨物線

本區間工事ハ六工區ニ分チ施行中ニシテ全體トシテハ約四分通ノ工程ニアリ、其ノ内一工區ハ八分通、二工區ハ七分八厘、三工區ハ九分五厘、五工區ハ四分、六工區ハ一分二厘ノ工程ニアリ又用地買收ハ全體トシテ九分八厘方進捗セリ  
大崎貨物支線及鶴見驛構内擴張用地買收ハ孰レモ約九分通進捗セリ

一、横濱小田原間線路増設

本工事ノ内前年度ヨリ繼續施行ニ係ル馬入川橋梁増設及二宮國府津間押切川附近一部二線増設並松田砂利線新設工事ハ竣功シ自戸塚至平塚間線路増設工事ハ孰レモ停車場及軌條敷設工事ノ一部ヲ除キ土工其ノ他略竣功シ本區間全工程ノ約九分通ノ進捗ヲ見ルニ至リ保安裝置ヲ施設中ナリ、尙程ヶ谷驛改良ハ略用地買收ヲ了シ本年度十一月土工工事ニ著手セルモ未タ工程ヲ示スニ至ラス又平塚二宮間ハ用地買收中ナリ

一、京都神戸間線路増設

本區間二線増設工事中京都向日町間第一期工事ハ本年度十二月竣功シ、桂川橋梁増設工事ハ本年度七月橋脚基礎工事ニ著手シタリ、桂川向日町間線路増設工事ハ工程約一分、向日町山崎間其ノ二工事ニ著手シタルモ未タ工程ヲ示スニ至ラス、山崎高槻間用地ハ買收ヲ了シ、其ノ一工事ハ三分其ノ二工事ハ一分ノ工程ヲ示シ、高槻茨木間其ノ一工事ハ一分二厘、其ノ二工事ハ一分ノ工程ニ達セリ、又同區間竹串避盜橋増設其ノ他工事ハ工程六分六厘、茨木吹田間ハ用地

買收約九分九厘線路増設約五分通進捗セリ

大正十四年度著手セル歌島神崎間橋梁溝橋ノ繼足工事、大正十三年度著手セル同區間軌道工事及同十二年度著手セル神崎西ノ宮間繼足橋梁ノ架桁工事、大正十一年度著手セル蘆屋東灘間第四線軌道敷設工事等歌島東灘間線路増設ニ關スル工事全部完了シタリ、大正十二年度著手セル神戸市街線改良工事ノ内灘相生橋間線路敷設工事ハ約四分五厘方進捗セリ

大正十四年度著手セル神戸市街線用地買收ハ完了シ、本年度著手セル灘生田川間改築工事及生田川三ノ宮間改築工事ハ何レモ約二分方進捗シ、三ノ宮神戸間改築工事ハ建築用具購入其ノ他準備ニ著手セリ

本區間線路増設ニ伴フ各驛改良工事ノ内向日町驛ハ工程約九分五厘、山崎驛ハ六分五厘、茨木驛ハ五分、神崎西ノ宮及住吉ノ各驛ハ孰レモ竣功ヲ告ケタリ

一、小野濱線延長

神戸海岸線ハ軌條一部受入ヲ了シ之カ用地ハ約三分方進捗シ、神戸海岸貨物驛新設工事ハ枕木ノ受入ヲ了シタリ

一、名古屋稻澤間線路増設

大正十一年度以來繼續セル本區間二線増設ニ伴フ名古屋驛一部配線變更及二線増設用地買收ハ孰レモ九分九厘迄進捗セリ

一、大阪北方直通線増設

本工事ノ内第二期線新設其ノ一用地買收ヲ完了シ第二期線新設其ノ一工事ハ工程九分六厘

ニ達シ吹田宮原間大阪北方直通線第二期工事ハ工程八分七厘ニ達セリ

中央線線路増設

一、飯田町中野間線路増設

本區間ノ内飯田町市ヶ谷間ハ用地買收九分六厘線路増設約二分方進捗シ市ヶ谷信濃町間自一哩十鎖至一哩四十鎖線路増設工事ハ約六分同區間自一哩四十鎖至二哩八鎖線路増設約七厘同自二哩八鎖至二哩二十鎖線路増設工事ハ約七分ノ工程ニアリ

信濃町代々木間線路増設工事ハ一部殘工事ヲ除キ大體竣功シ新宿中野間線路増設工事ハ約五分六厘ノ工程ヲ示シ用地買收ハ九分九厘迄進捗セリ

一、國分寺八王子間複線

本區間第一工區線路増設用地買收ハ六分方進捗セリ

山陽線線路増設

一、神戸鷹取間線路増設

本區間ニ於ケル神戸市街線用地買收ハ約八分方進捗シ本年度著手セル神戸刈藻川改築工事ノ内兵庫刈藻川間改築工事ハ約二分進捗セリ

大正十四年度著手セル刈藻川橋梁増築工事ハ約四分五厘大正十二年度著手セル鷹取驛擴張竝二線増設用地買收ハ約九分九厘土工工事ハ約八分大正十三年度著手セル橋梁工事ハ約五分軌道工事ハ約八分方進捗セリ

一、廣島下關間複線

本區間中大野浦玖波間及宇部厚狹間ノ複線敷設工事ハ完了シ又本年度ニ於テ複線ノ使用ヲ開始セルハ廣島己斐間玖波岩國間柳井津田布施間富海三田尻間宇部厚狹間ニシテ大正十三年度著手セル長府長門一ノ宮間ハ約九分九厘長府下關間一部線路變更工事ハ約九分十四年度著手セル長府下關間一部線路變更工事ハ約六分大正十四年度著手セル戸田富海間ハ約七分本年度著手セル田布施岩國間ハ約七分阿知須厚東間ハ約八分虹ヶ濱下松間及下松徳山間ハ約一分大道四辻間四辻小郡間ハ約三分本年度一月著手セル廿日市宮島間及宮島大野浦間ハ約一分ノ工程ニ達セリ

一、和田岬線延長

本年度十二月新川延長線新設用地買收ニ著手シ約六分方進捗セリ

一、姫路海田市間複線

前年度ヨリ引續キ施行中ノ里庄笠岡間及松永尾道間ノ複線工事ハ孰レモ完了セリ

關西線線路増設

一、名古屋龜山間複線

本區間木曾川揖斐川橋梁複線架設工事ハ工程約三分二厘方進捗セリ

一、奈良柏原間複線

奈良大和小泉間複線工事ハ本年度六月竣功シ大和小泉王寺間工事ハ九分九厘ニ達シ其ノ内大和小泉法隆寺間ハ本年度四月法隆寺王寺間ハ同七月孰レモ複線使用ヲ開始セリ

一、城東貨物線新設

工務

淀川橋梁新設工事ハ工程約三分淀川神崎川間土工其ノ他五分一厘吹田神崎川間用地買收八分同上土工其ノ他工事二分東野田淀川間用地買收六分同上土工其ノ他ハ工程一分ニ達セリ

一、大阪水陸連絡線新設

臨港線用地買收ヲ了シ土工其ノ他其ノ一及其ノ二工事ハ工程約八分木津川岩崎運河間高架橋新設工事ハ工程五分岩崎運河外二橋梁新設六分五厘今宮鮎川間土工其ノ他工事ハ五分鮎川木津川間高架橋新設四分岩崎運河第二南境川間高架橋新設一分木津川橋梁新設工事ハ工程七分五厘ニ達シ又本年度十二月著手セル天保山運河橋梁新設工事ハ工程四分方進歩セリ

東北線線路増設

一、東京田端間線路増設

東京上野間第二期工事(電車線以外ノ分)ノ内東京柳原河岸間(一、二、三工區)及神田驛前切符發賣所新設工事ヲ了シ神田川上野間(四、五、六工區)及秋葉原驛假貨物積卸場新設ニ伴フ軌道工事ハ尙施行中ナリ

上野驛構内改良(七工區)ハ第一期(電車線關係)工事ヲ完成シ第二期工事(電車線以外ノ分)ハ引續キ施行中ナリ上野田端間線路改築用地買收ハ殆ント完了シ鶯谷田端間線路増設(八工區)工事ハ施行中ナリ

東京驛構内一部配線變更工事ハ完成セリ

一、田端大宮間線路増設

王子赤羽間線路増設工事ハ完了シ同第二回工事ハ用地買收ヲ了シ軌道工事ハ施行中ナリ又

東北本線荒川橋梁増設工事ハ引續キ施行中ナリ

田端大宮間ノ内川口町驛附近(二工區)ノ用地買收ニ著手シ三分通進捗セリ

一、高崎線複線

本工事ハ孰レモ本年度著手ニシテ大宮熊谷間複線工事ハ工程一分倉賀野高崎間ハ工程四分ニ達シ又本區間複線敷設ニ關聯施行セル倉賀野驛有效長延伸工事ハ一分高崎驛擴張其ノ一工事ハ工程二分ニ達セリ

一、山手線線路増設

代々木巢鴨間ノ内五工區及七工區ノ一部殘工事ヲ除キ全部完了シ又駒込田端間(九工區)ハ軌道ノ一部及高臺跨線線路橋撤去工事ヲ除キ竣功セリ

總武線線路増設

一、金町小岩間及越中島線新設

金町小岩間連絡線新設工事ハ工程八分ニ達セリ

越中島線ニ於テハ第一回土工其ノ他工事並自一哩六十八鎖至二哩四十八鎖間ノ土工線築堤工事等ハ孰レモ完成シ同線新設工事其ノ十四第二回土工其ノ他工事ハ工程八分通進捗セリ

函館線線路増設

一、岩見澤瀧川間複線

本區間中未竣功ナリシ奈井江砂川間四哩七十三鎖ハ本年度十二月複線運轉ヲ開始セリ

室蘭線線路増設

工務



工務

一、追分室蘭間複線

本區間中敷生幌別間十哩三鎖ハ竣成ヲ告ケタリ

第二節 線路改良工事

線路改良工事中主ナルモノ左ノ如シ(○印ヲ附シタルハ竣功ヲ示ス、以下同シ)  
一、線路諸改良

東海道線

○品川田町間電車線用地買收  
同 乗越工事

草津石山間瀬田川橋梁改良

○吹田宮原間上神崎川橋梁徑間擴張

高槻茨木間竹串避溢橋増設

福知山線生瀬武田尾間落石防護設備

長府下關間一部線路變更並複線敷設ノ内自三百二十五哩四十鎖至三百二十六哩六十鎖間

小串線線路改良

播但線長谷生野間向山隧道附近線路變更

安藝中野海田市間百八十三哩六十鎖附近線路勾配變更

長府下關間線路變更並複線敷設ノ内自三百二十三哩至三百二十五哩四十鎖間

山陽線

山陰線

○同 嵯峨龜岡間落石防護工事其ノ一  
土留壁新設

久谷驛附近線路附換

關西線

大型客車使用牴觸箇所改良

信越線

鉢崎青海川間反向曲線改良

鹿兒島線

八幡黒崎間線路勾配變更

函館線

昆布小樽間急曲線改良

函館本線張碓隧道延伸工事

二、軌條更換

東海道線

○東海道本線電車線一部  
○横須賀線一部  
横須賀線其ノ二

○坂下上松間外一箇所

中央線

○中野國分寺間一部  
名古屋高藏寺間

○中央線一部

山陽線

○兵庫外十三驛構内軌條更換  
○神戸姫路間

工務

工務

○上郡吉永間外二箇所

關西線

○大河原木津間  
○木津柏原間  
○木津湊町間

○鷺谷田端間

市街線

市街線七工區第二期及上野構内  
○赤羽驛構内

○上野田端間

○上野白河間

○三戸浦町間

○日暮里平間

東北線

○福島岩沼間

○仙臺小牛田間

○東北本線一部

○大宮熊谷間

○日光線一部

信越線

○信越線一部

○赤谷線

德島線

○德島線軌條更換其ノ二工事  
同 其ノ三工事

○門司折尾間

○折尾鳥栖間

鹿兒島線

○鳥栖熊本間

○同 其ノ二

○宮地線一部

日豐線

○犬飼線

○妻線一部

函館線

○函館南小樽間一部其ノ一

同 其ノ二

三橋桁改良

○竹串避溢橋増設

○上神崎川橋梁徑間擴張

○稻枝能登川間愛知川橋梁鐵桁架換

○野洲守山間野洲川外一箇所鐵桁架換

○草津石山間瀬田川橋梁改良

○豐川外九箇所橋桁改良

工務

東海道線

工務

北陸線

茅ヶ崎平塚間馬入川橋梁下リ線復舊  
姉川外四箇所橋桁改良

山陽線

○五日市廿日市間御筋川外十五箇所  
○西條八本松間半尾川外十箇所  
○玖波大竹間御惠川外十三箇所  
兵庫鷹取間刈藻川橋梁増築

關西線

○網干龍野間揖保川橋梁鐵桁架換  
本線橋梁溝橋七十一箇所桁架換  
名古屋蟹江間庄内川外十一箇所橋桁改良  
木津川橋梁鐵桁架換

東北線

○善太川外十二箇所橋桁改良  
東北本線荒川橋梁橋桁改良  
岩沼増田間増田川橋梁外五十四箇所橋桁改良  
常磐線隅田川橋梁桁改良

信越線

屋代篠ノ井間千曲川橋梁桁更換  
總武線 ○江戸川橋梁橋桁改良

鹿兒島線

○黑崎八代間橋梁十七箇所桁架換  
鳥栖長崎間橋梁溝橋百二十八箇所桁架換其ノ一工事

長崎線

○同 其ノ二

筑豊線

田川線第二今川外一箇所桁架換  
函館線 第一石狩川外三箇所橋桁架換

根室線

○第六別保川外十三箇所木橋改築  
宗谷線 ○智恵文稚内間木橋改築

四、隧道改良

東海道線

○程ヶ谷戸塚間清水谷戸隧道改築  
由比與津間洞第一第二隧道改良  
東山隧道排煙設備

中央線

市ヶ谷信濃町間自一哩四十鎖至二哩八鎖線路増設  
東北線 矢板野崎間針生隧道改築

東北線

○湯本綴間傾城山隧道改築

五、防雪設備

仙臺鐵道局

管内各線雪覆改築  
磐越西線翁島大寺間線路變更  
第四、五、六期計畫防雪林設置

札幌鐵道局

防雪林第三期施設  
防雪林補植及保護

工務

第三節 停車場改良工事

停車場改良工事ノ主ナルモノ左ノ如シ

一、操車場新設

田端操車場

第一回(中部土工)工事ハ設計追加ニヨリ引續キ施行中ニシテ工程約四分五厘ヲ示シ、第二回土工並橋梁工事ハ略完了シ工程約九分ヲ示ス

鶴見操車場

用地買收ハ全地積ニ對シ約八分五厘進捗シ又第一期工事ヲ二工區ニ區分シ一工區ハ約八分、二工區ハ約四分進捗セリ

吹田操車場

其ノ一土工其ノ他工事ハ工程六分五厘、土取場線假設工事及操車場貨物上家並吹田機關庫主任其ノ他官舎新設工事ハ孰レモ完了セリ

大宮操車場

用地ハ買收ヲ了シ、第二回工事ハ完了、第三回(土工及建物)工事ハ工程八分、第四回聯動工事二分、工事全體トシテ約七分進捗セリ

長岡操車場

長岡驛改良第一回本屋改増築ハ完了シ、第二回旅客設備工事ハ八分、同操車場新設用地買收

ハ三分進捗セリ

小岩操車場

第一回其ノ他工事ハ工程四分、連絡用地買收ハ三分進捗セリ

岩見澤操車場

給炭水設備及計重臺一部ヲ除キ他ハ大體完成セリ

青森操車場

本年度十月完成セリ

長町操車場

本年度九月完成セリ

二、驛改良

名古屋驛改良

大正十三年度ヨリ用地買收ニ著手シ約六分進捗シ、貨物設備ハ本年度十二月著手シ工程一分ニ達セリ

濱松驛改良

大正十三年度ヨリ繼續施行セル第三期擴張工事ハ約八分ノ工程ニ達セリ

大阪驛改良

用地買收ハ約九分方買收ヲ了シ、貨物驛新設第一期其ノ一土工其ノ他工事ハ工程約五分ニ達シ、同軌道工事ニ著手セリ、又當驛改良ニ伴フ阪神急行電鐵線路扛上ハ約七分方進捗セリ

工務

工 務

二百二

三ノ宮驛改良

大正十四年度著手セル神戸市街線用地ト關聯買收セル三ノ宮驛用地ハ約五分通進捗セリ

神戸驛改良

本年度二月市街線改良用地買收其ノ二ニ著手シ三分通進捗セリ

福井驛改良

用地買收ハ二分進捗セリ

金澤驛改良

工程九分通進捗セリ

岡山驛改良

工程約九分九厘ニ達シ大體完成セリ

櫻ノ宮貨物驛新設

工程約八分本工事ニ伴フ都市計畫道路新設工事ハ完了セリ

秋葉原驛改良

工程約三分進捗セリ

上野驛改良

第一期(電車線關聯)工事ヲ完成シ第二期工事(電車線以外)ハ施行中ナリ

田端驛改良

用地買收(中部)ハ完了シ大正十年三月著手セル驛改良工事ハ工程九分六厘大正十三年八月

著手セル第二回及第三回工事ハ何レモ九分五厘進捗セリ

本年度著手ノ第五回工事ハ工程四分七厘ニ達セリ

王子驛改良

用地買收九分工事ハ約五分進捗セリ

赤羽驛改良

用地買收九分工事ハ約五分進捗セリ

郡山驛改良

第一回工事ハ完了、第二回其ノ三土工事ハ八分七厘、其ノ四線路増設八分八厘、其ノ五道路

新設工事ハ完了、其ノ六第一種聯動裝置ハ六分九厘進捗セリ

福島驛改良

用地買收ハ八分五厘第一回工事ハ五分五厘進捗セリ

青森驛改良

用地買收完了、配線變更ハ七分九厘連絡待合所新設工事ハ八分九厘進捗セリ

隅田川驛改良

其ノ一工事ハ九分、其ノ二工事ハ七分進捗セリ

龜戸驛改良

全工程七分通進捗セリ

小名木川驛改良

工 務

二百三

工務

工程四分通進捗セリ

三、其ノ他各驛改良工事ノ内主ナルモノハ左ノ如シ

東海道線

東京驛前廣場交通整理改良

品川驛配線變更

大森驛有效長延伸

○江尻驛擴張

關ヶ原驛有效長延伸

米原驛擴張

京都驛側線増設

東灘驛改良

○尼ヶ崎驛改良

中央線

新宿驛改良

國分寺驛有效長延伸

長坂驛有效長延伸

山陽線

鷹取驛擴張

姫路驛擴張第二期工事

姫路驛操車場新設工事ノ内道路付換工事

○姫路驛第一種聯動裝置

○糸崎驛給水設備

○廣島操車場有效長延伸

尾ノ道驛有效長延伸

小郡機關車庫新設

關西線

龜山驛第二期擴張

○龜山驛側線増設

東北線

○小山驛擴張

○宇都宮驛外三機關庫石炭積込

小牛田驛改築

○金町驛擴張第二回土工其ノ他工事

水戸驛擴張

平驛有效長延伸

熊谷驛擴張

工務

工務

○原宿驛側線増設

奥羽線

新庄驛改築

信越線

上田驛機關庫新設

新津驛側線増設

總武線

○成田驛改良

鹿兒島線

○戸畑炭積機改造

○鳥栖驛擴張

○鳥栖驛第二期擴張

○鳥栖驛保安設備

徳島線

小松島機關車庫改増築

筑豊線

○飯塚驛有效長延伸

直方驛機關車庫改築

川内線

饅頭石驛有效長延伸

函館線

森驛改良

○手宮驛改良

小樽築港驛擴張

小樽築港驛機關車庫新設

旭川驛(上)方面改良

名寄線

名寄驛改良

四、水陸連絡設備

青森 ○海陸連絡渡船場新設

同 海陸連絡第二回渡船場新設工程一分ニ達セリ

同 海陸連絡待合所新設工程九分通進捗セリ

同 門司 門司港修築ニ伴フ海岸埋立工事

同 同石炭棧橋新設工事ハ工程八分ニ達セリ

函館 ○海陸連絡設備改良其ノ他工事

手宮 ○海上棧橋改築

工務

工務

稚内 海陸連絡設備改良工程九分五厘進捗セリ

五、停車場及信號所新設

東海道線

○東神奈川小机間驛新設其ノ一

高槻茨木間驛新設

北陸線

○森田九岡間驛新設

武生鯖波間驛新設

中央線

○竹折信號場ヲ驛ニ變更

山陽線

○徳山福川間驛新設

○西高屋信號所ヲ驛ニ改築

山陰線

○御來屋淀江間驛新設

石見太田五十猛間驛新設

湖山寶木間假驛ヲ驛ニ變更

關西線

櫻宮貨物驛新設

加太柘植間信號所新設

桑名富田間信號所新設

蟹江彌富間信號所新設

東北線

久喜栗橋間信號所新設

尻内下田間信號所新設

奥羽線

十文字横手間柳田信號場ヲ驛ニ變更

羽越線

○三瀬羽前大山間驛新設

信越線

○新津龜田間荻川信號場ヲ驛ニ變更

總武線

○上總湊濱金谷間夏季停車場新設

鹿兒島線

○佐賀久保田間驛新設

日豐線

工務



工務

○宇佐立石間信號所新設

函館線

上砂川專用線ヲ營業線ニ變更

根室線

○上富良野美瑛間驛新設

下富良野山部間驛新設

○上厚内信號所ヲ普通驛ニ改築

茂尻貨物驛ヲ普通驛ニ改築

六、廳舎、官舎、病院、倉庫其ノ他

芝離宮倉庫用地買收

横濱倉庫改良

清水港石炭陸揚設備

○櫻島石炭陸揚裝置

○天王寺驛附近鐵道病院用地買收

安治川口倉庫改築

神戸鐵道局ヲ大阪ニ移轉工事

大阪驛構内鐵道局廳舎新築ニ伴フ支障官舎移轉工事

廣島運輸事務所新設

下關保線事務所新設

○門司鐵道病院増築

○西唐津治療所新設

岡田川倉庫擴張

盛岡運輸保線事務所設置

○青森治療所新設

最上川石炭陸揚設備

○俱知安治療所新設

第四節 線路及建造物復興工事

大正十二年九月震火災ニ依ル被害線路及建造物ノ復舊工事ノ内施行中ノ主ナルモノ左ノ如シ

一、東海道線

東京驛乗降場上家復舊

○蒲田川崎間六郷川橋梁復舊

○鶴見高島間復舊

高島驛構内震災復舊

○横濱海陸聯絡線復舊

東横驛復舊

工務

平沼及神奈川官舎復舊

横濱櫻木町間復舊

○大船國府津間線路復舊

馬入川橋梁(下リ線)復舊

○國府津驛復舊

○國府津御殿場間復舊

山北驛復舊

○横濱線復舊

國府津眞鶴間復舊

○根府川眞鶴間赤澤隧道新設

二、中央線

東京萬世橋間橋梁其ノ他復舊

水道橋驛復舊

飯田町驛貨物上家其ノ他復舊

三、東北線

東北本線荒川橋梁増設

三河島南千住間線路昂上其ノ他

大井工場御料車庫復舊

四、總武線

○兩國橋驛構内船入溜擁壁復舊

○錦糸町驛復舊

○岩井富浦間線路變更

五、廳舎官舎倉庫其ノ他建物

○東京鐵道局教習所用地買收

○同 職員集會所復舊

新橋運輸保線電力事務所復舊

○鐵道大臣官舎新築

○東京第一、第二改良事務所假廳舎及本省第三分室復舊

研究所試驗室再築

新宿官舎復舊

東京鐵道病院再築

六、田町上野間線路増設

田町東京間用地ハ約八分方買收シ又東京柳原河岸間及神田川上野間用地買收ハ孰レモ九分通

進捗シ、神田柳原河岸佐久間河岸間工事ハ八分通進捗セリ

七、鶴見程ヶ谷間線路増設

鶴見東神奈川間増用地買收ハ約五分通進捗シ本年度八月土工工事ニ著手セルモ未タ工程ヲ示

スニ至ラス、又東神奈川程ヶ谷間ハ用地九分通買收ヲ了シ前年度三月著手セル土工工事ハ工程四分ニ達セリ

八、兩國橋御茶ノ水間線路増設

大正十三年四月用地買收ニ著手シ五分通進捗セリ

九、兩國橋龜戸間線路増設

本區間二線増設用地買收ハ約五分通進捗シ第一、二區ノ内第一回土留擁壁新設其ノ他工事ヲ施行シ約九分通完成セリ

十、諸停車場復興工事

兩國橋驛擴張用地買收ハ約四分通買收ヲ了シ同工事ニ著手シ約一分通進捗セリ  
飯田町牛込間土工工事ハ工程約二分進捗セリ

茲ニ最近三箇年間ニ於ケル工務關係工事改良費決算額ヲ示セハ左ノ如クニシテ昭和元年度ハ大正十四年度ニ比シ五百七拾萬八千五百貳拾四圓七分三厘大正十三年度ニ比シ千五百九拾壹萬七千七百參拾六圓二割三分五厘ノ孰レモ増加ヲ示セリ

年 度	改 良 費	
	昭 和 元 年 度	大 正 十 三 年 度
昭 和 元 年 度	八三六、二五、一	七九三、二七
大 正 十 三 年 度	六七〇、四、五五	

### 第四章 線路並停車場其ノ他

#### 開業線路

本年度末ニ於ケル國有鐵道ノ開業線路ハ八千七哩六十九鎖、軌道延長一萬三千三十二哩六十三鎖ニシテ前年度ニ比シ前者ハ百七十哩六十一鎖(二分二厘)後者ハ四百十三哩三鎖(三分三厘)ノ孰レモ増加ヲ示セリ、之ヲ局別ニ表示スレハ左ノ如シ

種 別	線 路		軌 道 延 長
	單 線	二 線 以 上	
東 京 鐵 道 局	六五、一、六	三七、六、六	一、〇二、九、〇
名 古 屋 鐵 道 局	八四、三、三	二〇、二、四	一、〇六、六、七
神 戶 鐵 道 局	一、四九、三	二八、八、〇	一、四三、七、三
門 司 鐵 道 局	一、三三、五	二〇、七、六	一、四三、二、四
仙 臺 鐵 道 局	一、五九、六	一、五、七、六	一、六〇、五、四
札 幌 鐵 道 局	一、三九、一、六	一、三、六、六	一、四七、一、〇
合 計	六、六三、〇	一、三二、四、九	八、〇〇、七、九
前年度比較増減	二、五、四、三	四、五、一、八	一、七、六、一

停車場其ノ他 本年度末ニ於ケル停車場數其ノ他ヲ局別ニ表示スレハ左表ノ如シ

種 別	東 京 鐵 道 局									
	普 通 停 車 場	旅 客 停 車 場	貨 物 停 車 場	電 車 停 車 場	假 停 車 場	乘 降 場	假 乘 降 場	信 號 場	信 號 所	計
種 別	三三三	七	一〇	二六	一	一	一	一六	三	三六

種別	前年度比較増減		種別	前年度比較増減	
	計	前年度比較増減		計	前年度比較増減
普通停車場	二七〇	△	普通停車場	二七〇	△
旅客停車場	〇	〇	旅客停車場	〇	〇
貨物停車場	二五	△	貨物停車場	二五	△
電車停車場	〇	〇	電車停車場	〇	〇
假停車場	一	〇	假停車場	一	〇
乗降場	〇	〇	乗降場	〇	〇
假乗降場	〇	〇	假乗降場	〇	〇
信號場	〇	〇	信號場	〇	〇
信號所	七	△	信號所	七	△
計	二〇〇	△	計	二〇〇	△

備考 停車場中括弧内ハ簡易停車場ヲ示シ別記トス

第五章 用地並諸建造物

用地 本年度末ニ於ケル鐵道用地ハ一億一千百十六萬四千九百二十坪ニシテ前年度ニ比シ三  
百七十九萬七千三百二十一坪(三分五厘)増加セリ之カ内譯ヲ表示スレハ左ノ如シ

種別	前年度比較増減		種別	前年度比較増減	
	計	前年度比較増減		計	前年度比較増減
官舎敷	七〇八	△	官舎敷	七〇八	△
工場敷	三、七九	△	工場敷	三、七九	△
倉庫敷	六、九四	△	倉庫敷	六、九四	△
停車場敷	三、九四	△	停車場敷	三、九四	△
線路敷	七、三三	△	線路敷	七、三三	△
雑用地	六、五七	△	雑用地	六、五七	△
計	二、四八	△	計	二、四八	△

橋梁並隧道

本年度末ニ於ケル鐵道橋及雜橋梁等ノ總延長ハ百二十八萬五千四百九十一呎隧  
道總延長ハ百二十三萬三千百五十五呎ニシテ前年度ニ比シ前者ハ六萬四千六百九十五呎(五分  
三厘)後者ハ二萬七千六百六十七呎(二分三厘)増加ヲ示セリ之カ内譯ヲ表示スレハ左ノ如シ

種別	前年度比較増減		種別	前年度比較増減	
	計	前年度比較増減		計	前年度比較増減
鐵道	四、五九	△	鐵道	四、五九	△
甲	八、九六	△	甲	八、九六	△
乙	一、三二	△	乙	一、三二	△
雜橋梁	二、六四	△	雜橋梁	二、六四	△
計	一、五三	△	計	一、五三	△
隧道	三、七九	△	隧道	三、七九	△
計	二、一六	△	計	二、一六	△

諸建物

本年度末ニ於ケル諸建物ノ總坪數ハ百四十九萬六千四百四十六坪ニシテ前年度ニ比シ  
備考 前年度比較増減ヲ掲記セサルハ本年度ヨリ種別ノ内容ヲ改正シ比較不能ニ依ル

七萬二千七百七十八坪(五分一厘)ヲ増加セリ、之カ細別ヲ表示スレハ左ノ如シ

種 別	官 舎 及 停 車 場		工 場 及 發 電 所		教 育 院 所 及 倉 庫		雜 建 物 旅 館		計
	前年度	比較増減	前年度	比較増減	前年度	比較増減	前年度	比較増減	
東 京 鐵 道 局	九,一三六	一九四,四六	四,一六〇	三,五二四	九,三三六	一九,七五一		三六四,七六四	
名 古 屋 鐵 道 局	四,九七	一三,四〇	三,〇六二	三,五九	三,五九	六,六五〇		二〇九,七九	
神 戶 鐵 道 局	五,四〇	一五,七〇	一,九四三	三,九六	五,七六四	二,一四五	八五八	二五九,四三	
門 司 鐵 道 局	五,五三	一〇,九四	一,五九六	四,五七	三,〇三	一六,八五〇	六四四	二〇七,四七一	
仙 臺 鐵 道 局	六,四三	一〇,八二	二,五九六	三,八四〇	一,九七四	八,九三		一九,五六六	
札 幌 鐵 道 局	三,八八	八,六八	一,七九六	三,九四	五,三四	一〇,七三		二五,六三	
合 計	四四,五五	七〇,三三	一三,八五	二七,〇八	二九,〇九	七五,〇六	一,五〇	一四九,四四	
前年度比較増減	△ 二〇,一〇		一,二六	二,二〇			五	七,二七	

備考 前年度比較増減ヲ掲記セサルハ本年度ヨリ種別ノ内容ヲ改正シ比較不能ニ依ル

### 第五編 工 作

#### 第一章 工 場

##### 第一節 工場數

本年度末ニ於ケル工場及同派出所數ハ工場二十一箇所派出所四箇所ニシテ前年度末ニ比シ増減ナク之ヲ局別ニ示セハ左ノ如シ

東京鐵道局 大宮(岡田川)大井,錦糸町

- 名古屋鐵道局 名古屋,濱松,長野,金澤
- 神戸鐵道局 鷹取,徳島,多度津,吹田,後藤
- 門司鐵道局 下關,小倉,若松,武
- 仙臺鐵道局 郡山,盛岡,土崎
- 札幌鐵道局 苗穂(輪西),五稜郭,旭川,釧路

備考 括弧内ハ上記工場ノ派出所ヲ示ス

##### 第二節 工場従事員數並技工及工手働狀態

本年度末工場従事員總數ハ工場長以下一萬五千八百九十五人ニシテ内雇員以上二千七百五十人、第一種傭人七百九十人、第三種傭人一萬二千三百五十五人(總員ノ七割八分ナリ、而シテ之ニ對スル年度末現在給料月額ハ雇員以上貳拾萬六千九百六拾壹圓、第一種傭人參萬九千九百九拾六圓、第三種傭人六拾九萬七千五百貳拾壹圓、合計九拾四萬四千四百七拾八圓ナリ、之ヲ前年度ニ比スルニ雇員以上ハ人員百三十五人、給料月額壹萬千七拾貳圓、第一種傭人ハ人員九人、給料月額ハ千六百六拾貳圓ヲ増加シ、第三種傭人ハ人員百七十二人、給料月額ハ七千貳百八拾貳圓ヲ減少シ、差引合計人員ハ二十八人ヲ減少シタルモ同給料月額ハ五千四百五拾貳圓ヲ増加セリ

本年度ニ於ケル工場技工及工手ノ實働人工ハ三百八十三萬五千四百八十人工ニ對スル支拂賃金ハ千四萬六千六百拾五圓ニシテ内七百六拾八萬六千拾六圓(七割六分五厘)ハ賃請仕事ニ對シ支拂ヒタルモノナリ、之ヲ前年度ニ比スルニ實働人工ハ十三萬四千五百三十四人工ヲ減少シ支拂賃金ハ拾

七萬百六拾四圓ヲ増加セリ、實働人工減少セルニ係ラス支拂賃金増加セル主因ハ賃請仕事増大ニ伴フ賃請利益金ノ増加セル爲ナリ

本年度ニ於テ工作ニ從事シタル工場技工及工場工手ノ工事人工ハ二百五十七萬三千三百五人工之ニ對スル工作費ハ貳千百拾萬七千貳百壹圓ニシテ一人工當リ八圓貳拾錢九厘ナリ、之ヲ前年度ニ比スルニ工事人工ハ十萬二千九十六人工ヲ減少シ工作費ハ參拾五萬七百八拾九圓ヲ、一人工當リ四拾四錢五厘ヲ増加セリ、斯ノ如ク工事人工ノ前年度ニ比シ減少セルニ反シ工作費ニ於テ却テ増加セルハ作業能率ノ増進ニ伴フ賃請利益金ノ増大及退職賜金ノ増加等其ノ主因ナリ

本年度中各工場ヲ通シタル工場技工及工手ノ平均作業日數ハ三百十二日(一箇月平均工作日數二十六日)ニシテ前年度ニ比シ〇・六日ヲ増加シ又ハ出勤割合ハ九割五分六厘ニ當リ前年度ニ比シ一厘ヲ減少セリ、而シテ出勤者平均一人一日作業人工ハ一・〇二人工ニ當リ前年度ニ比シ増減ナク、賃請利益金ヲ併セタル出勤者平均一人一日ノ所得金ハ貳圓六拾六錢貳厘(前年度ニ比シ拾壹錢貳厘)増ニシテ延現在員ニ對スル一人當リノ月額ハ六拾六圓八錢八厘(前年度ニ比シ貳圓八拾八錢八厘)増ナリ、尙總實働人工ノ内賃請人工ノ割合ハ六割五分四厘(前年度ニ比シ六分四厘)増ニ當リ、賃請利益金ノ割合ハ賃請實働賃金ノ五割九分(前年度ニ比シ四分)増ナリ

更ニ本年度ニ於ケル工場技工及工手ノ異動狀態ヲ見ルニ新規採用竝工場外ヨリ轉入シタル者七百五十六人、自工場内第三種備人以外ヨリ轉入シタルモノ三十四人、計七百九十人、退職、死亡及工場外へ轉出シタルモノ七百九十一人、自工場内第三種備人以外へ轉出シタルモノ百九十五人、計九百八十六人ニシテ前年度ニ比シ前者ハ六十三人(七分)後者ハ三百三十人(二割五分)ヲ孰レモ減少セリ

其ノ他本局及事務所竝庫所機關庫、檢車所、電車庫、列車電燈所ニ於ケル本年度末車輛修繕費所屬現在人員ハ雇員以上千五十四人、給料月額七萬四千七百九拾六圓ニシテ第一種備人五千七百七十三人、給料月額貳拾八萬七千七百七拾七圓ナリ、之ヲ前年度ニ比スルニ雇員以上ハ人員八十一人、給料月額四千貳百八拾貳圓ヲ増加シ第一種備人ハ二百二十九人、給料月額壹萬參千參百七拾八圓ヲ増加セリ、而シテ本年度機關庫、檢車所、電車庫、列車電燈所ニ於ケル第一種備人(技工)ノ働延人員ハ百七十六萬八千九十一人ニシテ支拂賃金ハ參百參拾貳萬參千七百九拾五圓ナリ、之ヲ前年度ニ比スルニ働延人員ハ二萬二千六百四十九人、支拂賃金ハ五萬七千七百四圓ヲ増加セリ、尙第一種備人ニ對スル異動狀態ヲ見ルニ入職者七百二十五人ニシテ退職及死亡者ハ六百八十八人ナリ、之ヲ前年度ニ比スルニ前者ハ三百八十一人(三割四分)後者ハ五百三十人(四割七分)ヲ孰レモ減少セリ

### 第三節 工場生産額

本年度ニ於ケル工場生産額ハ四千六拾參萬五百參拾八圓ニシテ前年度ニ比シ百五拾九萬四千六百六拾七圓ヲ減少セリ、内工作費ハ千八百五拾七萬五千四百七拾五圓、材料費ハ貳千貳百五萬五千六百六拾圓ナリ、之ヲ工事別ニ示セハ車輛修繕ハ貳千四百五拾七萬九千五百七拾八圓、總額ニ對シ六割一分、車輛製作ハ貳百七拾五萬五千四百六拾參圓、總額ニ對シ七分、車輛改良ハ八百貳拾參萬四千四百四拾九圓、總額ニ對シ二割、其ノ他ノ鐵道用品製修ハ五百六萬四千四拾八圓、總額ニ對シ一割二分ニシテ前年度ニ比スルニ車輛修繕ハ七拾萬四千九百四圓ヲ、車輛製作ハ七拾九萬參千五百四拾貳圓ヲ増加シ、車輛改良ハ百六拾參萬參千九百九拾六圓ヲ其ノ他鐵道用品製修ハ百四拾五萬五千七百拾七圓ヲ減少セリ

工 作

二百二十二

本年度工場ニ於テ修繕シタル車輛數ハ蒸汽機關車三千八百二十八輛前年度ニ比シ百二輛増電氣機關車九十二輛前年度ニ比シ十四輛増客車四千四百八十六輛前年度ニ比シ三百八十七輛減電車千三百十二輛前年度ニ比シ三十八輛増貨車七萬七千八百二十九輛前年度ニ比シ一萬八百八十四輛増ナリ又工場ニ於ケル車輛修繕費ハ貳千四百五拾七萬九千五百七拾八圓前年度ニ比シ七拾萬四千九百拾圓増ニシテ蒸汽機關車千六百六拾貳萬八千七百九圓前年度ニ比シ貳拾七萬六千參百六拾圓増電氣機關車四拾八萬七千五百四拾壹圓前年度ニ比シ九萬五千七百貳拾八圓増客車六百九萬七千五百拾九圓(前年度ニ比シ拾五萬九千四百九拾四圓増)電車九拾貳萬貳千九百五拾八圓(前年度ニ比シ壹萬貳千貳百八圓減)貨車五百八萬九千五拾七圓(前年度ニ比シ拾八萬九千九百七拾貳圓増)機械及器具參拾五萬四千貳百五拾四圓(前年度ニ比シ貳千四百參拾六圓減)ナリ又車輛製作輛數ハ蒸汽機關車組立四輛前年度ニ比シ二輛増電氣機關車組立十輛(前年度ニ比シ一輛増)客車四十七輛(前年度ニ比シ七輛増)電車ハ電氣裝置六十輛(前年度ニ比シ十五輛増)貨車四輛ノ外組立二輛(前年度ニ比シ十九輛減)及組立二輛増ニシテ又車輛改造輛數ハ蒸汽機關車二千七十二輛(前年度ニ比シ二百四十七輛減)電氣機關車百三十九輛(前年度ニ比シ三十八輛増)客車九百二十九輛(前年度ニ比シ二千三十六輛減)電車千五十五輛(前年度ニ比シ千輛増)貨車七萬八千八百九十輛(前年度ニ比シ六萬五千三百一十一輛減)ナリ前項ノ車輛修繕費ヨリ低減スヘキ本年度副生品生産額ハ參百拾四萬五千五百四拾四圓(前年度ニ比シ拾七萬七千四拾五圓減)ニシテ内自工場評價使用百七拾參萬八千貳百四拾七圓(前年度ニ比シ拾壹萬參百拾五圓増)省外賣却百貳拾六萬六千五百七拾四圓(前年度ニ比シ貳拾參萬四千八拾六圓減)貯藏ニ編入拾參萬六千七百貳拾參圓(五萬參千貳百七拾四圓減)ナリ又工場車輛修繕用豫備品ニシテ他工事

ニ使用ノ爲一旦貯藏ニ編入シ前項車輛修繕費ヨリ低減スヘキ金額ハ六萬七千參百六拾六圓(前年度ニ比シ六萬七千五百五拾六圓減)ナリトス其ノ他本省及本局庫所ニ於ケル車輛修繕費決算額ハ本省六拾參萬八千七百七拾壹圓(前年度ニ比シ貳萬參千六百貳拾九圓増)本局庫所五百五拾壹萬參千參百五拾四圓(前年度ニ比シ貳拾壹萬九千九百五拾五圓増)ニシテ結局本年度工場車輛修繕費決算額貳千百參拾七萬六千六百六拾八圓(副生品及豫備品ニ對スル金額ヲ控除シタル額)ニ上記本省及本局庫所ノ分ヲ加算シタル貳千七百五拾貳萬貳千七百九拾參圓ハ車輛修繕費總決算額ナリ之ヲ前年度ニ比スルニ百拾九萬貳千六百八拾九圓ノ減少ヲ示セリ

第四節 工場施設

本年度ニ於ケル工場施設ノ概要ヲ述フレハ左ノ如シ

敷 地

本年度末現在 二、八八三、五九九平米

前年度末比較減 二五、六八一平米

敷地減少セシハ下關工場客車洗滌線敷地ヲ同停車場敷地ニ變更セシタメナリ

建 物

本年度末現在 四一、二三一〇平米

前年度末比較増 一〇、六九七平米

工 作

二百二十三

工作

線路

本年度末現在 一七四・六籽  
 前年度末比較増 三七籽

機械

本年度末現在 一三、二五九、八一圓  
 前年度末比較増 八五、二九三、四圓

内 澤

工作機械 八、四九九、五五七圓  
 原動機械 七、七六〇、一六圓  
 電氣機械 九、七五三、二〇圓  
 物物機械 一、二一七、二六五圓  
 ホンブ 五、七二六、四圓  
 空氣機械 四、四二九、四一圓  
 試験機械 一、四八七、〇二圓  
 計重臺 六、三〇七、四圓  
 車輛移動機械 一、八三三、八三圓  
 雜機械 八、九六二、八九圓

本年度ニ於ケル工場ノ擴張改良其ノ他工事ノ主ナルモノヲ舉クレハ左ノ如シ

吹田工場

前年度ヨリ施行中ノ客車オーバーヘッドクレーン設備工事ハ完成シ本年度起工セシ  
 事務所新築工事モ亦竣功セリ

名古屋工場

事務所並技工會食所其ノ他新築ヲ了シ工場新設第一期工事ヲ殆ント完了セリ  
 幡生工場 新設大正十四年九月幡生驛附近ニ工場ヲ新設シ現在ノ下關工場ヲ移轉スルコトニ決

郡山工場

定シ本年度先ツ用地ヲ買收スルコトニナリ所要敷地約六二、一五〇平米ノ大半ノ買收  
 ヲ了ヘタリ

土崎工場

技工會食所新築及職場暖房工事竣功セリ  
 給水量増加ノ爲深井戸ヲ新設セリ尙倉庫ヲ新築中ナリ現在ノ倉庫ハ各所ニ散在シ不

五稜郭工場

便多キヲ以テ之ヲ一箇所ニ集合セン爲ナリ  
 大正十四年十月焼失セシ客車職場復舊工事ハ施行中ニテ昭和二年六月竣功ノ豫定

小倉工場

在來ノ副生品職場ハ假建物ナル爲新築スルコトニ決シ又模型職場ハ建築後二十年餘  
 ヲ經過シ木造ニテ火災ノ虞アル故前年度鑄物職場ノ新築ニ伴ヒ之ヲ新築スルコトニ

武工場

ナリ孰レモ工事ニ著手セリ  
 客車修繕場上家ヲ新設セリ

新小岩工場

新設錦糸町工場復興前年度ヨリ著手セル土工ヲ了シ貨車職場新築ニ著手セリ

大宮工場

復興大正十四年二月起工シタル組立旋盤職場新築工事ハ本年度十一月竣功シ諸機械  
 ノ移轉モ亦殆ト完了セリ此ノ外副生品職場工具職場増築及電氣機關車試運轉線延長

工作



工 作

二百二十六  
 工事等完成セリ、尙第一第二貨車職場ノ復舊ヲ了シ在來ノ旋盤職場ヲ移轉シ技工更衣所並浴場ニ模様替中ナリ

第五節 驛機關庫及倉庫運搬設備

本年度ニ於ケル驛機關庫及倉庫ノ運搬設備ニシテ竣功セル主ナル工事ハ次ノ如シ

機關車給炭裝置 濱松、福島、糸崎、直方、各機關庫

固定埠頭電動起重機(重量貨物用) 錦糸町、湊町、大阪、室蘭各驛

ロコモチーフクレーン(安治川口重量貨物用、糸崎石炭、其ノ他木材用) 安治川口、人吉、留邊蘘、陸別

置戸、下金山、天寧各驛

ガントレバークレーン(重量貨物用) 東横濱驛

ガントリークレーン(小野濱木材用、其ノ他石炭用) 隅田川、室蘭、小野濱各驛

コンベヤー(石炭用) 飾磨、手宮、室蘭驛

テルフアー(木材用) 白鳥驛

天井移動起重機(重量貨物用) 湊町驛門司倉庫

尙目下施行中ノ主ナル工事ハ左ノ如シ

地金積卸裝置 横濱倉庫

テルフアー(木材用) 海舞鶴驛

コンベヤー(重量貨物用) 小野濱驛

第二章 車輛

第一節 現在車輛及價額

本年度末ニ於ケル省有現在車輛數ハ蒸汽機關車三千九百六十五輛此ノ噸數二十八萬五千九百八十八噸、電氣機關車八十九輛此ノ噸數五千四百三噸、客車九千二百三十六輛此ノ定員四十七萬八千四百九十一人、電車八百二十二輛此ノ定員八萬百十四人、貨車六萬一千八百九十七輛此ノ荷重噸數七十七萬四千七百四十八噸ニシテ之ニ對スル車輛財產總額ハ五億五百拾六萬八千八百八拾四圓ナリ、之ヲ前年度ニ比スレハ蒸汽機關車四十六輛噸數一萬五百二十五噸、電氣機關車十二輛噸數七百四十七噸、電車八十八輛(定員八千五百十八人)貨車二千二百九十輛(荷重噸數三萬七百七十六噸)ヲ增加シ客車ニ於テ三百三十二輛(定員一千三百五十九人)ヲ減少シ又車輛財產總額ニ於テ參千六百拾貳萬九千九百貳拾九圓ヲ增加セリ

尙現在車輛ヲ所屬局別ニ表示スレハ左ノ如シ

機關車

種 別	蒸 汽 機 關 車		電 氣 機 關 車		合 計	
	輛 數	噸 數	輛 數	噸 數	輛 數	噸 數
東京鐵道局	三三	一六、六六、二	四〇	四、四、七	八九	五、四、〇、〇、一
名古屋鐵道局	二二七	一一、六、五、〇、三	四六	三、九、七、八、九	二七三	五、〇、三、四、四、二
					六七三	六、九、九、三、三、九
					八五一	六、九、九、三、三、九
					六七三	五、〇、三、四、四、二

工 作

種別	蒸気機関車		電氣機關車		合計
	輛數	噸數	輛數	噸數	
神戶鐵道局	二九〇	一三,七六七	三六一	三,二八五	六五一
門司鐵道局	二二六	一三,六五〇	三四三	二,九四九	五七六
仙臺鐵道局	二七	一,三二六	三九八	三,七五〇	六六九
札幌鐵道局	二七	一,四二一	二三五	二,〇三〇	四六二
工務局	八	一八九	—	—	八
合計	一,六五五	八三,七六七	二,二二一	一九,八〇三	三,九六五
前年度比較増減	△八九	△四八,三三〇	一三五	一五,三六八	二,二七八

備考

一、飽和輛數中ニハ二呎六吋軌幅用ノモノ東京鐵道局四輛名古屋鐵道局二輛仙臺鐵道局三輛ヲ含ム

一、機關車ノ噸數ハ運輸整備ノトキノ噸數ヲ示ス

一、本表中ニハ工場用十六輛石炭試驗場用二輛沙留倉庫用一輛、教育所用三輛、省外一時貨渡車七輛使用休止車九十九輛及洗罐用空氣制動機檢査用煖房用ニ使用中ノモノ六十二輛ヲ含ム

客車(含電車)

種別	客車		電車		汽動車		合計
	輛數	定員	輛數	定員	輛數	定員	
東京鐵道局	一,七六六	二四,六〇〇	一〇,六七六	八三,〇二四	二	一四〇	二,八五六
ボギー	四	—	—	—	—	—	—
合計	一,七七〇	二四,六〇〇	一〇,六七六	八三,〇二四	二	一四〇	二,八五六
前年度比較増減	△八	△一,〇六六	△一	△一,〇六六	△	△	△一,〇七四

貨車

種別	有蓋車		無蓋車		石炭車		合計
	輛數	噸數	輛數	噸數	輛數	噸數	
東京鐵道局	四〇四	三,三六九	六四五	八,三二二	—	—	一,〇四九
合計	四〇四	三,三六九	六四五	八,三二二	—	—	一,〇四九
前年度比較増減	△	△	△	△	△	△	△

工作

備考

一、本表ニハ御料車及賢所乘御車十一輛ヲ含ミ逓信省ヨリ借入車六輛ヲ含マス

二、本省ノ客車二輛ハ研究所及工務局所屬試驗車ニシテ東京建設事務所ノ客車五輛ハ事務所員ノ乗用車ナリ

三、四輪車中ニハ東京鐵道局所屬ノ六輪車四輛、二呎六吋軌幅用十輛、名古屋鐵道局所屬ノ二呎六吋軌幅用三輛、仙臺鐵道局所屬ノ二呎六吋軌幅用九輛ヲ含ム

種別	客車		電車		汽動車		合計
	輛數	定員	輛數	定員	輛數	定員	
名古屋鐵道局	九六七	一三,〇二二	—	—	—	—	一,〇〇九
神戶鐵道局	一,五九二	二〇,四三三	—	—	—	—	二,三三九
門司鐵道局	二,二六八	二九,三九七	—	—	—	—	一,五九二
仙臺鐵道局	八五五	一〇,七〇二	—	—	—	—	一,三三七
札幌鐵道局	五五五	三,八〇七	—	—	—	—	一,五七一
東京建設事務所	—	—	—	—	—	—	—
本省	—	—	—	—	—	—	—
合計	六,九三二	八七,三三九	—	—	—	—	一〇,〇五九
前年度比較増減	△五三	△八,六三三	△一,一九九	△八,三三二	△二	△一,〇六〇	△二,四四九



種別	減				加				差引増加
	讓渡車		改造車		計		計		
	客車	電車	貨車	計	客車	電車	貨車	計	
蒸汽機關車	六				四				四
客車	三				一				一
電車	一				二				二
貨車					二				二
計	一〇				七				七
自重	五、四六〇				二、五七三				二、九三三
定員	一、四〇六				一、〇九				一、五一五
荷重	二、六六				二、六六				五、三二六
記									
事									

第三節 車輛ノ改良

本年度ニ於テ施行セル車輛ノ改良施設工事ノ重ナルモノハ本州及九州線ニ於ケル機關車及貨車ノ一部ニ對シ空氣制動機ヲ裝置セルト又前年度ヨリ施行中ノ貨車ニ空氣制動管取付工事ハ本年度ニ於テ殆ト完了ヲ告ケタルヲ以テ昭和二年度ヨリ主要幹線貨物列車ニハ空氣制動機ヲ實施スルヲ得ヘク又自動連結器取付未了ナリシ四國線配屬車輛中高知線ノ分ハ本年度ニ於テ取替ヲ了シタリ一般改良工事ニ於テ機關車ニアリテハ列車保安ノ必要上前年度來施行中ノ電氣前照燈及速度計ノ取付ヲ引續キ施行シタルト其ノ他温水裝置、炭水車付機關車ヲ水槽付ニ改造、灰箱内灰燼流出裝置工事ノ各工事、電氣機關車ニアリテハ運轉上ノ安全ヲ期スル爲東海道線電化用機關車ノ一部ニ高速遮斷器取付、客車ニ在リテハ四輪客車ノ鋼木合造臺枠ノモノヲ鋼製ニ改造、構造舊式ノ客車ヲ手荷物緩急車又ハ郵便車ニ改造、便所設備改造等ノ各工事、電車ニアリテハ線電壓變更ノ關係上四〇、キロワツト電動機付電動車ヲ附隨車ニ改造、其ノ他制御電壓ヲ一〇〇、ボルトニ變更、三等電車ニ煖房器取付等ノ各工事、貨車ニアリテハ四輪客車ヲ乗務員專用ノ車掌緩急車ニ改造、中央梁及橫梁ヲ鋼製ニ取替、有蓋貨車ヲ冷藏車ニ改造等ノ各工事ヲ主ナルモノトシ其ノ他列車運轉上又ハ旅客優遇上必要トスル種々ノ改良施設ヲナセリ、然シテ之レニ要セシ工事費ハ機關車參百六拾壹萬四千八百四拾四圓、電氣機關車六萬九千七百貳拾參圓、客車參拾壹萬參千貳百參拾四圓、電車四拾參萬壹千七百七拾圓、貨車參百七拾七萬貳千七百貳圓、總額八百貳拾萬貳千貳百七拾參圓ニシテ前年度ニ比スレニ百九拾四萬參千九百參拾參圓ヲ減少セリ之ヲ工事別ニ類別スレハ次ノ如シ



種別	輛數	費額
空氣制動筒取付	五、八五	一、五二、三三七
空氣制動管取付	一三、七四九	四、六四、八六
空氣制動蛇管取付	四、九〇	四、六五、八
自動連結器取付	九	三、三八〇
四輪客車ヲ車掌緩急車ニ改造	六六七	四、九一、九七
木製中央梁及橫梁ヲ鋼製ニ取替	二、四七	四、四七、九
有蓋貨車ノ柱ヲ鋼製ニ取替	三、六〇	一、七、二九
妻用踏段新設	三、〇四九	八、六一
貨車増噸工	三	一九、七三
車種變更工	七	一、四、五七九
其他工事	四、〇六	三、五、四九三
合計	六、八六	三、七、七、九三

第六編 電氣

第一章 通信關係

概況

本年度ニ於ケル改良費決算額ヲ示セハ左ノ如シ

種別	決算額
通信設備費	三、〇、八四、五二四
電信設備費	六、二、八、一、五九
東京鐵道局	三、六、三、七、三、〇、九
名古屋鐵道局	五、一、三、七、〇、八、三
神戶鐵道局	五、八、〇、三、九、三、〇、三
門司鐵道局	六、〇、四、四、八、八、五
仙臺鐵道局	四、二、五、三、八、八、五
札幌鐵道局	三、二、四、〇、八、五、〇、二、六
電話設備費	七、八、〇、八、五、〇、〇、二
東京鐵道局	六、三、〇、八、四、六、二、九
名古屋鐵道局	五、八、五、六、七、九、五、五
神戶鐵道局	五、六、四、四、八、二、〇、〇、六
門司鐵道局	三、三、三、九、三、二、三、一
仙臺鐵道局	三、五、〇、六、六、〇、三、三
札幌鐵道局	二、〇、七、四、六、五、二
無線通信設備費	八、〇、四、四、三
東京鐵道局	七、三、五、三、六、四
仙臺鐵道局	一、二、六、四、八、六、五
札幌鐵道局	三、五、七、四、四、五、九、二
合計	八、四、三、八、〇、五、八、四

電氣

種別	決算額
名古屋鐵道局	六六七,二九八・八
神戸鐵道局	六三六,九〇六・六一八
門司鐵道局	六四二,五二二・三〇九
仙臺鐵道局	四〇一,六三三・四八〇
札幌鐵道局	三八〇,二六三・七七三
電氣信號設備費	
東海道線自動信號設備費	一一四,三九九・七九六
東京電氣事務所	三三,五九二・四〇〇
東京鐵道局	三六一,〇五九・三五五
名古屋鐵道局	八〇三,七三九・〇三九
神戸鐵道局	四五六,九〇〇・四七二
中央線自動信號設備費	一九,二九五・〇五七
東京鐵道局	一九,二九五・〇五七
東北線自動信號設備費	五九,九〇〇・六九一
東京鐵道局	五九,九〇〇・六九一
總武線自動信號設備費	一三七,八五二・四三三
東京鐵道局	一三七,八五二・四三三
信號及保安裝置費	四六七,二九〇・一六
東京鐵道局	二四〇,七四六・八五
名古屋鐵道局	七二,四八九・三三
神戸鐵道局	五三,九三三・四五六

電氣

種別	決算額
門司鐵道局	四三,三〇四・八一四
仙臺鐵道局	二七,五五九・三〇〇
札幌鐵道局	二九,〇七六・四三九
山陽線自動信號設備費	六八〇,五二八
神戸鐵道局	六八〇,五二八
合計	一,九七,八五九・六九〇
東京電氣事務所	三三,五九二・四〇〇
東京鐵道局	八八,八八二・〇九〇
名古屋鐵道局	八六,二六六・六一
神戸鐵道局	一〇〇,一九三・四六六
門司鐵道局	四三,三〇四・八一四
仙臺鐵道局	二七,五五九・三〇〇
札幌鐵道局	二九,〇七六・四三九
電氣復興費	三二八,五〇九・〇二八
通信設備	三三,〇〇〇
本所	三二八,四七六・〇二八
東京鐵道局	九二,七三〇・二九七
號設備	九二,七三〇・二九七
東京鐵道局	九二,七三〇・二九七
合計	四二二,三九三・二五
本所	三三,〇〇〇
東京鐵道局	四二二,三九三・二五

種別	總計	決算額
本省	五,九二四,九九七	三,〇〇〇
東京電氣事務所	三,五〇九,二四〇	
東京鐵道局	二,〇七三,五八九	
名古屋鐵道局	一,五四三,四八二	
神戸鐵道局	七,七二〇,〇六四	
門司鐵道局	六,八八六,二二三	
仙臺鐵道局	四,九一八,二七〇	
札幌鐵道局	四,〇九三,四二二	

通信及信號設備

本年度末ニ於ケル國有鐵道ノ通信線ハ線路亘長一萬四千六百六十一杆、線條延長三十七萬九千三百三杆、電柱二十七萬九千二百五十三本ニシテ之レヲ前年度ニ比スルニ線路亘長六百四十杆(四分七厘)線條延長三萬六千四百九十四杆(一割七分)、電柱一萬二千七十本(四分五厘)ヲ孰レモ増加セリ、而シテ通信回線ニ在リテハ電信回線數四百六十一、此ノ延長五萬六千二十九杆、電話回線數二萬二千、此ノ延長二十九萬二千八百十八杆、信號回線數一萬二千四百十、此ノ延長二十二萬七千四百六十六杆ニシテ之レヲ前年度ニ比スルニ電信回線數十(四分五厘)此ノ延長三百二十杆(六厘)、電話回線數二千八百十九(一割四分三厘)此ノ延長三萬三千一杆(一割二分七厘)ヲ孰レモ増加シ、信號回線數千五百三十二(一割一分)此ノ延長二千二百二十八杆(九分二厘)ヲ減少セリ、以上ノ內信號回線ノ著シク減少セルハ前年度迄合記セル電氣信號踏切道警報設備等ニ屬ス

ル信號回線ヲ除外シタル爲ニシテ實際ニ於テハ各回線共相當増加シ居レリ亦電話回線ノ著シク増加セルハ前年度迄揭記セサリシ構内限リノ電話回線ヲ本年度ヨリ合記セルニ依ル、以上ヲ局別ニ表示スレハ左ノ如シ

種別	通信線路			電信			回線		
	亘長	延長	電柱	回線數	延長	回線數	延長	回線數	延長
東京鐵道局	二,〇〇九	九,二四三	三,八八〇	一三	九,六六	五,八二六	六〇,七五五	二,六〇五	三,四〇〇
名古屋鐵道局	一,七三三	五,四四五	三,五四九	六	一〇,〇〇五	二,四七七	四四,三三四	一,九六一	三,六四五
神戸鐵道局	二,六四四	六,二四六	五,二一六	八	九,七七九	三,〇六一	四四,三六七	二,二二三	四,〇〇〇
門司鐵道局	二,四四〇	五,七六六	四,七八五	三	七,七九	三,三三八	五,一六一	二,四七一	三,九九五
仙臺鐵道局	二,六九二	五,九三三	四,七八九	七	二,一八三	二,九一八	五,〇八五	一,九二七	四,三三三
札幌鐵道局	二,五五三	五,〇三〇	五,〇一九	七	七,九一五	二,五〇一	四,一六六	一,一〇四	三,三三三
合計	一四,一六一	三九,一〇三	二七,二五三	四六	五,〇〇元	二〇,〇三三	二九,二八八	一,二四一〇	二二,七六六
比較年増減度	六四〇	三六,四九四	一一,〇七〇	一〇	三,三〇〇	二,八一九	三三,〇〇一	一,五三三	二,二二六

本年度末ニ於ケル通信機器及電池數ハ電信機二千七百三十七座、電話機三萬八千七百六十八箇、雙信閉塞機一千十九箇、通票閉塞機三千七百六十八箇、電池ハ一次ノモノ二十二萬三千五百八十四箇、二次ノモノ七千六百一十一箇ニシテ前年度ニ比シ電信機四十四座(二分六厘)、電話機四千七百六十三箇(一割四分)、雙信閉塞機八百三十三箇(一割五分)、通票閉塞機百三箇(二分八厘)ヲ孰レモ増加セリ、又電池ニ在リテハ一次一萬七千五百二十五箇(八分五厘)ヲ二次二千四百六箇(四割六分二厘)



ノ増加ヲ示セリ、以上ヲ局別ニ表示スレハ左ノ如シ

種別	電信機	電話機	閉塞機		電次	池
			双信閉塞機	通票閉塞機		
東京鐵道局	五五	九六三	四七	四三	四二八〇	一七〇〇
名古屋鐵道局	三二	四八〇	一五	四九	三、五、五、六	一〇、八
神戸鐵道局	六二	六七九	一六	七三	三、五、七、四	一、六、九〇
門司鐵道局	三五	六〇〇	一六	六七	三、六、三、六	八、四、一
仙臺鐵道局	四六	六、四、三	三	八四	四、八、八	九、四、六
札幌鐵道局	三九	四、九、三	八	五〇	三、〇、七、九	一、三、三、六
合計	二七七	三、六、六、八	一〇、九	三、六、八	二、三、八、四	七、六、一
前年比較増減	四	四、七、三	一、三	一〇、三	一、七、五、五	二、四、〇、六

自働信號設備

本年度ニ於ケル自働信號設備ハ腕木式五百七十七機、色燈式九百二十四機、燈列式四十三機、合計千五百四十四機ニシテ此ノ設備區間四十五萬六千五百六十九米ナリ之ヲ前年度ニ比スレハ腕木式ハ五十五機、八分七厘ヲ減少シ、色燈式ハ四百二十一機、八割三分七厘ヲ燈列式ハ三十機(二十三割八厘)ヲ執レモ増加シ、合計ニ於テ三百九十六機、三割四分五厘ノ増加ヲ示セリ又設備區間ニ在リテハ四萬七千四百三十米(一割一分六厘)ヲ増加セリ、以上ヲ局別ニ表示スレハ左ノ如シ

種別	設備區間	腕木式	色燈式	燈列式	合計
東京鐵道局	一八、八、四、四	四三	七〇	三〇	七、七、四
名古屋鐵道局	七〇、四、七	一〇	一五	三	一、四、五
神戸鐵道局	一七〇、〇、〇	三〇	一八	七	四、六
門司鐵道局	三、三、三	九	二	六	二、九
仙臺鐵道局	—	—	—	—	—
札幌鐵道局	—	—	—	—	—
合計	四、五、五、九	五七	九四	四三	一、五、四、四
前年度比較増減	四、七、三、〇	五	四二	三〇	三、九、六

備考 本表ハ機類ヲ以テ示ス

通信成績

本年度末ニ於ケル鐵道電報取扱驛所ハ二千四百三箇所(内公衆電報取扱驛所九百五十一箇所)ニシテ其ノ取扱ニ依ル電報數ハ鐵道報六千五百四萬八千九百九十一通、公衆報二千二百七十五萬五千九百九十七通、合計七千七百八十八萬四千八百八十八通ニシテ公衆電報取扱手數料ハ五拾八萬四千貳百貳拾四圓ナリ、之ヲ前年度ニ比スルニ鐵道電報取扱驛所ハ六十三箇所(内公衆電報取扱驛所二十三箇所)ヲ増加シ、取扱電報數ニ在リテハ鐵道報ニ於テ二百三十六萬九百五十三通(三分八厘)ヲ増加シ、公衆報ニ於テ一萬八千五百四十一通(一厘)ヲ減少シ、合計ニ於テ二百三十四萬二千四百十二通(三分一厘)ヲ増加セリ、而シテ公衆電報取扱手數料ニ於テハ貳千參百八拾九圓(四厘)ノ増加ヲ示セリ、又一日一驛平均取扱數ヲ觀ルニ鐵道報ニ於テ一通ヲ増加シ、公衆報ニ在リテ

ハ一通ヲ減少セリ以上ノ成績ヲ局別ニ表示セハ左ノ如シ

種 別	取 扱 所		取 扱 電 報 數		一 日 一 驛 平 均 取 扱 數		公 衆 電 報 取 扱 手 數 料
	鐵道電報	同上中 公衆電報	鐵道電報	公衆電報	鐵道電報	公衆電報	
東京鐵道局	三七四	一五〇	一四四,五五六	二,三二七	一〇六	一〇二	九六,六〇
名古屋鐵道局	三〇一	一〇五	二,〇八四,九〇〇	一,九三,四〇一	一〇二	四四	七四,六五〇
神戸鐵道局	四九二	一五	三,七七,六〇〇	二,七六,七六六	三	三九	二九,九九
門司鐵道局	四九	二八	七,九〇,一三九	二,九五,五九九	四八	三七	三九,三〇
仙臺鐵道局	四三〇	一四	二,三七,六〇〇	一,七五,一五二	三	三	七,五〇〇
札幌鐵道局	三五七	一六	七,五,六四〇	一,四六,七三〇	五	二四	六七,四四
合 計	二,四〇三	九五	六五,〇八,九二一	二,七五,一九七	七,八〇四,一八八	七四	五八四,三四
前年度比較増減	三	三三	二,三〇,九五三	一八,五四一	二,三四,四二二	一	二,三九九

第二章 電力關係

概 況

本年度ニ於ケル改良費決算額ヲ示セハ左ノ如シ

種 別	決 算 額
電氣運轉設備費	一,〇九〇,〇七五・六
東京横濱及櫻木町間電氣運轉設備費	五三〇,四二五・三
東京電氣事務所	五三六,六八八・三
東京鐵道局	

品川田端及池袋赤羽間電氣運轉設備費	一,五〇〇,八二六・五
東京電氣事務所	一,〇八,九三二・〇四〇
東京鐵道局	二九一,一五二・五六五
横濱小田原、大船横須賀間電氣運轉設備費	七五七,八五〇・三六一
東京電氣事務所	五七二,一五二・六四〇
東京鐵道局	一八五,六九七・七二
國府津沼津間電氣運轉設備費	四八二,八九六・八
東京電氣事務所	四五六,六二一・八五
熱海線建設事務所	九四〇・三五〇
東京鐵道局	一五,二七〇・九三
横川輕井澤間電氣運轉設備費	一五,二〇八・九六
本 省	四〇一・六〇〇
東京鐵道局	一五,一〇五・九六六
東京大宮間電氣運轉設備費	九六四,五四八・三六一
本 省	四四四・六〇〇
東京電氣事務所	八七,三四五・三六
東京第一改良事務所	六,三〇一・一〇〇
東京鐵道局	八二,四五六・三三
東京國分寺間電氣運轉設備費	一,四七,九五四・三五五
東京電氣事務所	一,〇三〇,三三三・四三
東京鐵道局	一七七八・九三四
國分寺八王子間電氣運轉設備費	一,四,五六〇・三
東京電氣事務所	一,四,五二六・三三

種別	決算額
橫濱線電氣運轉試驗設備費	三九六三〇
東京電氣事務所	七三〇
東京鐵道局	三八五〇〇〇
合計	六二四,四三〇
本省	八四七二〇
東京電氣事務所	四八三,三四八
熱海線建設事務所	九四〇,三五〇
東京第一改良事務所	六三〇,二〇〇
東京鐵道局	一,三三,九九五
發電設備費	一〇八五,〇〇〇
東京火力發電設備費	一〇八五,〇〇〇
本省	一七〇,八一六
發電設備改良費	二二,九九〇
東京鐵道局	一六八,八二六
信濃川水力發電設備費	二〇,七九六
本省	二〇,七九六
合計	一〇一七,四二四
本省	三二八,五二〇
東京鐵道局	一六八,八七二

送電設備費	二四〇,一三三
赤羽、潮田、川崎間送電設備費	三〇〇,四九〇
本省	三九八,二七四
東京電氣事務所	二〇九,一〇〇
潮田二宮間送電設備費	二〇九,一〇〇
東京電氣事務所	六四,二七一
二宮三島間送電設備費	六四,〇九〇
東京電氣事務所	一,八一〇
東京鐵道局	四四,八四三
東京赤羽間送電設備費	四〇,六四一
東京電氣事務所	四,五九六
東京鐵道局	七四,三〇六
東京神奈川間送電設備費	七九,七〇三
東京電氣事務所	四六,三六〇
東京鐵道局	三〇,三四一
品川赤羽及池袋田端間送電設備費	二四,一三七
東京電氣事務所	六,八六九
東京鐵道局	一六,二六二
神田境間送電設備費	一四八,一九三
東京電氣事務所	一三,〇七八
東京鐵道局	二八,七五〇
橫川輕井澤間送電設備費	二八,七五〇
東京鐵道局	二八,七五〇

種別	決算額
合計	二二四五,三三八四
本省	三〇〇,四九〇
東京電氣事務所	二〇三,〇七三・三五九
東京鐵道局	一四,三六〇・一四五
受電設備費	
東京受電設備費	六,八二九五〇
東京電氣事務所	六,八二九五〇
赤羽受電設備費	一三九,二四〇・七三三
東京鐵道局	一三九,二四〇・七三三
川崎受電設備費	一三九,九六〇・〇五
東京電氣事務所	一三九,九六〇・〇五
東京鐵道局	五,七三二・四四〇
東京電氣事務所	一八八,二四六・六九五
東京鐵道局	一八八,二四六・六九五
合計	三九五,〇四八・三〇八
東京電氣事務所	六七,五〇九・五〇
東京鐵道局	三二七,四八七・五五八
電燈電力設備費	
配電線路費	二九五,三八三・三三
本省	二九,二九〇
東京電氣事務所	二八,五〇〇・一〇
東京鐵道局	四,二四三・四五七

名古屋鐵道局	四八,二六三・四八
神戸鐵道局	六八,三七一・五五一
門司鐵道局	五〇,四三三・五〇五
仙臺鐵道局	三四,九二四・一〇
札幌鐵道局	三八,一六・七五一
電燈設備費	三四,四七九・九五九
東京鐵道局	五,六三三・二六九
名古屋鐵道局	三九,四八六・六八七
神戸鐵道局	五八,七〇・九五三
門司鐵道局	二九,五三三・六一
仙臺鐵道局	一〇,七九〇・八七九
札幌鐵道局	二九,三二四・九一〇
電力設備費	六,七七八・五七七
東京鐵道局	一四〇,一三〇・八六六
名古屋鐵道局	六四,二五七・七二
神戸鐵道局	一〇七,二七五・六四
門司鐵道局	一六七,四二九・三三
仙臺鐵道局	七三,八九二・三六〇
札幌鐵道局	六四,八一四・六九〇
合計	一,三二七,四六八・八九
本省	二九,二九〇
東京電氣事務所	二八,五〇〇・一〇
東京鐵道局	三三〇,〇七三・五三

種別	決算額
名古屋鐵道局	一五二,〇七四・七
神戸鐵道局	三四,二七〇・六九
門司鐵道局	二四七,三六六・〇一
仙臺鐵道局	二四,五六六・六九
札幌鐵道局	一三三,二五八・五五
電氣復興費	
電氣運轉設備	四三八,七〇八・七三
東京電氣事務所	三九一,六〇一・九九
東京鐵道局	四七,一〇七・四四
發變電設備	一一〇,一四六・四九
本省	九二,七五〇
東京電氣事務所	五九二,五四〇・四〇
東京鐵道局	六七,五三三・五九
電燈電力設備	一八三,四八八・五七
東京鐵道局	一八,四八八・五七
合計	一,八三三,三三二・八六
本省	九二,七五〇
東京電氣事務所	九八四,一四一・七七
東京鐵道局	八四八,〇七二・九九
總計	二,〇〇六,一九九・〇四

本省	三三,二六二・五〇
東京電氣事務所	七九七,三七五・四九
熱海線建設事務所	九四〇・五〇
東京第一改良事務所	六,三〇一・〇〇
東京鐵道局	三,〇七六・六七・七〇
名古屋鐵道局	一五二,〇二六・四七
神戸鐵道局	三三四,二七〇・六九
門司鐵道局	二四七,三六六・〇一
仙臺鐵道局	二四,五六六・六九
札幌鐵道局	一三三,二五八・五五

電力供給設備

本年度末ニ於ケル發電所ハ八箇所、變電所ハ三十七箇所ニシテ前年度ニ比スルニ發電所ニ在リテハ十五年十一月追分、下富良野ノ二箇所ヲ廢シ、變電所ニ在リテハ十五年七月沙留一箇所ヲ増設セリ、今各發、變電所名ヲ列舉スレハ次ノ如シ

發電所

赤羽、横川、濱松、吹田、鷹取、下關、三内、川室、蘭

變電所

永樂町、沙留、大井町、川崎、神奈川、大船、二宮、大久保、吉祥寺、上野、田端、丸山、矢ヶ崎、名古屋、京都、大阪、湊町、神戸、姫路、岡山、廣島、門司、戸畑、長崎、若松、大井工場、大宮、長野、金澤、小倉、若松工場、武工場、土崎、郡山、旭川、苗穂、釧路

本年度末ニ於ケル電力線路其ノ他發、變電設備車輛工場ノ分ヲ除クハ左表ニ示スカ如ク線路亘

長五百二十九萬四百一米、同延長千四百六十萬九千四百四十一米、電柱十二萬四千二百二十五本ニシテ前年度ニ比シ亘長ニ於テ三十七萬六千九百五十四米(七分七厘)ヲ延長ニ於テ百六十六萬三千七百八十一米(一割二分九厘)ヲ電柱ニ在リテハ一萬一千三百三十三本(一割)ヲ執レモ増加セリ、次ニ發、變電設備機器ニ在リテハ原動機十四個、此ノ總容量三萬九千九百九十二馬力、發電機及變成機ニ在リテハ其總數二百一箇、此ノ總容量十萬八千四百十四「キロワット」又變壓器ニ在リテハ百八十六箇、此ノ總容量十一萬六千七百五十四「キロボルトアムペア」ナリ、之ヲ前年度ニ比スルニ原動機ニ在リテハ箇數ニ於テ三箇(一割七分六厘)ヲ總容量ニ於テ四十一馬力(一厘)ヲ共ニ減シ、發電機及變成機ニ在リテハ箇數ニ於テ十九箇(一割四厘)ヲ總容量ニ於テ一萬五千二百五十七「キロワット」(二割六分四厘)ヲ共ニ増加シ、變壓器ニ在リテハ箇數ニ於テ十五箇(七分五厘)ヲ減シ、總容量ニ於テ三萬五千四百二十九「キロボルトアムペア」ヲ増加セリ、上述ノ如ク原動機ニ於テ些少ノ減少ヲ示セルヲ除キ東海道線電化ノ進捗其ノ他電氣設備ノ擴張ニ伴ヒ執レモ其ノ數量増加セリ、以上ヲ局別ニ表示スレハ左ノ如シ

種別	線路延長	電柱	原動機		發電機及變成機		變壓器	
			箇數	總容量	箇數	總容量	箇數	總容量
東京鐵道局	二,〇九四,四六六	六,二九九,五七六	六	二九,五五〇	一一	一〇,七二五	二	二四,九三三
名古屋鐵道局	六,九三〇,〇六〇	二,〇〇四,五五〇	一	二	一五	一〇,一〇〇	三	一〇,三三三
神戸鐵道局	八〇三,一五四	二,一〇七,四五四	二	三〇〇	一五	五三七	四	一〇,三三三
門司鐵道局	六四,五六八	一,七六一,〇〇〇	一	八〇	一九	八三六	三	六〇
仙臺鐵道局	六〇,九〇〇	一,三九九,八八六	三	九〇〇	一八	七〇三	九	六七五

比較年	前	後	札幌鐵道局		合		
			計	度	計	度	
前	四〇七,二七三	九四六,九五五	一一,二八八	一	一五〇	一三	二二三
年	五,一九〇,四〇一	一,四六〇,九四一	二四,一二五	一四	三〇,九九二	二〇	一〇,八二四
比	三六,九五四	一六,三三六	一一,三三三	△	三	△	一五,二五七
較							
增							
減							
度							

備考 本表ニハ車輛工場ノ分ヲ合マス

電力使用設備及電力供給成績

本年度末ニ於ケル驛所其ノ他ニ設備セル電燈及電動機ハ白熱燈二十七萬五千七百六十四燈此ノ總容量九百十六萬八千八百「ワット」ニシテ電動機ハ一千八百四十六箇、此ノ總馬力數一萬一千二百十二馬力ナリ之ヲ前年度ニ比スルニ白熱燈ハ燈數ニ於テ三萬八千八百五十七燈(一割六分四厘)ヲ總容量百四十一萬一千五百十六「ワット」(一割八分二厘)ヲ増加セリ、電動機ニ在リテハ箇數ニ於テ四百四十六箇(三割一分八厘)ヲ總馬力數ニ於テ三千五百八十八馬力(四割七分一厘)ヲ執レモ増加セリ、蓋シ以上ノ増加セル原因ハ油燈ノ電化並驛所其ノ他ニ於ケル電機設備ノ増加ニ因ルモノナリ

而シテ自營發電所ノ供給電力量ハ四千七百七十五萬四千八百八十「キロワット」時シテ之ニ要セシ經費ノ總額ハ九拾貳萬五千五百六拾九圓ナリ、此ノ内副生品生産額壹千九百六拾四圓ヲ控除スレハ純費額九拾貳萬參千六百五圓ニシテ、「キロワット」時當リ純費額ハ壹錢九厘五毛ニ當レリ之ヲ前年度末ニ比スレハ供給電力量ニ於テ五百三十七萬四千五百五「キロワット」時(一割二分九厘)ヲ増加セリ、而シテ經費總額ニ於テ貳拾九萬貳千九百八圓(二割四分)ヲ、副生品生産額五萬五千七拾九圓(九割六分六厘)純費額貳拾萬六千九百參拾貳圓(一割八分三厘)ヲ執レモ減少シタル結果一「キロワット」時當リ經費モ亦七厘四毛(二割七分三厘)ヲ減少セリ、以上一「キロワット」時當リ費額

ノ低下セル主ナル原因ハ發電所ノ出力量激増セルニ因ル  
 次ニ自營變電所ニ於ケル供給電力量ハ一億四千三百一萬八千二百二十四キロワット時ニシテ所  
 要經費總額ハ四百四拾六萬八千九百壹圓ナリ此ノ内副生品生産額貳萬七千參百六拾圓ヲ控除  
 スレハ純費額ハ四百四拾四萬壹千五百四拾壹圓トナリ供給電力量一「キロワット」時當リ純經費  
 參錢壹厘強トナル之ヲ前年度末ニ比スルニ供給電力量ニ於テ四千八十八萬六千三百七十一「キ  
 ロワット」時四割ヲ、經費總額ニ在リテハ八拾五萬七百七拾六圓(二割三分五厘)ヲ、副生品生産額壹  
 萬七千七百七拾八圓十六割八分七厘ヲ、純費額ニ於テハ八拾參萬參千五百九拾九圓(二割三分一厘)  
 ヲ各増加シタレトモ結局供給電力量一「キロワット」時當リ純經費ハ四厘貳毛強(一割二分一厘)ヲ  
 減少セリ、以上ノ内變電所ノ供給電力量並經費ノ増加セルハ電車運轉回數及連結輛數ノ増加並  
 電氣機關車運轉回數増加ノ結果ニ因ル、以上ヲ局別ニ表示スレハ左ノ如シ

種別	電力使用設備		電力供給設備	
	白熱燈 筒數	電動機 筒數	發電所 純經費	變電所 純經費
東京鐵道局	七五、九三	二八七、二〇〇	八四〇、八三七	三〇、三五
名古屋鐵道局	三、三三	一、二六、九八〇	一、九〇五	三、八〇、三四一
神戸鐵道局	四六、九〇	一、四三、三六五	三、〇五、九二五	一〇四、六六
門司鐵道局	四六、四七	一、七〇、五三〇	四、八三、二七	一九、六八六
仙臺鐵道局	三三、四〇	九、三六、九〇	五、三〇、五〇	二八、三六四
札幌鐵道局	三三、八六	一、〇五、三三五	一、七、六九	五、五、八九二
合計	二七、七、七四	九、六、八、八〇	一九、九、九	四、四、四、五、四一
前年	二、八、七	一、四、一、五、六	四、七、四七	八、三、五、九
比較増減	二、八、七	一、四、一、五、六	四、七、四七	八、三、五、九

備考 電燈及電動機ニハ工場ニ於ケルモノヲ含マズ

列車電燈設備並成績

レハ左ノ如シ

本年度末ニ於ケル列車電燈所數ハ四十二箇所ニシテ其ノ名稱ヲ舉ク

- 東京飯田町、貝塚、高崎、兩國橋、宇都宮、水戸、名古屋、靜岡、甲府、長野、敦賀、梅小路、大  
 阪、神戸、湊町、奈良、姫路、岡山、福知山、出雲、今市、高松、下關、門司、長崎、鹿兒島、大分、仙臺、福  
 島、山形、秋田、盛岡、青森、新潟、函館、札幌、室蘭、旭川、釧路、野付、牛、稚内

右ノ外高知電力區ニテ列車電燈所業務ヲ兼務ス

而シテ各所ニ從事スル人員ハ本務者一千五百九十八人、兼務者四十人、合計一千六百三十八人ナ  
 リ  
 本年度末ニ於ケル列車電燈設備ハ電燈裝置車輛八千九百一十一輛「ボギ」車ニ換算七千五百二十  
 一輛之ニ對スル車内裝置電燈數八萬四千九百六十六箇ニシテ總燭力百三十萬二千七百四十二  
 燭ナリ、之ヲ前年度ニ比スルニ車輛ハ「ボギ」車五百八十一輛(六分五厘)ヲ増加シ四輪車五百五十  
 四輛(六分二厘)ヲ減少セリ以上ハ四輪車ノ廢車ニ對シ「ボギ」車ヲ新造補充スルヲ以テ差引二十  
 七輛(三厘)ノ増加ヲ示セリ、尙「ボギ」車ノ換算輛數ニテ前年度ト比較スルニ三百九十六輛(五分三  
 厘)ヲ増加セリ、之レニ取付タル電燈數ハ六千七百二十四箇(七分九厘)燭力二十二萬三千四百四十  
 六燭(一割七分二厘)ヲ執レモ増加セリ、燈數七分九厘ノ増加ニ對シ燭力一割七分二厘ノ激増ハ前

年度ニ於テハ設備電球ヲ全部タンゲステン電球トシテ計上シ、本年度ニ於テ瓦斯入電球ヲ設備セル車輛ハ同電球ヲ水平燭光ニ換算計上セルニ因ル、而シテ右電燈點火ニ要スル發電機三千八百八十四臺ニシテ蓄電池九萬六千二百七箇ナリ、之レヲ前年度ニ比較スルニ發電機三百七十一臺、九分六厘蓄電池九千七百七十五箇(一割一分九厘)ノ増加ヲ示セリ、之レ主トシテ新製車建造及油燈ヲ電燈ニ改造セルニ因ルモノナリ、更ニ以上ノ電燈其ノ他ニ對スル電燈裝置車輛一輛當リノ割合ヲ觀ルニ電燈數十一箇三分前年度比較三分ノ増燭力百七十三燭二分前年度比較二十一分燭七分増之レ四輪車ノ廢車ニ對シボギ一車ヲ新造充當セルニ因ルニシテ發電機五分前年度比較ナシ蓄電池十二箇前年度電比較七分増ナリ、又以上ノ設備ニ本年度中ニ要セシ經費ノ總額貳百參拾七萬參千八百八拾圓ニシテ一輛當リ(ボギ一車ニ換算セル輛數)ノ經費參百拾五圓五拾四錢、一燈當リ經費貳拾七圓九拾參錢壹厘ナリ、之レヲ前年度ニ比スルニ經費總額ニ於テ六千參百貳拾壹圓(三厘)ヲ増シ一輛當リ經費拾六圓六拾五錢壹厘ヲ、一燈當リ經費貳圓參拾九錢九厘ヲ孰レモ減セリ、而シテ經費總額ノ前年度ヨリ増加セルハ列車運轉區間及運轉回數ノ増加ニ伴フ車輛ノ新造並油燈ヲ電燈ニ改造セル等ニ基因スルモノナリ、以上ヲ局別ニ表示スレハ左ノ如シ

局 別	電燈裝置車輛			一 輛 當 り		經費總額		一輛當リ一燈當リ	
	輛數	燈數	燭 力	發電機	蓄電池	燈數	燭力	經費	經費
東京鐵道局	一八四六	三、七六一	三、四九二	一〇、五	二、四六四	二、三三	一、七五八	七〇、三三三	三八〇、六〇八
名古屋鐵道局	一、〇四六	一一、二二	一六、〇七四	五、二	二、四六五	一、〇六	一、五八八	三八、五二九	三、四〇七
神戸鐵道局	一、七五四	二〇、二四九	三、七五七	八、七	一、八九〇	二、一五	一、九一五	五〇、三三五	二、六六四
門司鐵道局	一、二八九	一三、八七八	二、二〇四	六、五	一、四六二	一、〇八	一、六四五	三六、四九七	二、八二七

局 別	電燈裝置車輛			一 輛 當 り		經費總額		一輛當リ一燈當リ	
	輛數	燈數	燭 力	發電機	蓄電池	燈數	燭力	經費	經費
仙臺鐵道局	九、九	一〇、二五三	一、五、七五	五、四	二、一、九三	一、〇四	一、五五	二九〇、二五	二、九、七
札幌鐵道局	五、九五	六、七四	一〇、六、三七	三、五	七、八、三六	二、四	一、七、八	一、八、三、四一	三〇、八、二六
合 計	七、五二	八、四、九六	一、三〇、七、四二	三、八、四	九、〇、六、七	二、一、三	一、七、三、二	二、三、七、三、一八〇	三、五、五、四〇
前 年	七、五二	八、四、九六	一、三〇、七、四二	三、八、四	九、〇、六、七	二、一、三	一、七、三、二	二、三、七、三、一八〇	三、五、五、四〇
比 較	三、九六	六、七四	二、三、四、四六	三、七	九、七、五	三	二、二七	六、三、二	△一、六、六、五
増 減									△二、三、九

備考

一、輛數ハボギ一車ニ換算シタル輛數ヲ示ス  
 一、四輪車ハ總テ之ヲボギ一車ニ換算シ四輪車三輛ヲ以テボギ一車一輛ノ割合トセリ  
 一、一輛當リ燭力ノ前年度ニ比シ増減セシハ四輪車力廢車トナリ新造ボギ一車ヲ充當セシニ因ル  
 一、尙燭力算出方法ハ前年度ニ於テハ設備電球ヲタンゲステン電球トシテ計上セルモ本年度ニ於テハ瓦斯入電球ヲ水平燭光ニ換算計上セリ(東鐵ハ前年度通)二十五ワットハ二十三燭光、三十ワットハ二十八燭光、四十ワットハ三十七燭光ナリ

### 電氣列車電動機設備

本年度末ニ於ケル電車用電動機ハ四十「キロワット」、七十「キロワット」及百「キロワット」ノ三種ニシテ其ノ總數量ハ電動車三百五十一輛ニ對シテ千四百四箇總出力ハ十二萬七千八百「キロワット」ニシテ前年度末ニ比シ數量ニ於テ二百十六箇(一割三分三厘)ヲ減少シ總出力ニ於テ五千七百六十「キロワット」(四分七厘)ヲ増加セリ

數量カ減シタルニ拘ラス出力ノ増加セルハ四十「キロワット」電動機付電車ヲ減シ百「キロワット」電動機付電車ヲ増備セシ結果ナリ又電氣機關車用電動機ハ其ノ種類極メテ多ク六十四「キロワット」乃至三百七十五「キロワット」モノヲ有シ其ノ總數量ハ機關車八十九輛ニ對シテ三百十八箇、總出力ハ六萬九千九百九十六「キロワット」ニシテ前年度末ニ比シ數量ニ於テ四十六箇(一割六分九厘)ヲ、總出力ニ於テ八千七百十六「キロワット」(一割四分四厘)ヲ増加セリ、之レ主トシテ東海道線



及碓氷線用電氣機關車ヲ增備セル結果ニシテ以上ノ概要ヲ表示スレハ左ノ如シ

種別	電動		機械		前年度比較増減	
	數量	出力	數量	出力	數量	出力
東京鐵道局 電氣機關車	1,204 38	27,800 6,916	▲ 26 46	5,760 876		

第七編 經理

第一章 資本勘定

本年度ニ於ケル資本勘定歳入決算額ハ壹億九千五百四拾萬九千貳百九拾八圓歳出決算額ハ貳億百貳拾五萬五千拾參圓ニシテ前年度ニ比シ歳入ニ於テハ百貳拾壹萬九千六百六拾貳圓ヲ減少シ歳出ニ於テハ千六百六萬九千八百八圓ヲ増加セリ之レ歳入ニアリテハ公債金、雜收入及用勘定過剩金繰入ニ於テ増加セルモ鐵道益金繰入ニ於テ減少シタルニ因リ歳出ニアリテハ建設費、改良費及國債償還金ニ於テ孰レモ増加シタルニ因ル

今既往三箇年度間ニ於ケル本勘定歳入歳出決算額ヲ表示セハ左ノ如シ

種別	昭和元年度	大正十四年度	大正十三年度
鐵道資金收入	191,911,400	195,445,041	181,326,941
用品勘定過剩金繰入	3,497,866	11,839,919	3,441,250
合計	195,409,266	217,284,960	184,768,191

種別	昭和元年度	大正十四年度	大正十三年度
鐵道建設及改良費	101,374,590	190,812,700	189,932,522
國債償還金	27,554	3,935	7,270
合計	101,402,144	194,748,635	197,202,792

第二章 用品勘定

本年度ニ於ケル用品勘定歳入決算額ハ壹億八千九百四拾九萬千六百六拾參圓歳出決算額ハ壹億九千貳百七拾七萬九千八百四拾壹圓ニシテ之ヲ前年度ニ比較スレハ歳入ニ於テ參百貳萬九百八拾四圓歳出ニ於テ千六百六萬五千四百貳拾圓ヲ増加セリ之レ歳入ニアリテハ用品修繕料及雜收入ニ於テ減少セルモ用品賣拂代及電力料ニ於テ増加シタルニ因リ歳出ニアリテハ諸拂戻金ニ於テ減少セルモ用品費、工作費及電氣費ニ於テ孰レモ増加セルニ因ル

今既往三箇年度間ニ於ケル本勘定歳入歳出決算額ヲ表示セハ左ノ如シ

種別	昭和元年度	大正十四年度	大正十三年度
鐵道用品及工作收入	189,491,663	186,470,699	184,488,594
鐵道用品及工作費	19,779,841	18,744,422	18,903,064

第三章 收益勘定

本年度ニ於ケル收益勘定歳入決算額ハ五億六千貳百四拾八萬五千貳百五拾貳圓歳出決算額ハ四億參千五百七拾七萬七千九百七拾參圓ニシテ之ヲ前年度ニ比較スレハ歳入ニ於テ五萬五千六百七拾壹

經理

圓ヲ減少シ歲出ニ於テハ千貳百貳拾九萬五千七百參拾七圓ヲ增加セリ、之レ歲入ニアリテハ運輸收入ニ於テ增加セルモ雜收入並假收入及立替金受入ニ於テ減少シタルニ因リ、歲出ニアリテハ通行稅廢止ニ伴ヒ同拂戻金ニ於テ減少シタルモ事業ノ增進、國債額並地方鐵道ノ補助增加等ノ結果之等ノ經費ヲ增加セルニ因ル

今既往三箇年度間ニ於ケル本勘定歲入歲出決算額ヲ表示セハ左ノ如シ

種別	昭和元年度			大正十四年度			大正十三年度		
	運輸收入	雜收入	假收入及立替金受入	運輸收入	雜收入	假收入及立替金受入	運輸收入	雜收入	假收入及立替金受入
歲入	478,249.96	789,133	76,348.95	474,485.23	796,275	80,921.90	465,633.53	714,812.33	77,518.22
合計	562,485.21	27,674.51	71,190.53	552,540.93	25,549.93	67,931.93	550,733.58	27,877.98	65,295.03
歲出	76,761.96	40,000	4,961.83	81,781.22	40,000	4,151.69	77,387.70	40,000	4,151.69
合計	431,577.93	40,000	4,961.83	449,282.36	40,000	4,151.69	440,544.83	40,000	4,151.69
差引益金	130,907.29			125,202.87			29,889.35		

次ニ本年度ニ於ケル純營業收支ノ差即チ鐵道總益金ハ貳億千參百貳拾四萬參千九百五拾八圓ニシテ之ヲ年度首資本總額貳拾五億拾五萬四千六百九圓ニ對スレハ八分五厘ニ當リ之ヲ前年度ノ割合

ニ比較スレハ一分減トナル

而シテ本年度ニ於ケル純益金ハ右總益金ヨリ鐵道軌道監督及線路調査費補充費、利子及債務取扱諸費、地方鐵道補助ヲ控除シタル殘額ニシテ即チ壹億參千九拾萬七千貳百七拾九圓ナリトス

種別	昭和元年度			大正十四年度			大正十三年度		
	營業收入	營業支出	差引總益金	營業收入	營業支出	差引總益金	營業收入	營業支出	差引總益金
收入	484,081.95	484,081.95	0	480,480.72	351,807	128,673.72	470,931.26	399,666	71,265.26
支出	270,838.98	223,433.95	46,405.03	259,497.70	221,361.91	38,135.79	266,133.68	204,698.58	61,435.10
差引總益金	213,242.97	160,647.97	52,594.99	220,983.02	131,335.71	89,647.31	204,797.58	194,968.12	109,829.46
再差引純益金	130,907.29			125,202.87			29,889.35		

叙上ノ成績ニ依リ更ニ營業一日一哩ノ收支及益金並收支割合ヲ表示セハ左ノ如シ

種別	平均一日ノ收支		平均營業一哩ノ收支		平均一日一哩ノ收支	
	昭和元年度	大正十四年度	昭和元年度	大正十四年度	昭和元年度	大正十四年度
營業收入	1,326,546.74	1,316,338.47	6,123,996	6,244,645	17,749.0	17,000

經理

種別	平均一日ノ收支		平均營業一哩ノ收支		平均一日一哩ノ收支	
	昭和元年度	大正十四年度	昭和元年度	大正十四年度	昭和元年度	大正十四年度
營業費	七四,〇四六・五二	七〇,七九三・七五	三,四二〇・三三	三,七〇三・五七	九,七〇九	九,三三八
營業收入ノ對スル割合	五四,〇〇〇・〇〇	六〇,五五二・〇〇	二六,九二〇・一八	二八,七二二・三六	三,七六一	六,六六二
營業益	一九,〇四六・五二	一九,二四一・七五	八,四九九・一五	八,三八〇・二一	五,九八八	二,六二六

### 第四章 鐵道資本及固定財産

#### 資本

本年度ニ於ケル資本ハ鐵道益金繰入、公債金借入金其ノ他ニ於テ貳億千參百拾六萬參千百六拾壹圓ヲ増加シタルモ改良及補充工事ノ爲撤去シタル財産ノ價額並讓渡シタル土地物件ノ價額等ニ於テ貳千四百六拾四萬八千五百五拾四圓ヲ減少シタルヲ以テ差引壹億八千八百五拾壹萬五千七圓ヲ増加セリ

而シテ本年度末ニ於ケル資本總額ハ前記差引増加額ニ本年度首ニ於ケル資本總額貳拾五億拾五萬四千六百九圓ヲ合算シタル貳拾六億八千八百六拾六萬九千六百拾六圓ナリトス

今本年度ニ於ケル資本ノ増減並最近二箇年度ノ資本總額ヲ示セハ左ノ如シ

種別	特有資本	借入資本	合計
本年度首ノ價額	一,〇九六,七〇七・〇〇	一,四〇四,四三九・〇〇	二,五〇一,一四六・〇〇
本年度中増	一四八,五〇五・〇〇	六四,六六一・〇〇	二三三,一六六・〇〇
本年度中減	二四六,八八六	二九,二八八	二四六,一七四
差引年度末價額	一,三〇八,三二六	一,四六八,〇四二	二,七七六,三六八

大正十四年度末價額	一,〇九六,七〇七・〇〇	一,四〇四,四三九・〇〇	二,五〇一,一四六・〇〇
大正十三年度末價額	九六,七五五・〇〇	一,三六四,七二八	一,四六一,四八三

#### 固定財産

本年度首ニ於ケル固定財産總價額ハ貳拾四億五千參百九萬貳千四百九拾貳圓ニシテ本年度中増加額ハ貳億千四百貳拾貳萬五百七拾六圓ナルモ土地讓渡其ノ他ニ於テ千九百八拾五萬九千八百五拾五圓ヲ減少シタルヲ以テ年度末ニ於ケル固定財産ハ貳拾六億四千七百四拾五萬參千貳百拾參圓ナリ更ニ之カ内譯ヲ表示セハ左ノ如シ

種別	年度首價額	本年度中増加額			本年度中減少額	合計
		建設費	改良費	補充費		
昭和元年度	二,四三三,〇九二・四九	四七,九五三・四〇	一五,一七四・〇九	五,四四二・五〇	六八,六〇〇・〇〇	二,五〇一,六九二・四九
大正十四年度	二,八二二,九一八・九三	四七,七二二・九一	一四,五〇九・〇七	五,六八五・四三	二,三八二,六六〇	二,九〇五,〇九二・四九
大正十三年度	二,〇〇八,四二八・二四	五七,二九一・七四	一三,六四〇・六七	六,二八六・〇六	—	二,〇六五,七一五・〇〇

### 第五章 倉庫

#### 用品資金

本年度ニ於ケル用品勘定ハ次表ニ示スカ如ク貯藏物品貳千八百四拾參萬六千七百七圓工場勘定參拾七萬八千六百八拾參圓ニシテ前年度ニ比シ前者ハ四百拾七萬九千五百參拾四圓(二割七分二厘)後者ハ壹萬四千八百八圓(三分八厘)ヲ増加セリ

資本勘定繰入參百四拾九萬七千八百六拾七圓ハ震災ニ因リ債主不明ノ儘時効ニカカリタル支出未済額貳百拾參萬七千六百六拾五圓ヲ用品勘定ノ利益ニ組入レタルモノヲ含ム勘定ノ内譯次

勘定科目	昭和元年度			大正十四年度			比較増減
	貯藏物品	工場勘定	現未濟	借方計	貸方計	資本勘定ニ繰入	
貯藏物品	二六,四三六,〇七	三六,六三三	七,二九一,五〇	二四,二五五,五七	三六,四,五七五	四,一七九,五〇	▲
工場勘定	三八,六三三	八,五九九	三,九四三,九四	二,七三三,六六七	五,九九九	一四,一〇八	▲
現未濟	七,二九一,五〇	三,三三六,四三	三,三三六,四三	三,三三六,四三	三,三三六,四三	四,四七,〇九七	▲
借方計	三六,六三三	三,三三六,四三	三,三三六,四三	二,九三,九四三	一,一八三,九九	二,九三,九四三	▲
貸方計	三,三三六,四三	三,三三六,四三	三,三三六,四三	三,三三六,四三	三,三三六,四三	二,二八,八六五	▲
資本勘定ニ繰入	三,三三六,四三	三,三三六,四三	三,三三六,四三	三,三三六,四三	三,三三六,四三	二,二八,八六五	▲

**決算品** 本年度ニ於ケル決算品現在高ハ貳千九百六拾六萬四千貳拾五圓ニシテ前年度ニ比シ貳百拾貳萬九千八百參拾貳圓七分七厘ヲ増加セリ、費目別比較表左ノ如シ

費目	本年度		前年度		比較増減
	建設費	改良費	建設費	改良費	
建設費	四八〇,五〇二	二〇三,四,五九九	五,五八,四五四	一七,三九,〇三	▲
改良費	三,一五,四六	二,三七,七二	三,一五,四六	二,三七,七二	▲
作業費	四,五八,九四	二,七,五四,一	四,七,四六,六六	二,七,五四,一	▲
合計	四,八〇,五〇二	二,〇三,四,五九九	五,五八,四五四	一七,三九,〇三	▲

**物品購入** 本年度ニ於テ締結シタル物品購入及製作請負契約ハ次表ニ示スカ如ク總額壹億七千四百七萬八千六百貳拾七圓ニシテ前年度ニ比シ壹千參百八拾九萬六千九百六拾七圓(八分六厘)

(内國注文ニ於テ壹千參百七拾參萬九千七百圓、外國注文ニ於テ拾五萬七千貳百六拾七圓)ヲ増加セリ  
 之單價ハ概シテ下落セルモ契約數量増加セルニ基因スルモノトス例ヘハ空氣制動裝置用品ニ於テ六百六拾四萬參千七拾九圓(三分八厘)客車及電車ノ數ニ於テ百三十輛價格參百七拾五萬貳百五拾壹圓(二分二厘)セメントノ數量ニ於テ五十八萬三千樽價格貳百九拾壹萬九千百參拾貳圓(二分二厘)ヲ増加セルカ如シ  
 今總額ニ對スル割合ヲ見ルニ内國注文ハ九割八分一厘、外國注文ハ一分九厘ニ當ル概要次表ノ如シ

種別	内國注文		外國注文		合計
	本年度	前年度	本年度	前年度	
比較増減	一七〇,八五,四一九	一五七,〇六,五七九	三,二七三,〇八	三,二一五,九四一	一七四,〇七,六二七
比較増減	一三,七九,七〇〇	一三,七九,七〇〇	一五七,二六七	一五七,二六七	一三,八六,六六七

第八編 監督  
 第一章 地方鐵道  
 第一節 線路

**免許及失効** 本年度ニ於テ敷設ヲ免許セシ鐵道六十四、此ノ哩程五百八十哩七鎮、建設費豫算七千九百四拾參萬五千七百八拾貳圓ニシテ之ヲ前年度ニ比スルニ鐵道數ニ於テ三十二、哩數ニ於テ三百十八哩二十四鎮ヲ増加シタルモ建設費豫算ニ於テハ却テ壹億參千七百四拾壹萬貳千六百七拾六圓ヲ減少セリ、而シテ建設費豫算ノ激減ハ前年度東京市電氣局ヘ免許ノ地下鐵道(四十哩四十鎮)壹億八千七百貳萬圓アリシニ基因スルモノナリ、次ニ敷設免許ノ失効シタルモノ二十一、此ノ哩數百四十三哩十二鎮、建設費豫算壹千四百壹萬六千貳百參拾六圓ニシテ前年度ニ比シ鐵道數三ヲ増シタルモ、哩數十八哩四十九鎮、建設費豫算四百九拾七萬七拾九圓ヲ減セリ、今之等免許及失効ヲ動力別ニ示セハ左ノ如シ

種別	免許		失効	
	鐵道數	哩數	鐵道數	哩數
蒸氣	一九	二〇、二六六	一三	一〇、一八
電氣	四	三、五九四	一	四〇、三四
蒸氣電氣併用	一	一七、六〇	一	一、四〇
合計	六	五八、〇七	三	一四、三二
前年度比較増減	三	三、八二四	△	一、八四九
建設費豫算	二、三五、五〇〇	九、八六、一〇〇	一、〇、一八	三、七〇、四二九
鐵道建設費豫算	五、四、三〇、七七一	四〇、三四	一、四〇	四、五〇、〇〇〇
建設費豫算	五、〇〇、〇〇〇	一、四〇、六三六	一、四〇、六三六	四、九七、〇〇七

**年度中開業線路**

本年度ニ於テ新ニ運輸營業ヲ開始セシ鐵道數十八、此ノ哩程百三十一哩、四十三鎮、開業線ヲ更ニ延長セシ鐵道數三十一、此ノ哩程百六十六哩七十五鎮ニシテ兩者計ヲ前年度ニ比スルニ鐵道數十、哩數九十二哩六十七鎮ヲ増加シ財界不況時ニ却テ鐵道建設ノ盛ナルヲ示

セリ、更ニ之ヲ動力別ニ示セハ左ノ如シ

種別	鐵道數		哩數	
	鐵道數	哩數	鐵道數	哩數
蒸氣	〇	〇	一八	六、五〇三
電氣	〇	〇	三〇	九、八六八
蒸氣電氣併用	〇	〇	二一	五、五〇一
合計	〇	〇	三九	二〇、〇七二
前年度比較増減	〇	〇	三	一、六六五

備考

一、〇印ハ本年度ニ於テ新ニ開業シタル鐵道ヲ示ス  
二、鐵道數ノ計カ内譯ト一致セサルハ一鐵道ニシテ二動力ヲ有スルモノアルニ因ル(以下做之)

**年度末現在開業線路**

本年度末現在ノ地方鐵道開業線路ハ鐵道數二百十九、哩數三千三百三十七哩五十八鎮ニシテ此ノ建設費豫算四億九千貳百八拾參圓ナリ、之ヲ前年度ニ比較スルニ鐵道數十七、哩數二百九十哩三十二鎮、建設費豫算九千六百貳拾參萬八千四百貳拾六圓ヲ孰レモ増加セリ、而シテ哩數ニ比シ建設費ノ著シキ増加ハ主トシテ既設線改良費ニ投セラレシモノヲ含ムニ因ル、更ニ之ヲ動力別ニ表示スレハ左ノ如シ

種別	鐵道數	哩數		建設費豫算
		線	二線以上	
蒸氣	一四	二、九三、一〇〇	一三六	二、四〇、〇七九
電氣	一	一、七六〇	一三六	二、九〇、〇〇〇
合計	一五	四、六九一	二七二	五、三〇、〇七九

種別	鐵道數	哩			建設費豫算
		單線	二線以上	計	
電氣併用	三	五三三	一九七〇三	七〇四二	一九七五、七五
蒸氣併用	三	三六三	四二〇四	四二〇五	五、二七、六三
合計	二九	三、〇八、七〇	二五、二六八	三、三、七五八	四九、二〇八、〇三
前年度比較増減	一七	二四、一七	四九〇五	二九〇三	九六、三、八四六

年度末現在未開業線路

本年度末ニ於ケル地方鐵道ノ未開業線路ハ鐵道數二百二十五哩數ニ比較スルニ鐵道數十一哩數百五十三哩三十九鎖建設費豫算參千參百貳拾七萬五千六百五拾貳圓ヲ各増加セリ更ニ之カ詳細ヲ動力別ニ表示スレハ左ノ如シ

種別	鐵道數	哩	數	建設費豫算
蒸氣併用	九	一、三、七、四四	一、四、七、二〇	一、四、五、四四、一五
電氣併用	二	二九	七、六八	五、二、一、九、五三
瓦斯併用	二	二九六〇	二九六〇	一、四、四、〇〇〇
合計	三三	二九、七、三三	二九、七、三三	一、四、〇、〇〇〇
前年度比較増減	二	一、五、三、九	一、五、三、九	三、三、七、五、六五二

第二節 運輸並運轉成績

列車哩

本年度ニ於ケル地方鐵道ノ列車哩ハ總計一千五百十八萬二千七百六十五哩ニシテ内旅客列車哩百四十三萬二千八百二十三哩、貨物列車哩二百六十九萬一千四百五十七哩、混合列車哩一千百五萬八千四百八十五哩ナリ、今之ヲ前年度ニ比較スルニ旅客列車哩十三萬四千六百六哩、貨物列車哩五十四萬二千七百三十一哩、混合列車哩十萬二千九十一哩合計ニ於テ七十七萬九千四百二十八哩ヲ孰レモ増加セリ、而シテ總列車哩中混合列車哩ハ七割二分八厘ヲ占ムルモ之ヲ前年度ノ七割六分一厘前々年度ノ七割六分九厘ニ比スル時ハ年々減少ノ趨勢ニアリ、更ニ動力別内譯ヲ表示スレハ左ノ如シ

種別	旅客列車	貨物列車	混合列車	合計
蒸氣併用	五九〇九	五、六、九、九一	九、六、三、五、八三	一〇、七、四、八、六二
電氣併用	五、六、五、九〇	一、一、五、九、四、八七	四、六、九、〇、六三	一、六、五、五、二二
瓦斯併用	八、六、四、一、二二	七、四、六、一、三〇	一、六、〇、〇、五、五二	二、六、二、三、九一
合計	一、四、三、八、三三	二、六、九、一、四、五七	一、一、〇、五、八、四、八五	一、五、一、八、二、七、五
前年度比較増減	一、四、六、〇、六	五、四、二、七、三一	一〇、一、〇、九、一	七、九、四、三、六

備考

- 一、電機ハ電氣機關車牽引「瓦機」ハ瓦斯機關車牽引ヲ其ノ他ハ蒸氣機關車牽引ノ列車哩トス
- 二、電動車及汽動車ノ走行哩ヲ含マヌ
- 三、本表以下第五節迄ハ各會社年度ノ合計ニ依ル(非會計年度)但シ第二節中事故關係ハ大正十五年四月一日ヨリ昭和二年三月末日迄ノ事實ヲ掲上セリ

車輛哩

本年度ニ於ケル地方鐵道ノ車輛哩ハ客車走行哩九千五百二十三萬六千五百七十九哩貨車走行哩六千六百八十五萬九千六百五哩合計一億六千二百九萬六千八百八十四哩ニシテ前年度ニ比シ客車走行哩ハ七百三十四萬四千九百八十五哩貨車走行哩五百九十八萬九千四百七十一哩合計ニ於テ一千三百三十三萬四千四百五十六哩ヲ増加セリ更ニ以上ノ成績ヲ動力別ニ表示スレハ左ノ如シ

種別	客車走行哩	貨車走行哩	合計
蒸氣	三七,二七九.二	三三,九四二.五	七一,六〇一.七
電氣	三七,三六八.四	一一,〇六一.九	四九,三三〇.三
蒸氣電氣併用	二〇,六五〇.二	二〇,九〇〇.八	四一,五五一一.〇
合計	九五,二九七.八	六八,八四五.五	一六四,一五三.三
前年度比較増減	七,三四九.五	五,九四七.一	一三,二九六.六

旅客運輸

本年度ニ於ケル地方鐵道ノ旅客運輸成績ハ旅客平均營業哩三千百十八哩一分ニシテ旅客人員ハ二億六千九百九十二萬一千四百二十四人此ノ延人哩十四億七千四百八萬四千七百五十二人哩旅客運賃四千貳百九萬八千七百七拾壹圓ナリ之ヲ前年度ニ比スルニ平均營業哩二百三十一哩一分八分旅客人員三千六百九萬四千八百四十九人(一割五分四厘)延人哩一億四千八百八十九萬三千八百八十八人哩(一割一分二厘)又旅客運賃ハ四百貳拾七萬七千七百參拾九圓(一割一分三厘)ヲ孰レモ増加セリ而シテ叙上ノ成績ニ依リ一人平均ノ割合ヲ觀ルニ乘車哩五哩五分

旅客運賃拾五錢六厘ニシテ前年度ニ比シ前者ハ零哩二分後者ハ六厘ヲ減少セリ又一一人一哩平均運賃ハ貳錢九厘ニシテ前年度ト同額ナリ更ニ動力別ニ表示スレハ左ノ如シ

種別	平均營業哩	旅客人員	延人哩	旅客運賃	一人平均乘車哩	一人平均旅客運賃	一人一哩平均旅客運賃
蒸氣	一,九六八.八	五,〇六六.二	三六,一四六.九	一三,三〇一.〇	六.五	三.七	三.六
電氣	七,六五五.五	一六,八五二.五	七四,九七〇.七	二〇,七四六.一	四.九	二.六	二.五
蒸氣電氣併用	四,五八〇.八	五,九七三.七	三二,三六七.〇	八,〇五〇.六	六.〇	二.五	二.六
合計	三,一八一.二	二六,九九二.四	一四四,〇四七.五	四二,〇九七.七	五.五	二.六	二.六
前年度比較増減	三三.二	三六,〇九四.九	一四八,九〇三.八	四二,七三九.九	△	△	〇.六

貨物運輸

本年度ニ於ケル地方鐵道ノ貨物噸數ハ二千七十一萬五千十五噸此ノ延噸哩二億七千二百六萬五千六百六十噸哩ニシテ貨物運賃ハ貳千六拾八萬七千八百六拾七圓ナリ之ヲ前年度ニ比スルニ噸數二百二十四萬七百七十五噸(一割二分一厘)延噸哩三千七百九十二萬五千九十五噸(一割六分二厘)運賃百七拾六萬六千六百九拾貳圓(九分三厘)ヲ増加セリ叙上ノ成績ニ依リ一噸平均ノ割合ヲ觀ルニ輸送哩十三哩一分貨物運賃九錢九厘ニシテ前年度ニ比シ輸送哩ハ零哩四分増加シタルモ運賃ハ貳錢五厘ヲ減少セリ而シテ一噸一哩ノ平均貨物運賃ハ七錢六厘ニシテ前年度ニ比シ五厘ヲ減少セリ更ニ以上ノ成績ヲ動力別ニ表示セハ左ノ如シ

種別	貨物噸數	延噸哩	貨物運賃	一噸平均輸送哩	一噸平均貨物運賃	一噸一哩平均貨物運賃
蒸氣	二,九七三.三	二二,八六三.五	一一,三九二.九	一〇.三	九.九	九.六

種別	貨物噸數	延噸哩	貨物運賃	輸送平均		貨物運賃		貨物運賃	
				噸哩	噸	噸哩	噸	噸哩	噸
電氣併用	四〇八、三三七	五、九二八、二二	四、七八〇、五三	二、三五	一、二五	九、九	一、二五	一、二五	一、二五
蒸氣併用	四、六三六、〇五	九三、二〇七、三四	四、五〇〇、四八二	二、〇一	九、九	一、二五	一、二五	一、二五	一、二五
合計	二〇、七五〇、五	二七二、〇六五、六〇	二〇、六八七、八六七	一、三二	九、九	一、二五	一、二五	一、二五	一、二五
前年度比較増減	二二、四〇、七五	三、七九五、〇五	一、七六六、六九二	四	〇、五	五	五	五	五

運轉成績

本年度ニ於ケル地方鐵道ノ蒸氣機關車走行哩ハ一千四百九十八萬二千六百九十八哩電氣機關車及電動車走行哩ハ二千八百八萬三千三百九哩汽動車走行哩ハ二十七萬五千七百三十七哩瓦斯倫機關車走行哩ハ一千七百七十哩ニシテ前年度ニ比シ蒸氣機關車走行哩六分四厘電氣機關車及電動車走行哩三割二分六厘汽動車走行哩九分三厘ヲ増加シタルモ瓦斯倫機關車走行哩ハ却テ八割一分ノ減少ヲ示セリ而シテ電氣機關車及電動車走行哩ノ蒸氣機關車走行哩ニ比シテ増加率著シキハ新ニ開業シタル會社カ電氣動力ナルト從來蒸氣動力使用會社ノ電化シタルモノアルニ因ル又石炭及電力等消費高ハ蒸氣機關車四億二千七百七十九萬五千九百五十八斤此ノ代價參百八萬八千參百參拾參圓電氣機關車及電動車一億一千十六萬五千六百三十七「キロワット」此ノ代價貳百九拾五萬七千四百五拾四圓汽動車四百五十四萬九千十三斤此ノ代價參萬五千四百六拾七圓瓦斯倫機關車十五石九斗四升此ノ代價六百八拾貳圓ナリ之ヲ前年度ニ比スルニ蒸氣機關車ニ在リテハ數量六厘ヲ増加セシモ代價ハ却テ五分二厘ヲ減少シ電氣機關車及電動車ハ數量三割四分五厘代價二割八分八厘ヲ孰レモ増加シ汽動車ハ數量五分四厘代價六分一厘ヲ増加シ瓦斯倫機關車ハ數量六割四分三厘代價六割七分四厘ヲ激減セリ次ニ油脂消

費高ハ蒸氣機關車ニ於テ二千六百九十四石三斗四升此ノ代價拾貳萬九千九百五拾九圓電氣機關車及電動車ニ於テ一千五百六十七石六斗一升此ノ代價七萬壹千八拾圓汽動車ニ於テ五十八石三斗二升此ノ代價參千貳百貳拾圓瓦斯倫機關車ニ於テ六斗此ノ代價五拾參圓ニシテ前年度ニ比シ蒸氣機關車ハ數量ニ於テ五分ヲ増加シ代價ハ却テ九厘ヲ減少シ電氣機關車及電動車ハ數量三分二厘代價七分一厘ヲ減少シ汽動車ハ數量ニ於テ三割二分四厘代價ニ於テ一割二厘増加シ瓦斯倫機關車ハ數量七割五分代價七割三分四厘ヲ孰レモ激減セリ以上ノ成績ヲ表示セハ左ノ如シ

種別	汽動車走行哩		石炭電力消費高		油脂消費高		機關車、汽動車、電車走行百哩ニ付	
	數量	代價	數量	代價	數量	代價	數量	代價
蒸氣	二、六七二、七二	三、五八五、四〇〇	二、四〇七、九	三、〇〇三、三	二、八〇七、	二、〇七六、	二、	二、
電氣	六、九一	四、五九四、〇一三	一、一	五、八三三、	一、六五	二、一八六、	一、	一、
蒸氣併用	三、三三、〇六八、二七四	八、八七九、六六六	一、二八、二四四	五、七九、三	三、〇一〇	一、〇一〇	三、	三、
電氣併用	三、三三、〇六八、二七四	一、〇、九四一、七五八	六、〇	三、九〇、一	三、〇一〇	一、〇一〇	三、	三、
合計	一四、九八二、六九八	一四、七、七九、五八八	三、〇八八、三三三	二、六九、四三三	二、八〇七、	二、〇七六、	二、	二、
前年度	一四、〇八三、三〇九	一四、〇、六五、六三三	三、〇八八、三三三	二、六九、四三三	二、八〇七、	二、〇七六、	二、	二、
比較増減	八、九五七、〇四	二、六八、五〇	一、二七、七	一、一、五五	一、	一、	一、	一、





種別	客車		貨車		計	積載重量
	輛數	定員	有蓋車	無蓋車		
蒸氣	一,五四五	三,五五九	一,七四〇	四,二三三	五,九七三	五,四八一
電氣	九八	六〇,五九三	八三一	一,二二六	一九九	一九三三
蒸氣電氣併用	五〇六	三,一九七	七四〇	一,四一八	二,一六八	三,三三六
合計	二,九六九	一,五〇三	三,三二五	六,六八九	一〇,〇五四	九,四一四
前年度比較増減	二〇七	一六,三七九	九	五七	六五	八七一

第四節 收支及貸借對照

**營業收支** 本年度ニ於ケル地方鐵道ノ營業收入ハ總計六千八百六拾七萬六千九百五圓、營業費參千七百七拾壹萬五千拾九圓ニシテ差引參千九拾六萬壹千八百八拾六圓ノ營業益金ヲ生シタリ之ヲ前年度ニ比スルニ營業收入ハ七百拾貳萬八千七百五拾九圓、營業費ハ參百四拾四萬七千七百五拾五圓益金ハ參百六拾八萬壹千六百四圓ノ孰レモ増加ヲ示シ其ノ增加率ハ營業收入一割一分六厘、營業費一割一厘、營業益金一割三分五厘トス、而シテ本年度ニ於ケル純益金ハ前記ノ益金ニ政府補助金五百拾四萬七千六百九拾貳圓、其ノ他ノ益金貳千百拾八萬八千九百九拾五圓ヲ加ヘ更ニ之ヨリ支拂利子九百九拾七萬七千參百七拾九圓其ノ他ノ損金參百五拾五萬三千七百貳拾八圓ヲ控除シタル四千參百七拾六萬六千六百六拾六圓ナリ、之ヲ一日一哩平均トシテ觀ルニ營業收入六拾圓參拾四錢六厘、營業費參拾參圓拾四錢、差引益金貳拾七圓貳拾錢六厘ニシテ前年度

ニ比シ收入ハ壹圓九拾參錢九厘、支出ハ六拾貳錢壹厘、益金ハ壹圓參拾壹錢八厘ヲ増加セリ、又營業收入ニ對スル營業費ノ割合ハ五割四分九厘、建設費ニ對スル益金割合ハ年七分一厘ニ當リ前年度ニ比シ營業費ノ割合ハ八厘ヲ、益金ノ割合ハ一厘ヲ各減少セリ、更ニ以上ノ細別ヲ表示スルハ左ノ如シ

種別	客車		貨車		合計	前年度比較増減
	收入	支出	收入	支出		
營業收入	一四,三四五,二九〇	二二,四三四,〇五〇	八五,四四八	四四,三〇四,〇八二	四四,三〇四,〇八二	四四,五二,〇六一
營業費	一〇,四九六,四〇〇	四,七八一,二七〇	四,五〇七,九六一	二〇,七〇〇,一五五	二〇,七〇〇,一五五	一,八一九,六九九
營業益金	三,八四八,八九〇	一七,六五二,七八〇	四〇,九四〇,一三〇	二三,六〇三,九二七	二三,六〇三,九二七	九一,八八
政府補助金	一,〇三九,二二八	一,〇三九,二二八	一,〇三九,二二八	一,〇三九,二二八	一,〇三九,二二八	七六,〇〇一
其他補助金	三,六四九,八八〇	一,九二九,九六〇	三,〇四八,八八〇	五,一四七,六九二	五,一四七,六九二	七,二八,七五九
營業費總計	一〇,四九六,四〇〇	一,〇三九,二二八	一,〇三九,二二八	一,〇三九,二二八	一,〇三九,二二八	六八,一九四
營業費總計	一,〇三九,二二八	一,〇三九,二二八	一,〇三九,二二八	一,〇三九,二二八	一,〇三九,二二八	九四,〇五九
營業費總計	一,〇三九,二二八	一,〇三九,二二八	一,〇三九,二二八	一,〇三九,二二八	一,〇三九,二二八	二六,一〇五九
營業費總計	一,〇三九,二二八	一,〇三九,二二八	一,〇三九,二二八	一,〇三九,二二八	一,〇三九,二二八	三,四七,一五五
營業費總計	一,〇三九,二二八	一,〇三九,二二八	一,〇三九,二二八	一,〇三九,二二八	一,〇三九,二二八	三,六八,一六四
營業費總計	一,〇三九,二二八	一,〇三九,二二八	一,〇三九,二二八	一,〇三九,二二八	一,〇三九,二二八	一,〇八五,六〇〇
營業費總計	一,〇三九,二二八	一,〇三九,二二八	一,〇三九,二二八	一,〇三九,二二八	一,〇三九,二二八	一,二七四,二二三

種別	延日哩	平均			前年度比較増減
		營業收入	營業費	利益	
支拂利子	四三九七六三三	四四九二八〇六	一〇八六九二〇	九七七三七九	一九七、九六二
其ノ他損金	一、三三、二八二	二、三三、四三三	一〇三、二四	三、五五、七六	七八五、〇九四
差引純益金	一〇、三八、四八四	二、七三、四三四	二、七三、七九八	四、七六、六六六	四八五、四六九
前年度繰越金	一、六四、五九〇	五、〇六、九一七	三、〇七、〇三五	六、四九、六六七	四、七二、〇〇九
法定準備金	四八、四六〇	一、二四、八〇八	五八、四五〇	二、三三、七六八	二九六、〇六一
任意準備金	八八、四〇四	一、五九、四六四	九三、〇九六	三、四〇、八三八	四一四、八五七
賞與金	三三、六三三	一、〇六、五九九	四一、四三〇	一、八〇、四四九	二七六、八五八
處配當金	七、七三、七七七	二、〇〇、五五八	九、七四、六三三	三、七四、四九一	五、七〇、九四九
分其ノ他	三七、六〇一	一、五八、九五〇	五、三、八一七	二、四四、三六八	四一四、八八六
後年度繰越金	一、六三、四八一	一、三六、一九三	二、七二、六三四	二、九一、三六六	一九四、三六七

種別	延日哩	平均			前年度比較増減
		營業收入	營業費	利益	
蒸氣	七〇、八〇、五〇五	三、六六、〇	三、三九、九	一、四七、一	六、二九
電氣	二七、四、六三	六、七、七	五、〇、九三	四、八、九四	一、五二
併用	一五、七、九二	九、五、七〇	四、九、九六	四、六、五七	四、八六
合計	一一三、八、〇四〇	六、三、四〇六	三、三、四〇〇	二、七、〇〇六	五、四九
前年度比較増減	八四、六、三	一、九、九	六、二	一、三、八	〇、〇八

資産及負債

本年度ニ於ケル地方鐵道ノ資本金ハ七億參千九百參拾六萬六千七百貳拾八圓ニ

シテ内拂込額四億七千五百拾八萬五千六百拾九圓社債借入金當座借越支拂手形ノ合計ハ貳億四千參百八拾八萬四千九百貳拾參圓ニ達ス而シテ之等ノ主ナル費途ハ開業線建設費四億五千參百七拾貳萬六千六百七拾壹圓未開業線建設費參千八萬七千六百六拾八圓他事業興業費貳億貳千參百七拾九萬七千七百拾七圓等ニシテ更ニ其ノ詳細ハ左記貸借對照表ノ如シ

資産ノ部

種別	蒸氣	電氣	蒸氣電氣併用	合計	前年度比較増減			
						拂込未済資本金	建設費(開業線未開業線)	他事業興業費
拂込未済資本金	六、二、〇、六四一	一、九、三、七〇〇	七、七、三、四五一	二、六、四、一八二	五、九、一、七六九			
建設費(開業線未開業線)	二、〇、七、四〇三	一、七、四、四、〇〇	七、五、八、二四八	四、五、七、六六七	五、九、八、一、六七			
他事業興業費	一、八、五、五〇四	一、〇、三、七、九一	一、五、九、六、六三	三、〇、八、七、一六八	一、七、三、四、七七			
未收入	二、〇、三、四、一五	一、四、七、六、四六四	五、五、八、九、九四〇	二、三、七、七、七二	三、四、八、六、四六			
貯藏物品	九、七、五、七五三	一、八、〇、七、三二八	四、七、九、〇、一九四	三、三、五、八、三三五	一、四、九、七、四六			
假出物品	六、八、〇、九、六五	四、三、七、四、一八五	一、二、五、九、八、六六	二、二、四、四、〇二六	一、六、三、五、一六			
有價證券	七、九、四、八、一三	二、九、六、九、九二	二、〇、四、三、〇、九七	二、三、九、一、四、八九一	六、二、四、三、〇〇			
現期ノ損	三、九、一、三、三五	五、九、六、七、三二	二、五、五、四、二、四七	一、五、〇、三、三、〇四	一、五、三、三、八			
其他	一、〇、七、七、四六	一、〇、八、八、六六	三、一、〇、一、五二	一、七、〇、六、一、〇五二	六、八、一、九、三九			
合計	三、六、二、〇、七、五七七	五、〇、九、五、七、〇五	二、三、三、四、七、六三二	一、〇、〇、七、〇、〇、九二四	一、八、九、一、〇、三、〇、六			

監督 負債ノ部

種別	本年		前年度		比較増減
	人員	金額	人員	金額	
資本	27,842,336	3,449,125,000	27,842,336	3,449,125,000	0
特別資金	2,165,555	3,345,518	2,165,555	3,345,518	0
法定準備金	3,765,550	8,972,055	3,765,550	8,972,055	0
任意準備金	4,500,011	8,922,633	4,500,011	8,922,633	0
社債	1,677,384	6,583,160	1,677,384	6,583,160	0
借入金	5,005,551	5,429,995	5,005,551	5,429,995	0
當座預金	1,060,626	1,653,381	1,060,626	1,653,381	0
支拂手形	9,132,723	1,077,273	9,132,723	1,077,273	0
未拂配當金	5,956,999	4,211,555	5,956,999	4,211,555	0
未拂配當金	3,048,761	1,624,772	3,048,761	1,624,772	0
假受金	2,648,833	4,420,799	2,648,833	4,420,799	0
通積立金	72,643	9,776,661	72,643	9,776,661	0
職員積立金	29,345	5,911,444	29,345	5,911,444	0
保證金	2,392,444	1,901,011	2,392,444	1,901,011	0
前期繰越金	4,222,002	1,132,852	4,222,002	1,132,852	0
当期利益金	1,933,790	6,422,611	1,933,790	6,422,611	0
政府補助金	2,561,388	2,366,033	2,561,388	2,366,033	0
其他	2,561,388	2,366,033	2,561,388	2,366,033	0
合計	336,277,577	5,099,575,755	336,277,577	5,099,575,755	0

第五節 職員

本年度末ニ於ケル地方鐵道ノ職員ハ合計三萬二千九百二十人ニシテ此ノ給料月額百四拾壹萬七千貳百八圓諸給與月額五拾參萬貳千九百九拾四圓ナリ之ヲ前年度ニ比スルニ職員ハ三千四百六十四人給料月額ハ拾六萬參千九百四圓諸給與月額ハ四萬七千參百六拾八圓ヲ孰レモ増加セリ之ヲ動力別ニ表示スレハ左ノ如シ

種別	本年		前年度		比較増減
	人員	金額	人員	金額	
蒸氣	14,455	5,555,965	14,455	5,555,965	0
電氣	2,268	2,556,250	2,268	2,556,250	0
蒸氣電氣併用	6,247	2,859,996	6,247	2,859,996	0
合計	22,970	10,972,211	22,970	10,972,211	0

第六節 補助

本年度末ニ於ケル補助鐵道現在數ハ七十八此ノ補助哩數八百二十二哩ニシテ本年度中ニ交付シタル補助金ハ四百九拾六萬貳千八百八拾參圓ナリ而シテ建設費ニ對スル補助金ノ割合ハ四分三厘ニ當リ之ヲ前年度ニ對比スルニ補助金ニ於テ八拾壹萬貳百七拾四圓割合ニ於テ四厘ヲ増加セリ之ヲ動力別ニ表示スレハ左ノ如シ

種別	本年		前年度		比較増減
	鐵道數	哩數	鐵道數	哩數	
蒸氣	5	605.1	5	605.1	0
電氣	1	1	1	1	0
蒸氣電氣併用	6	102.1	6	102.1	0
合計	12	708.2	12	708.2	0

監督

種別	建設費	營業收入	營業費	益金	補助金	建設費ニ對スル補助金割合
本年	二九〇,四六七	三,二六六,二八四	九七三,〇九一	三,五五三,三八三	四,九六二,八八三	〇.四三
前年度比較増減	一八,五三,一三三	△ 五八,九七七	△ 一八,六〇三	△ 六五,七五〇	八一〇,二七四	〇.四四

### 第二章 軌道

#### 第一節 線路

#### 特許及失効

本年度ニ於テ特許シタル軌道數ハ二十五其ノ延長哩數九十六哩七十四鎖ニシテ之ヲ前年度ト比較スル軌道數四ヲ増加シタルモ哩數ニ在リテハ却テ三十一哩九鎖ノ減少ヲ觀ルニ至レリ、而シテ此ノ特許ハ前年度ト同様過半數ハ電氣ヲ動力トスルモノニシテ他ノ動力ニ在リテハ孰レモ語ルニ足ラサルノ状態ナリ、又特許ノ失効シタルモノハ軌道數十九此ノ哩數四十四哩ニシテ之ヲ前年度ニ比スルニ軌道數五増加セシモ哩數ハ六十九哩二十七鎖ヲ減セリ今之ヲ動力別ニ表示スレハ左ノ如シ

種別	本年度中特許		本年度中失効	
	軌道數	建設費豫算	軌道數	建設費豫算
電氣	一七	五,二四一	一三	一,九三三
蒸氣	二	七二	三	九五四
瓦斯	三	一八六七	一	五〇〇〇
馬力	三	一八,二五	四	一五,〇三
合計	二五	二一,五七四,四五	一九	二二,三,七七
前年度比較増減	四	△ 三,〇九	五	△ 六九,二七

種別	軌道數	哩數
電氣	一七	五,二四一
蒸氣	二	七二
瓦斯	三	一八六七
馬力	三	一八,二五
合計	二五	二一,五七四,四五
前年度比較増減	四	△ 三,〇九

備考 特許線一部失効シ該區間ノ建設費不明ノモノハ計上セズ

#### 年度中開業線

本年度ニ於テ開業シタル軌道數ハ三十三、此ノ哩數九十七哩五十四鎖(内既設軌道ニシテテ哩數六十六哩六十三鎖ヲ含ム)ナリ、之ヲ動力別ニ表示スレハ左ノ如シ

種別	軌道數		哩數	
	軌道數	哩數	軌道數	哩數
電氣	一	二四	〇	五,二四一
蒸氣	一	二二	〇	一,九三三
瓦斯	一	一	〇	一,九三三
馬力	一	一	〇	一,九三三
合計	四	二五	〇	二一,五七四,四五
前年度比較増減	〇	〇	〇	二,六六八

備考 ○印ハ本年度ニ於テ新ニ開業シタル軌道ヲ示ス

#### 年度末現在開業線

本年度末現在ノ開業軌道數ハ百五十六、此ノ哩數千六百六十八哩、資本金拾九億八拾四萬五千五百七拾參圓ニシテ前年度ニ比シ軌道數五、哩數八十九哩三十一鎖、資本金參億壹千八百四拾七萬貳百四拾五圓ヲ増加セリ、之ヲ動力別ニ表示スレハ左ノ如シ

種別	軌道數	哩線		計數	資本
		單線	二線以上		
電氣	六	四六三・二七	六九・六六	一二、四三・六五	一、七六八、四七三、〇〇〇
蒸氣	二元	二五四・七	—	二五四・七	九二六、二六〇
瓦斯	四	八七・五	—	八七・五	一三、九二七、五〇〇
馬力	三	一三九・七	—	一三九・七	一〇八、一七四、〇〇〇
人力	〇	三六・六	—	三六・六	九、九七三
合計	一五	九四三・二	六三・五	一、〇〇六、八〇〇	一、九〇〇、八四五、五七三
前年度比較増減	五	七〇・九	一八・五	八八・三	三、八四七、〇四五

備考 軌道數ノ計ニ符合セサルハ一軌道ニシテ二動力ヲ併有セルモノヲ各別ニ計上シ計ニ於テ控除セルニ依ル

年度末現在未開業線

本年度未現在未開業軌道數ハ百六此ノ哩數六百六十三哩四十鎖(内軌道ニシテ未開業線ヲ有スルモノ七十)資本金六千貳百九拾六萬五千圓ニシテ之ヲ前年度ニ比スルニ軌道數三ヲ増加セルモ哩數四十六哩四十九鎖資本金壹千參拾貳萬五千圓ヲ孰レモ減少セリ之ヲ動力別ニ表示スレハ左ノ如シ

種別	軌道數	哩線	資本
電氣	〇	〇	五、九四一、〇〇〇
蒸氣	〇	〇	八、〇〇〇,〇〇〇
瓦斯	〇	〇	一、三〇〇,〇〇〇
馬力	〇	〇	一、〇八五、〇〇〇
人力	〇	〇	—
合計	〇	〇	一六、三二六、〇〇〇
前年度比較増減	〇	〇	—

種別	軌道數	哩線	資本
電氣	〇	〇	三、七〇〇,〇〇〇
蒸氣	〇	〇	九、〇〇〇,〇〇〇
瓦斯	〇	〇	一、三〇〇,〇〇〇
馬力	〇	〇	一、〇八五、〇〇〇
人力	〇	〇	—
合計	〇	〇	一六、三二六、〇〇〇
前年度比較増減	〇	〇	—

備考 一、〇印ハ開業軌道ニシテ未開業線ヲ有スルモノヲ示ス  
 二、〇印ニ對スル資本金ハ凡テ開業線ノ部ニ掲ケ本表ニハ計上セズ  
 三、軌道數ノ計ニ符合セサルハ一軌道ニシテ二動力ヲ併有セルモノヲ各別ニ計上シ計ニ於テ控除セルニ依ル

第二節 運輸並運轉成績

車輛哩

本年度ニ於ケル軌道ノ客車走行哩ハ一億八千二百五十七萬四千七百三十三哩貨車走行哩ハ八百二十八萬五千三百三十二哩ナリ而シテ馬力及人力ニ在リテハ從來車輛哩ヲ計上セサリシカ本年度分ヨリ之ヲ計上スルコトトシタル爲前年度ヨリ相當車輛哩ノ増加ヲ示スニ至レリ今之ヲ動力別ニ表示スレハ左ノ如シ

種別	客車走行哩	貨車走行哩	合計
電氣	一七、五五三、二二八	三、七二八、〇〇〇	一八、二八一、二二八
蒸氣	三〇、九二六、七	一、三九三、五三四	三二、三二〇、二六一
瓦斯	一、〇三二、八〇	二、五二五、五六	三、五五八、三八
馬力	六四三、二三〇	一、六三三、六二	二、二七六、八五二
人力	一八、二七六	一、二五三、九六	一、四三六、二四二
合計	二〇、五三〇、〇〇〇	九、五三〇、〇〇〇	三〇、〇六〇、〇〇〇

種別	客車走行哩	貨車走行哩	合計
合計	一八,七四七.七三	八,六五二.三三	一〇,八五九.六六五
前年度比較増減	二,八七五.一九	二,九〇〇.二七	五,八三六.〇天

旅客運輸

本年度ニ於ケル軌道ノ旅客平均營業哩ハ千五百二十一哩九分ニシテ旅客人員十七億三千八百四萬四千三百八人此ノ運賃壹億壹千八百六拾八萬八千八百七圓ニシテ之ヲ前年度ニ比スルニ平均營業哩一分六厘旅客人員一分四厘同運賃九厘ヲ孰レモ増加セリ之ヲ動力別ニ表示スレハ左ノ如シ

種別	平均營業哩	旅客人員	旅客運賃	一人平均旅客運賃
電氣	一一,二六二.四分	一,七五五,三二六.八	二六,七四九.六四	六.六
蒸氣	二,二〇五	九〇八,六二九.七	一,一九八.九七二	一.四三
瓦斯	八.四	二,四三三,七四五	四〇八.七六	一.六七
馬力	八七九	一,〇六六,一九六	一,七三.一九四	一.六二
人力	二六〇	七五,二九	一三.二七	一.七
合計	一五,三二九	一,七七八,〇四三.八	二八,六八八.八七	一六.六
前年度比較増減	二四七	二,三三九,五八	一,〇七三,〇六	一

貨物運輸

本年度ニ於ケル軌道ノ貨物平均營業哩ハ九百七十四哩七分ニシテ貨物噸數二百十二萬五千八百九十七噸同運賃貳百七拾六萬參千參百六拾參圓ニシテ之ヲ前年度ニ比スルニ平均營業哩五厘ヲ減セリ而シテ貨物噸數ニ於テハ二分五厘ノ増加ヲ示シタルモ同運賃ニ於テハ却テ四分五厘ヲ減少セリ之ヲ動力別ニ表示セハ左ノ如シ

種別	平均營業哩	貨物噸數	貨物運賃	一噸平均貨物運賃
電氣	六〇五.一分	一,三七八.八	一,五四九.七〇	一.三六二
蒸氣	一九三	三六五.六五	三四.六三	一.〇八九
瓦斯	五〇六	七九.七八	一〇.一三〇	一.三八一
馬力	八四三	一八七.三六	五七.七九九	二.七三三
人力	三六六	四四.四〇	二四.一三〇	五.九九六
合計	九七四.七	二,二五八.九七	二,七三三.三三	一.三〇〇
前年度比較増減	四九	五,四三六	一,三〇,二一六	〇.六

運轉成績

本年度ニ於ケル軌道ノ客車使用延日車數ハ百六十五萬三千九百八十九輛貨車使用延日車數四十九萬五千五百七十四輛ナリ之ヲ前年度ニ比スルニ前者ハ一分八厘後者ハ割五分一厘ノ増加ヲ示セリ而シテ増加ノ原因ハ車輛哩ト同様ニ馬力及人力ニ對シテハ從來計上セザリシカ本年度分ヨリ之カ計上シタルニ因ル今試ミニ前年度ト同一範圍ニ於ケル電氣蒸氣及瓦斯ノ三動力ト對比スル時ハ本年度ハ客車ニ於テ三厘貨車五分八厘ヲ却テ減少セルヲ見ルニ至レリ之レ即チ財界不振カ廳テ交通及物資移動ニ影響ヲ來タシ以テ運轉車輛數ノ減少ヲ示シタルニ外ナラサルヘシ今之ヲ動力別ニ示セハ左ノ如シ

種別	電氣		蒸氣		瓦斯		馬力		合計		前年度比較増減
	使用車輛延日車數	一日平均使用車輛數	使用車輛延日車數	一日平均使用車輛數	使用車輛延日車數	一日平均使用車輛數	使用車輛延日車數	一日平均使用車輛數	使用車輛延日車數	一日平均使用車輛數	
客車	一,五四〇.〇六	四,一九八	五九,三六	一六七七	二四七.九	八.九	二六,五九	七〇.九	一六五,九六	四七,九三	二九,四六
貨車	一,三七八.〇四	三,七〇九	九〇,九六	二六二二	一五,四〇八	五〇.三	一三九,一四二	一〇五,二四	四九五,五七	一四六,六六	三三,七八
合計	三,九一八.一〇	八,四〇七	一五〇,三二	四,二九九	三九,九〇六	一三〇.二	四〇五,七三四	一七六,一八	九一一,五三六	二一四,五九	六二,八四

事故

本年度ニ於ケル運轉事故總件數ハ五千九百九十五件ニシテ死傷人員ハ死者九十六人、傷者六千二百十二人ナリ、之ヲ前年度ニ比スルニ前者五厘、後者ニ在リテハ死者五割一分、傷者二分二厘ヲ孰レモ減少セリ、今之ヲ動力別ニ表示セハ左ノ如シ

種別	死		傷		職員		公衆		合計	
	件數	人員	件數	人員	件數	人員	件數	人員	件數	人員
電氣	五	一三	一	七	一	三	一	三	三	二二
蒸氣	一	三	一	二	一	一	一	一	四	一〇
瓦斯	一	一	一	一	一	一	一	一	四	一
馬力	一	一	一	一	一	一	一	一	四	一
合計	八	一九	四	一三	四	六	四	六	二十	三三

第三節 車輛

種別	電氣		蒸氣		瓦斯		馬力		合計	
	前年度比較増減	本年	前年度比較増減	本年	前年度比較増減	本年	前年度比較増減	本年	前年度比較増減	本年
電氣	△	二	△	三	△	一四	△	一八	△	五
蒸氣	△	二〇	△	三	△	七三	△	八	△	三六
瓦斯	△	三五	△	三	△	一八	△	五	△	二六
馬力	△	一四	△	一	△	一	△	一	△	二
合計	△	二〇三	△	三三	△	九六	△	二六	△	一〇〇

本年度末ニ於ケル軌道ノ機關車數ハ二百四十五輛(内電氣機關車七輛、瓦斯倫機關車五十一輛、蒸氣機關車八十七輛)ナリ、客車數六千五百六十三輛、此ノ定員三十八萬八千三百八十八人、貨車數二千二百八十五輛、此ノ積載噸數七千九百四十二噸ナリ、之ヲ前年度ニ比スルニ機關車數二十六輛、客車二百一十七輛、定員九千五百五十五人、貨車積載噸數五百五噸ヲ孰レモ増加セルモ貨車數ハ三十三輛ヲ減シ、タリ今之ヲ動力別ニ表示セハ左ノ如シ

機關車

種別	電氣		蒸氣		瓦斯		合計	
	前年度比較増減	本年	前年度比較増減	本年	前年度比較増減	本年	前年度比較増減	本年
電氣	△	二	△	三	△	一四	△	一八
蒸氣	△	二〇	△	三	△	七三	△	八
瓦斯	△	三五	△	三	△	一八	△	五
合計	△	二〇三	△	三三	△	九六	△	二六



客車監督

種別	電氣	蒸氣	瓦斯	馬力	人力	合計	積載重量
前年度比較増減	△ 一七	△ 三	△ 三	△ 五	△ 六	△ 二七	九,五五五
本年度	六〇六	三四	二五	一七	五	六六三	三八,〇八八

貨車

種別	有蓋車		無蓋車		合計	積載重量
	電氣	蒸氣	電氣	蒸氣		
前年度比較増減	△ 一	△ 三	△ 二	△ 三	△ 三	五〇五
本年度	一六七	一四三	五四	二六七	七〇八	三八,〇三〇
合計	一六八	一四六	六〇	二九三	七〇八	三八,〇三〇

第四節 收支及貸借對照

營業收支

本年度ニ於ケル營業收入ハ壹億參千四拾貳萬貳千參百四拾六圓、營業費七千五百拾八萬七千五百拾貳圓ニシテ差引五千五百貳拾參萬五千九拾四圓ノ營業益金ヲ生セリ、之ヲ前年

度ニ比スルニ營業收入一分ヲ増加シ營業費八厘ヲ減シタル結果營業益金ニ於テ三分六厘ノ増收ヲ見ルニ至レリ、今以上ノ成績ニ依リ一日一哩平均ノ營業收支ヲ算出スルニ營業收入貳百參拾圓六拾四錢、營業費百參拾貳圓九拾六錢、營業益金九拾七圓六拾八錢ニシテ前年度ニ比シ營業收入壹圓七拾貳錢ヲ、營業費ニ於テ參圓六拾八錢ヲ減シタル結果營業益金壹圓九拾六錢ノ増加ヲ呈セリ、又營業收入ニ對スル營業費ノ割合ハ五割七分六厘、建設費ニ對スル益金割合ハ年九分六厘ニシテ之ヲ前年度ニ比スルニ前者ハ一分八厘ヲ、後者ハ一厘ノ減少ヲ見タリ

敝上ノ成績ヨリ之ヲ觀察スルニ營業收入ニ在リテハ數年來ヨリ引續ケル一般財界ノ不振ハ依然トシテ持續シ、之ニ加フルニ最近貨客ノ輸送ハ自動車ノ發達ニ伴ヒ從來軌道ニヨリタル運輸量ハ年々夫等ノ輸送機關ノ爲相當打撃ヲ蒙リツツアルノ現狀ニ在リ、依テ一日一哩收入ノ低下ヲ示シタルモ支出ニアリテハ物價ノ低落ト經費節約等ニヨリテヨク上記收入ノ影響ヲ相償ヒ以テ建設費ニ對スル益金割合ハ前年度ト大體大差ナキノ成績ヲ舉クルニ至レリ

種別	營業收入		營業費		營業益金		前年度比較増減
	客車	貨車	客車	貨車	客車	貨車	
電氣	一,二七〇,八六六	一,一六〇,九〇〇	一,三三四,二九六	一,二二〇,五五五	一,一三六,五七〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一三六,〇〇〇
蒸氣	一,三三四,二九六	一,二二〇,五五五	一,三三四,二九六	一,二二〇,五五五	一,一三六,五七〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一三六,〇〇〇
瓦斯	四三,七五七	二二,四三七	四三,七五七	二二,四三七	一六,一五九	一三,七二〇	二,四三九
馬力	一六,一五九	五三,一四三	一六,一五九	五三,一四三	一六,一五九	五三,一四三	一三,七二〇
人力	一,一三六,五七〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,一三六,五七〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一,一三六,五七〇	一,〇〇〇,〇〇〇	一三六,〇〇〇
合計	二,六四二,六六一	二,五四一,九〇八	二,八〇二,三九六	二,六六四,一〇八	二,三九〇,七九〇	二,一三六,七二〇	二五四,〇七〇

監督

種別	營業收入										營業費										合計	前年度比較増減		
	後年度繰越金	其配當金	賞與金	任意準備金	法定準備金	前年度繰越金	差引純益金	其ノ他損金	支拂利子金	其ノ他益金	營業益金	諸費計	總係	運輸費	運送費	營業費	瓦力	馬力	人力	合計				
電氣	二五,〇八九,六六一	一四,七四八,四三三	一〇,八七九,九九四	三,三九八,五八六	七,〇九三,七三二	六,四四五,八三三	二六,七四二,七七	一三,八六二,九四	七,一七九,九五	三,四八〇,〇二七	二六,三四五,六七	五,四九五,六八九	七,五五五,五九	二,九五二,五七	九,三九四,〇六	三,六〇三,〇八五	四二,三五四	一八,〇八八	一九,四七四	一五,四四六	三三,五九六,六七	八五,八六五	△	一,二七八,〇八八
蒸氣	六,七九八	六,六〇二	二,四四五,五四	二,〇一五〇	四,三六六	二,三〇〇	六,七四七	四,八六二	六,三九五	九七,六六六	一三,三三二	四三,八八一	一,三四七,九二	七,五五六	二,〇六三	六,四三二	一八,〇八八	一九,四七四	一五,四四六	三三,五九六,六七	八五,八六五	△	一,二七八,〇八八	
瓦力	四八,一八八	△	五九七,五五	七四,一〇〇	一,七六〇	四三,八三五	九,二八〇	八四,六七三	四四,三三三	五〇,七五〇	一,三六六,九九	一〇七,〇九七	四四,九三三	二〇,六三三	六,四三二	一八,〇八八	一九,四七四	一五,四四六	三三,五九六,六七	八五,八六五	△	一,二七八,〇八八		
馬力	七九,三三	△	一七六,六四七	三三,一七五	八,九九三	三〇〇,一九	二,七五九	七三,九九	二,二五〇	二五,八八八	八三,四八七	一六,七五二	五七四,六六	一五,一三七	四九,四三四	一九,四七四	一五,四四六	三三,五九六,六七	八五,八六五	△	一,二七八,〇八八	△	一,二七八,〇八八	
人力	五,九六	△	四,五九二	八,一五	四,七〇	五,七〇	五,五三四	九一,〇一一	二,三三〇	一,〇六	八七,七二	六,七五	二四,七三	一三,八九一	五,一三	一五,四四六	一五,四四六	三三,五九六,六七	八五,八六五	△	一,二七八,〇八八	△	一,二七八,〇八八	
合計	二五,〇八九,六六一	一四,七四八,四三三	一〇,八七九,九九四	三,三九八,五八六	七,〇九三,七三二	六,四四五,八三三	二六,七四二,七七	一三,八六二,九四	七,一七九,九五	三,四八〇,〇二七	二六,三四五,六七	五,四九五,六八九	七,五五五,五九	二,九五二,五七	九,三九四,〇六	三,六〇三,〇八五	四二,三五四	一八,〇八八	一九,四七四	一五,四四六	三三,五九六,六七	八五,八六五	△	一,二七八,〇八八
營業收入ニ對スル營業費割合	六〇.二	六〇.二	六〇.二	六〇.二	六〇.二	六〇.二	六〇.二	六〇.二	六〇.二	六〇.二	六〇.二	六〇.二	六〇.二	六〇.二	六〇.二	六〇.二	六〇.二	六〇.二	六〇.二	六〇.二	六〇.二	六〇.二	六〇.二	六〇.二
建設費ニ對スル益金年割合	七四.四	七四.四	七四.四	七四.四	七四.四	七四.四	七四.四	七四.四	七四.四	七四.四	七四.四	七四.四	七四.四	七四.四	七四.四	七四.四	七四.四	七四.四	七四.四	七四.四	七四.四	七四.四	七四.四	七四.四

資産及負債

本年度末ニ於ケル開業軌道ノ資本總額ハ拾九億五千參拾四萬六千五百拾六圓、社債借入金當座預金借越及支拂手形ヲ合セテ七億參拾五萬八千七百九拾五圓ニシテ未拂込資本金參億參千參百參萬九千六拾八圓、開業線建設費額ハ五億八千壹百九拾九萬九千九拾七圓ナリ、今之ヲ前年度ニ比スルニ資本金貳億九千六百九拾四萬六千五百九拾五圓社債及借入金等ニ於テ壹億八千七百四拾五萬八千五百七拾圓、開業線建設費額貳千六百五拾貳萬八千五百七拾四圓ヲ孰レモ増加セリ、斯ク資本金ノ増加著シキハ主トシテ會社合併及増資ノ結果ニ外ナラス更ニ動力別ニ示セハ左ノ如シ

種別	瓦力		馬力		人力		合計	前年度比較増減
	人	馬	人	馬	人	馬		
前年度比較増減	△	一七.二	△	一七.二	△	一七.二	△	〇.〇一
合計	三〇.六四	一三.九六	一.九六	九.七六	〇.二八	〇.二八	△	〇.〇一
瓦力	一九.〇六	一五.六二	三.六	八.〇六	△	△	〇.〇三	〇.〇二
馬力	一八.〇〇	一四.八三	四.七	六.〇	△	△	〇.〇三	〇.〇一
人力	一八.元	一七.七九	五.〇	九.七	△	△	〇.〇一	〇.〇六
種別	電氣	蒸氣	瓦力	馬力	人力	合計	前年度比較増減	
拂込未済資本金	三六,〇七,九〇〇	二,〇五,七六三	二,五八,七三三	二,一九,一三三	二四,五〇〇	三三,〇三九,〇六八	三二,一八三,三三一	
建設費(開業線)	五七,〇八五,二八一	六,七四,二五一	二,六〇五,四一五	一,四〇九,八七九	三九四,一九	五八,一九九,〇一七	二六,五八,五七四	
建設費(未開業線)	二八,一七,一九八	九,六六〇	一,五九五	四四,六九五	四九三	二八,三四六,四一一	二二,七九,五八六	
他事業興業費	一四,五五,七五三	二,五五,一五二	二,九四七,二九一	七三三,七九九	三九三,五四二	一五,八四三,〇〇〇	四〇九,八一〇,八三七	

種別	電氣	蒸氣	瓦斯	馬力	人力	合計	前年度比較増減
假出金	一五,九四九	五,四五八	六,五二九	一,五八〇	六,三〇〇	三,八七四	△三,二〇〇
未收入金	三,〇八〇	七,八〇五	一,三〇〇	三,五七六	九,三二五	三,九四六	△六,九八五
預備金	一〇〇,八七三	五,〇三九	七,六三三	二,六五〇	一,六九九	一〇二,四八〇	△二,七五七
貯藏物品	二八,四七二	一,九四二	二,七四五	一,八四三	三,一〇五	二九,〇七四	△二,五九八
有價證券	一四四,七四〇	三,九八七	三,〇一八	六,五二六	八,七六七	一四五,〇三六	△二,九五八
現金	一〇〇,三二八	一八,二五〇	一,二四六	一,二二二	八,三八四	一〇〇,七四四	△三,三八七
其他	七,三六八	一,四八四	四,九四九	二,六四〇	二,二四四	一〇,七四四	△三,一八四
合計	二,九八二,三〇四	二,一六六,六五五	二,九六〇,五六六	一,三六二,一〇三	一,四〇八,七三三	二,九八八,二五三	△五,九一七

負債ノ部

種別	電氣	蒸氣	瓦斯	馬力	人力	合計	前年度比較増減
資本金	一,九七,六六五	九七,二二六	一,三八七,五〇〇	八,五九〇,〇〇〇	八五,七〇三	一,九七〇,三六六	△二,九四六
特別資金	一〇,七四八	五,〇〇〇	—	三,〇〇〇	二八	一三,七七六	△一,二六六
法定準備金	四,〇三二	一,六四九	一,五三九	二,四八五	一六四,九七三	四二,七三四	△八,〇八四
任意準備金	四,八五九	二,一四一	九四,五六一	一,三七六〇	七,三六七	四四,三三六	△四,六〇七
社債	四七,七九〇	—	—	四,〇〇〇	—	四四,七九〇	△一,〇六六
借入金	一七,三七九	一,六〇八	二,〇七三	三,五三四	二,九五七	一八,二四〇	△一,八七五
當座預金	四六,一〇五	八,八六三	三,四四三	三,〇五九	一,八一七	六三,一四七	△三,四七七
支拂手形	七,九〇六	五,三三〇	七,五〇一	一,六一五〇	—	一六,一八七	△七,四九五
未拂金	二,三〇二	一,三七四	一,〇四五	三,七〇七	—	二,五三七	△五,五〇七
未拂配當金	七,八三二	五,八三三	二,七二二	二,九四九	五,八三三	二五,〇八四	△四,八五四

第五節 職員

種別	電氣	蒸氣	瓦斯	馬力	人力	合計	前年度比較増減
假受金	四〇,五五〇	八四,一五二	四七,七九二	五五,七六六	九五,七四四	四〇,四三六	△七,一九八
保證金	一九,〇一七	一四,三六〇	二七,五九二	四,七八六	—	一九,五八八	△三,〇五八
前期繰越金	一五,三六六	一六,四六一	一五,九九四	八,二四五	五七,五二七	一五,八一七	△一,〇七九
当期利益金	七〇,九三九	一六五,〇二〇	六八五,四二四	一四〇,〇八六	四七,九六四	七二,三三三	△二,一八六
職員積立金	五,三七七	四八,一七一	六七四,五七一	七〇,四五五	七三	六,一六五	△一,一八七
其他	七〇,一九六	九〇,六二六	一五,六七五	一九,三九三	—	七〇,三七六	△一七,〇五七
合計	二,九八二,三〇四	二,一六六,六五五	二,九六〇,五六六	一,三六二,一〇三	一,四〇八,七三三	二,九八八,二五三	△五,九一七

本年度末ニ於ケル軌道ノ職員數ハ五萬四千九百九十九人ナリ而シテ前年度迄ハ運輸従事員數ノミナリシカ本年度分ヨリハ職員全部ヲ計上セルヲ以テ前年度ニ比シ相當人員ノ増加ヲ示セリ之ヲ動力別ニ示セハ左ノ如シ

種別	電氣		蒸氣		瓦斯		馬力		人力		合計
	人員	給料並諸給與月額	人員	給料並諸給與月額	人員	給料並諸給與月額	人員	給料並諸給與月額	人員	給料並諸給與月額	
本年度	五,三三五	四,六八七	一,三七二	五,七二二	五,七二二	二七,三四四	三,八五八	一八,三六三	三,九二二	一五,五五四	五〇,九九九
前年度比較増減	一八,〇三三	—	五,三五五	—	二,五三三	—	—	—	—	—	一九,〇〇〇

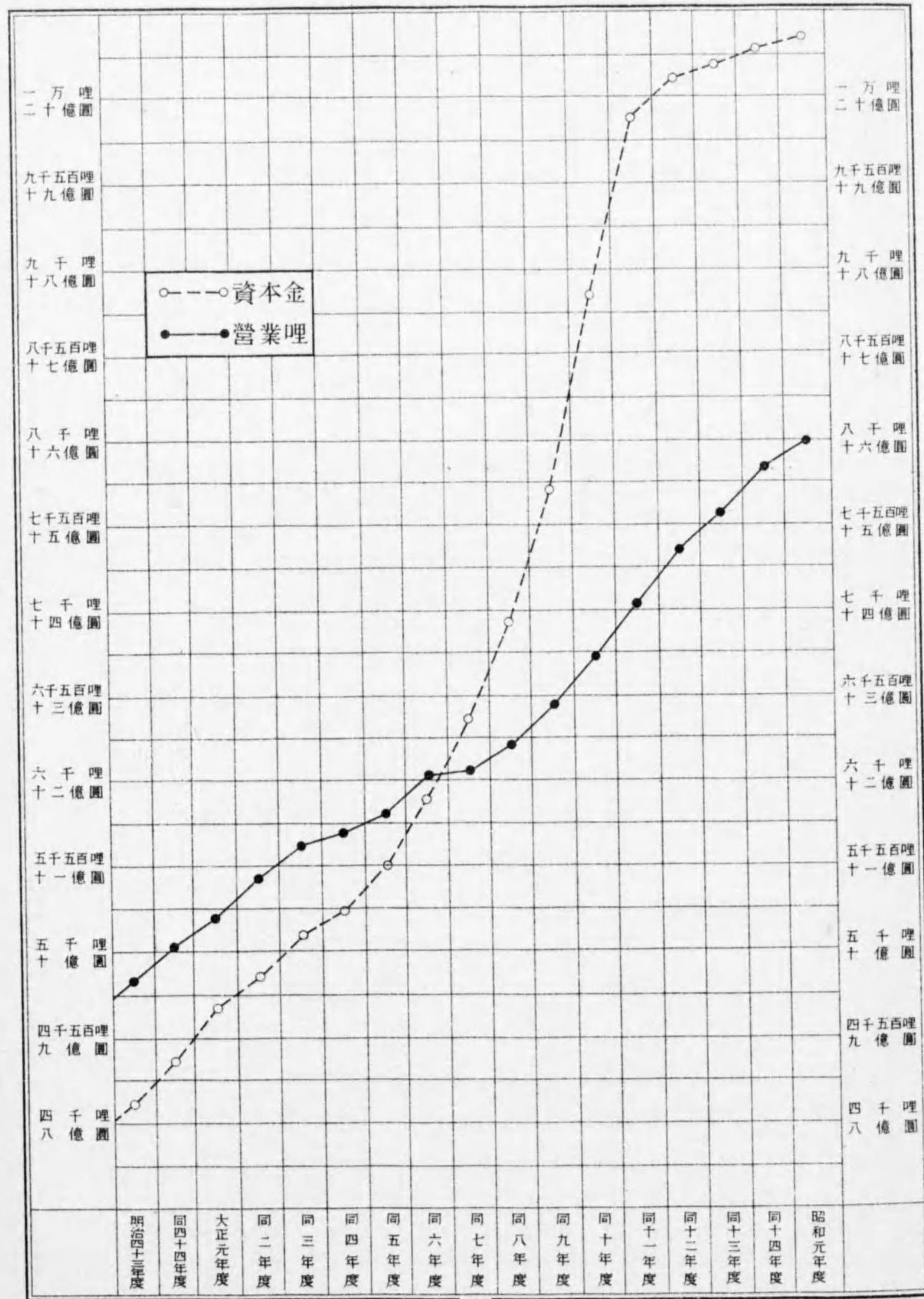
備考 給料並諸給與月額ハ本年度ヨリ新ニ計上セシヲ以テ前年比較不明

第三章 専用鐵道

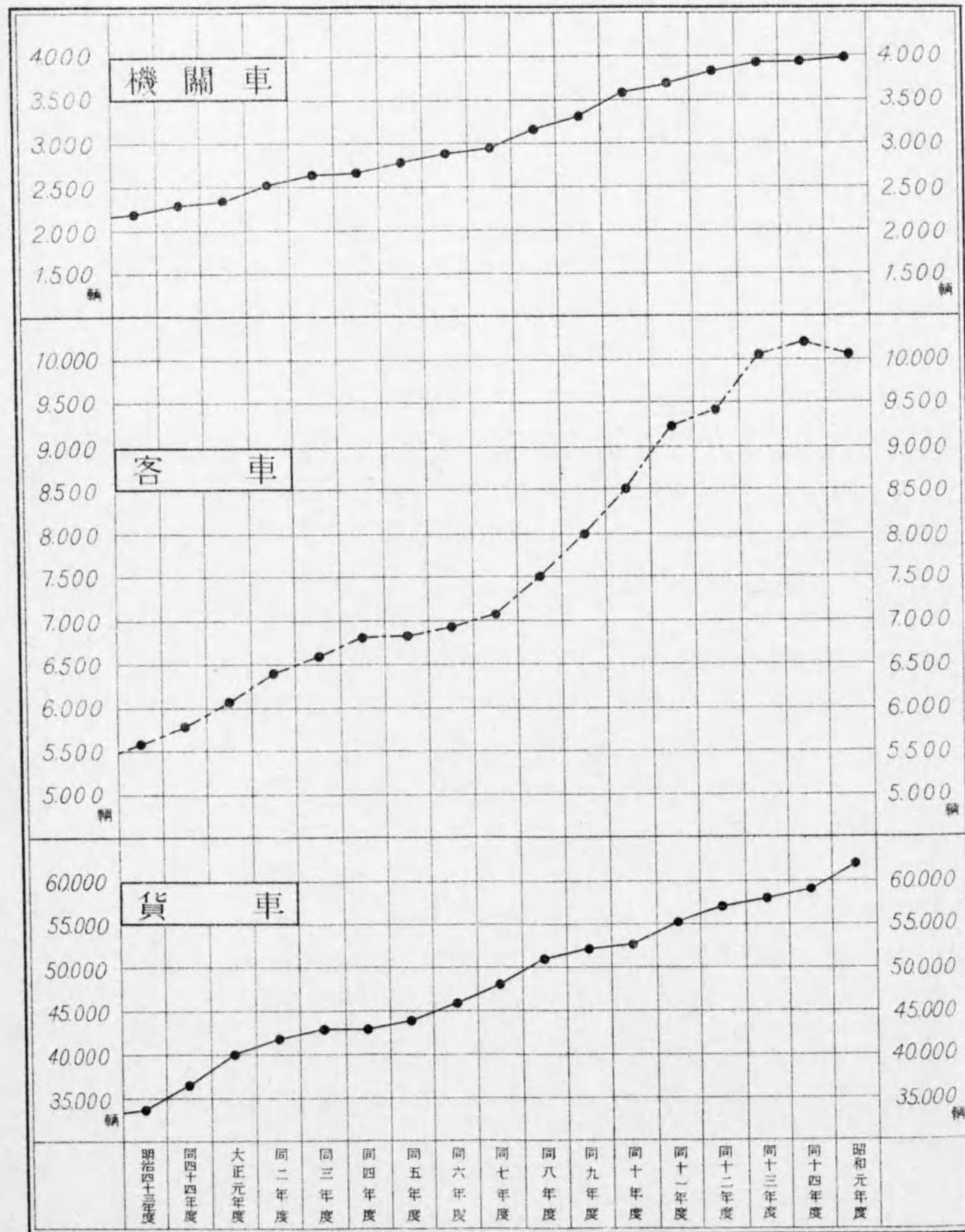
本年度末現在ノ専用鐵道ハ總數九十二ニシテ内運輸開始線二百五哩二十四鎖、運輸未開始線二十三哩  
十七鎖ナリ、之ヲ前年度ニ比スルニ鐵道數八、運輸開始線十一哩十九鎖ヲ増加セルモ運輸未開始線ハ  
三十八鎖ヲ減少セリ

圖表

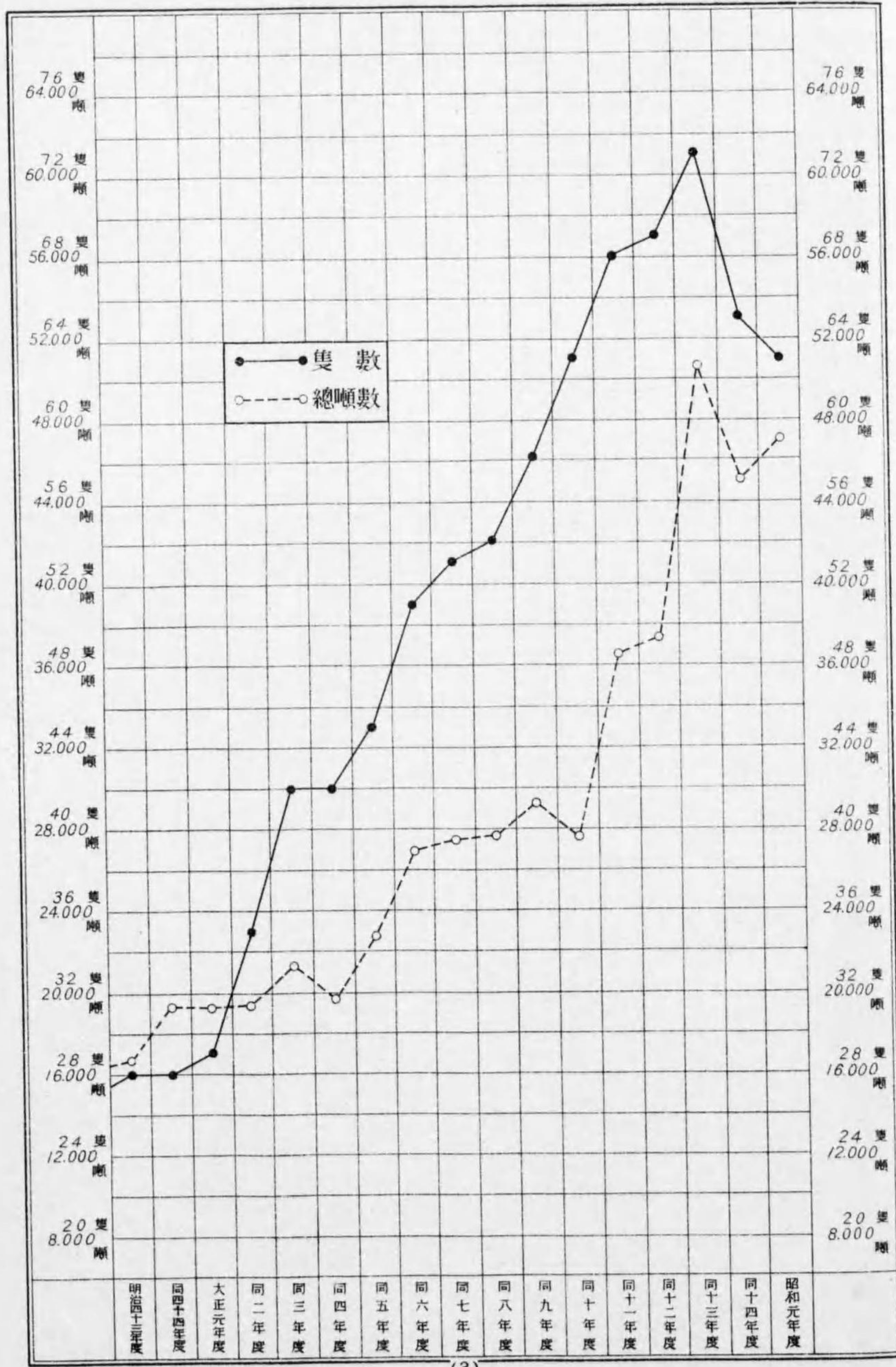
# 資本金及營業哩



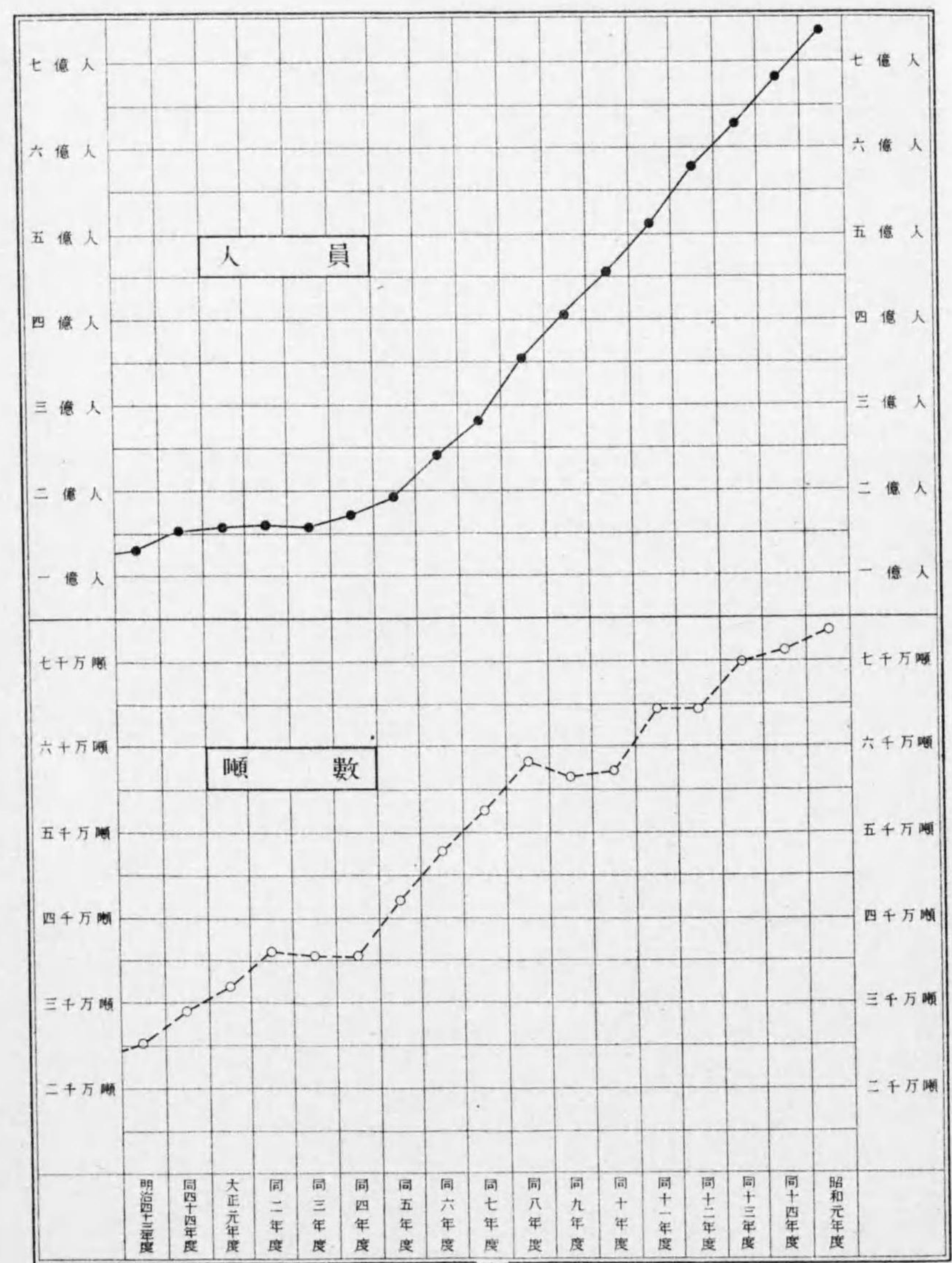
車輛現在數



船舶隻數及總噸數

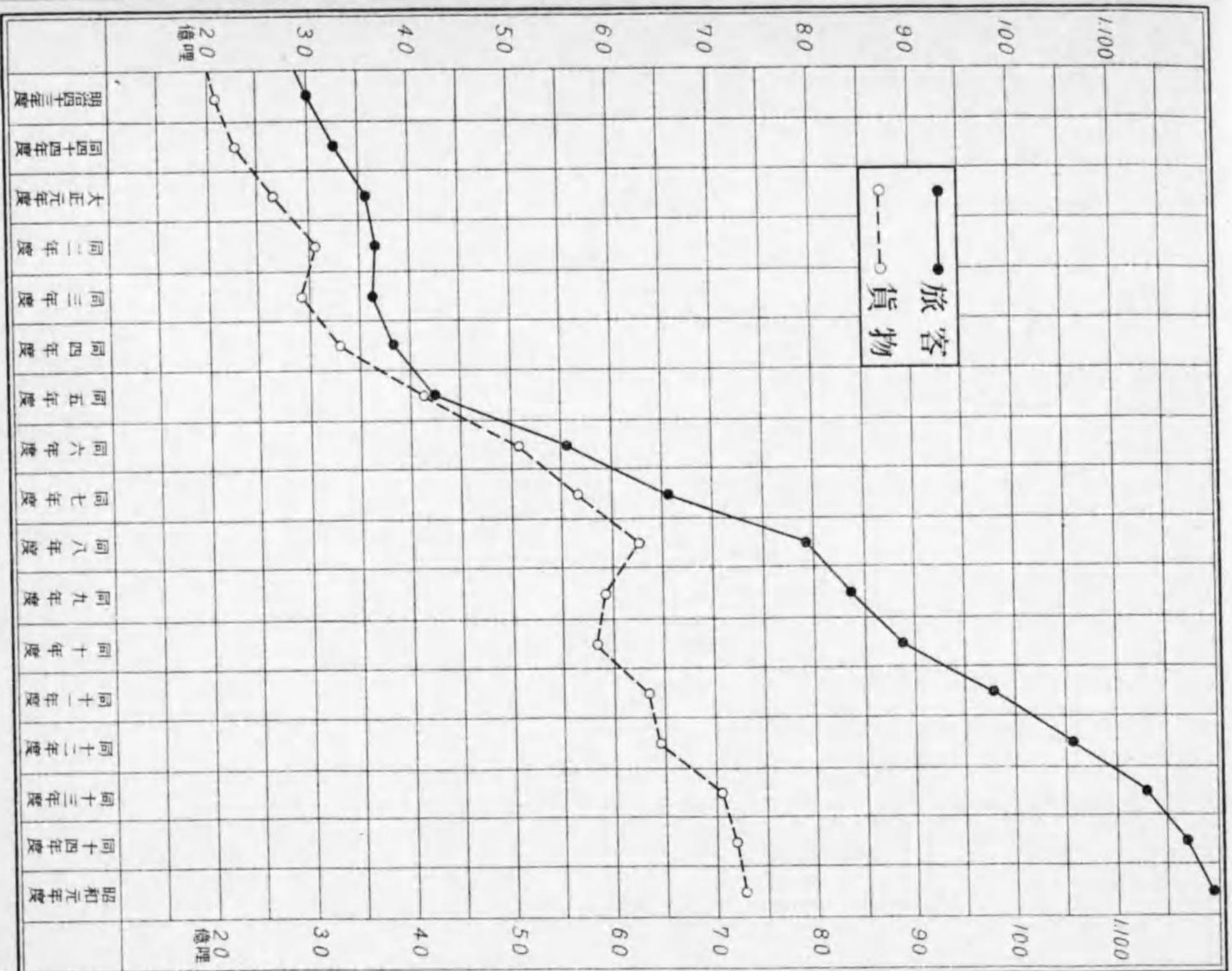


旅客人員及貨物噸數

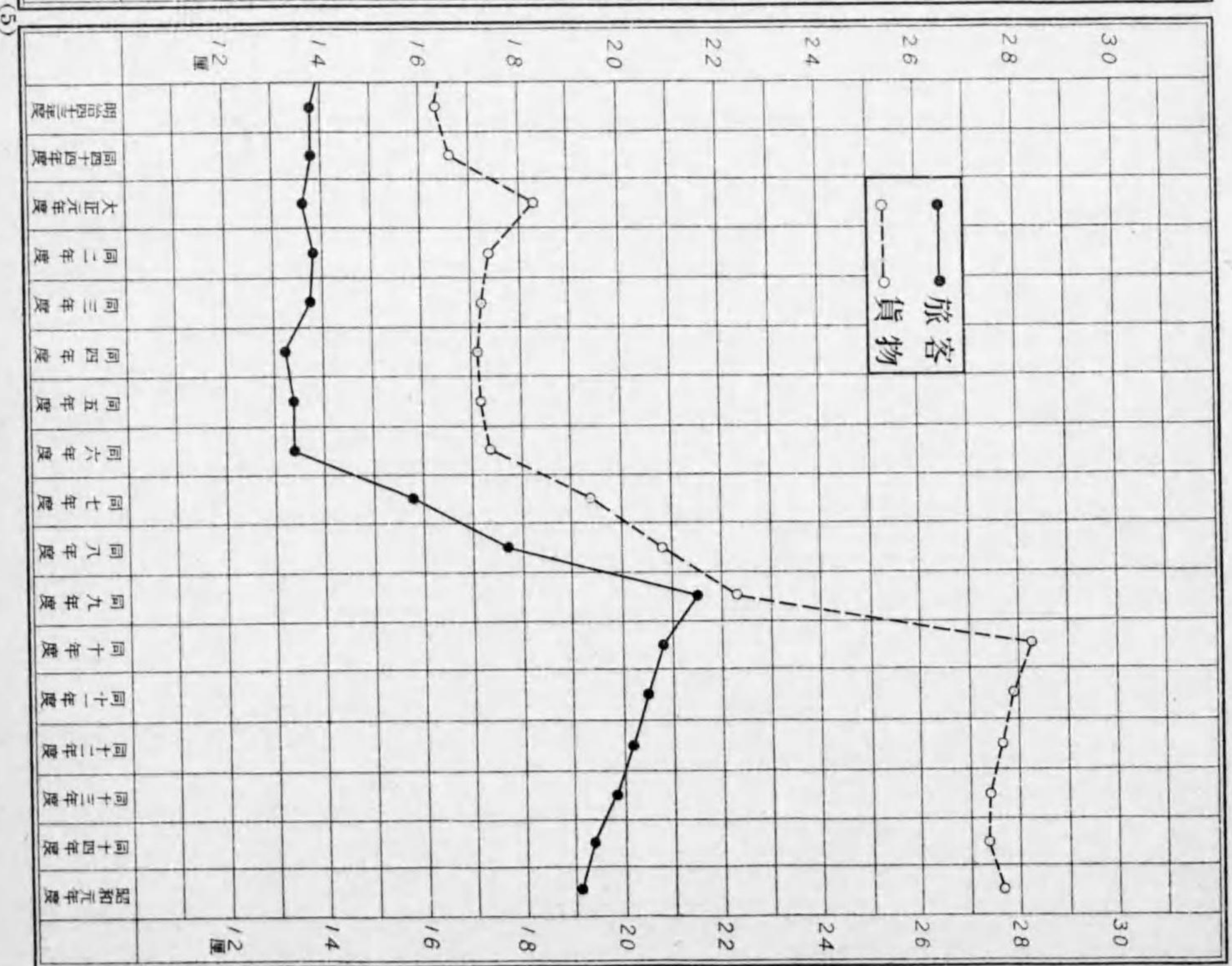




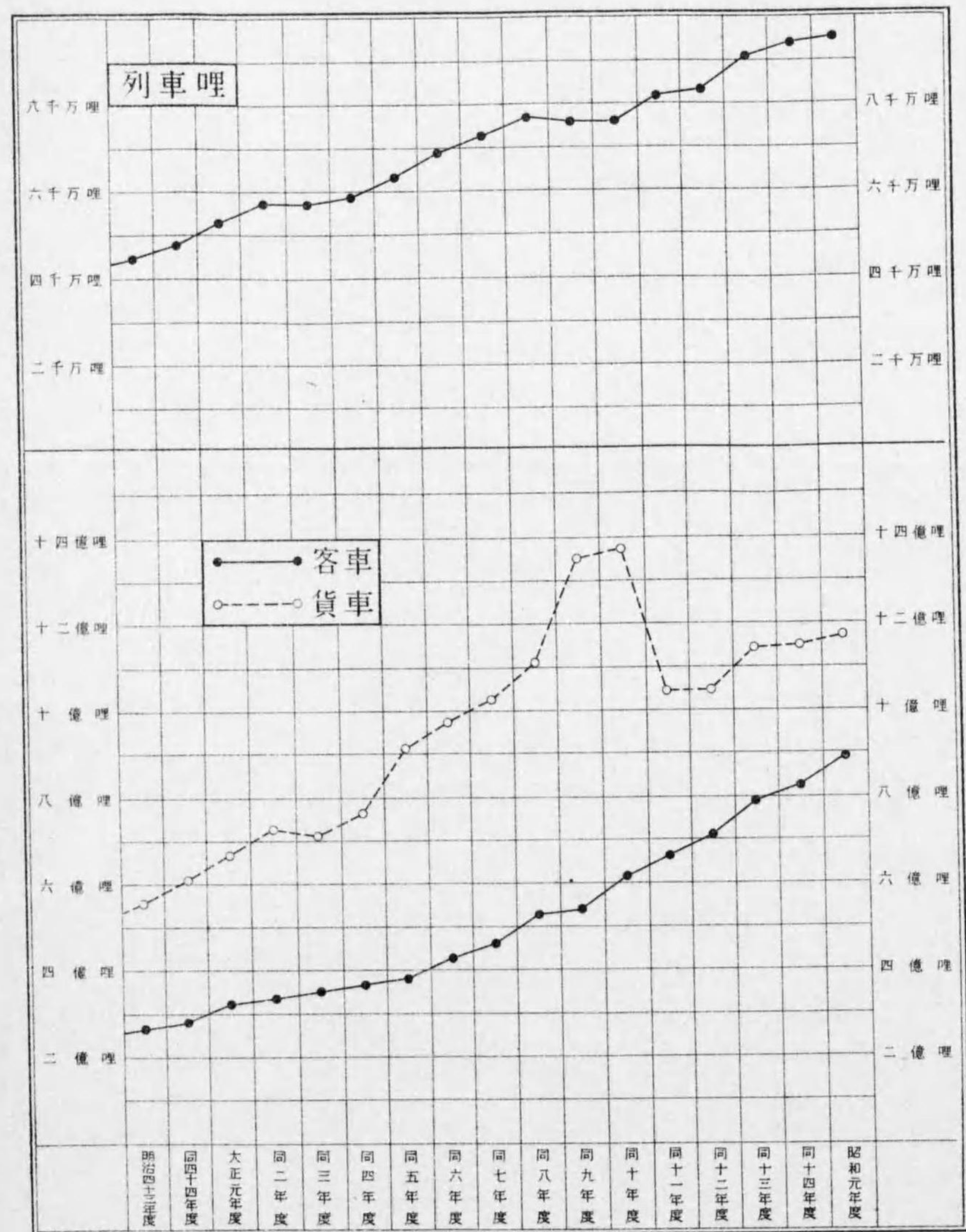
旅客延入哩及貨物延噸哩



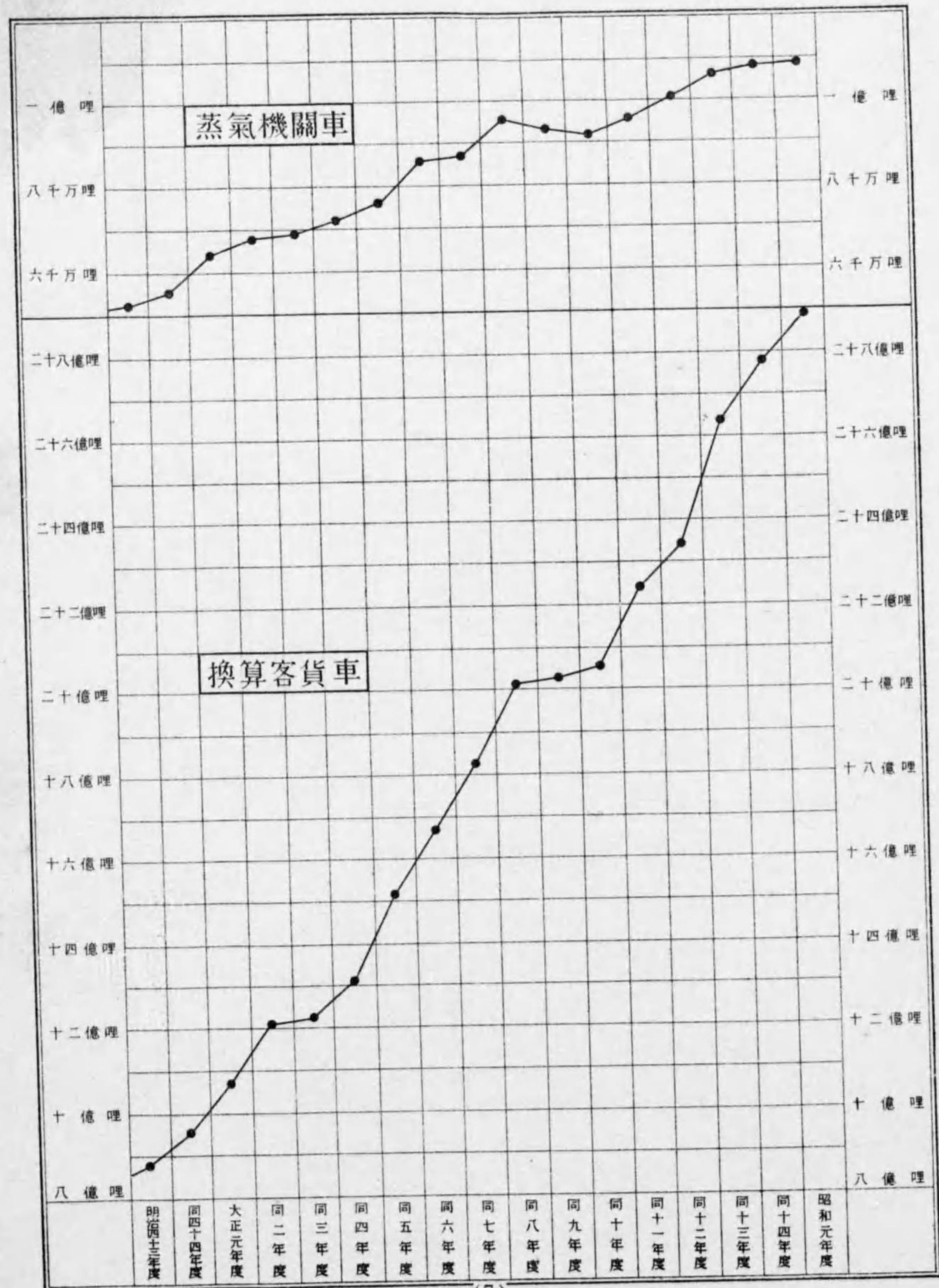
旅客一人一哩及貨物一噸一哩平均運費



列車及客貨車走行哩

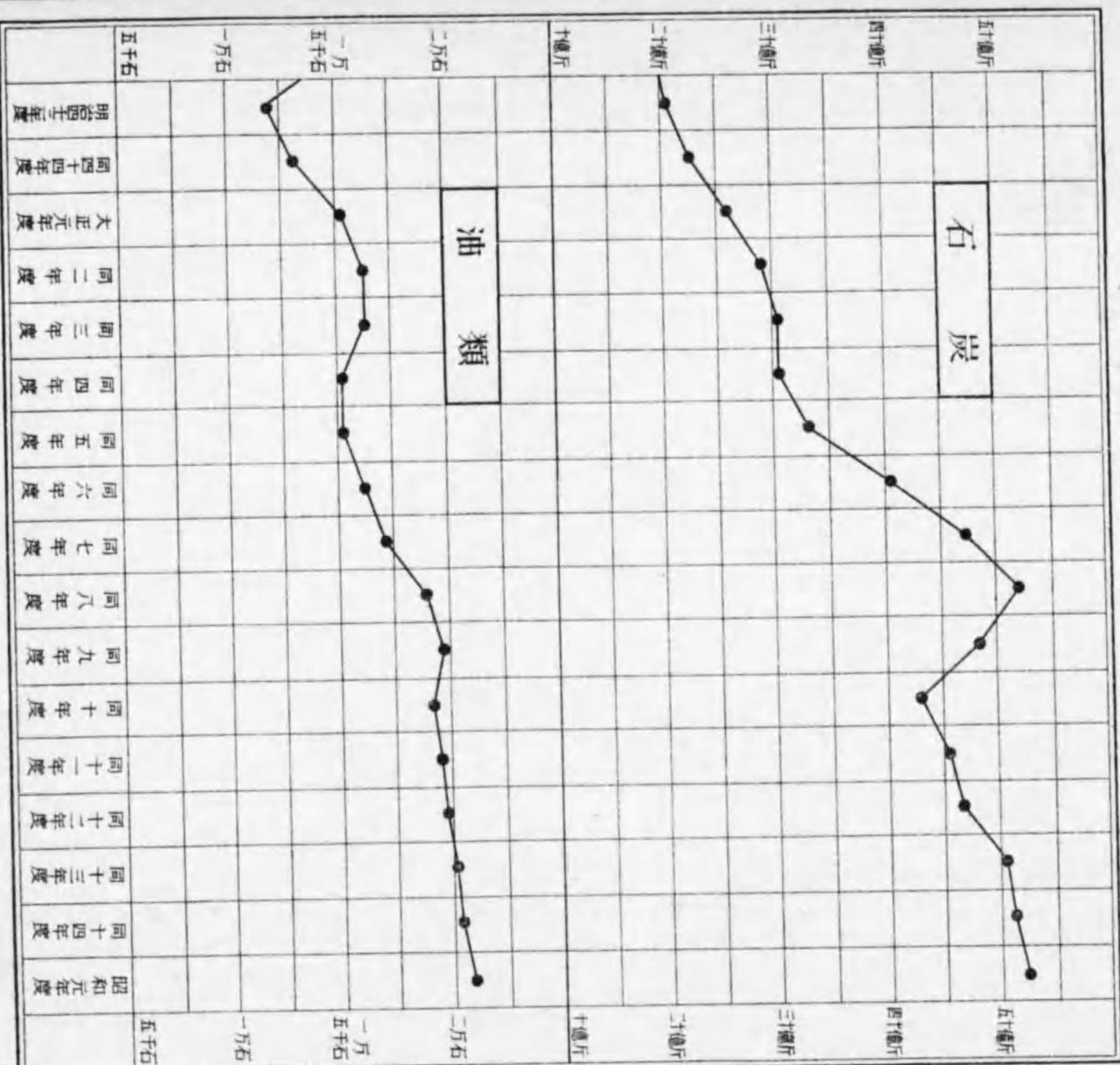


蒸氣機關車及換算客貨車走行哩

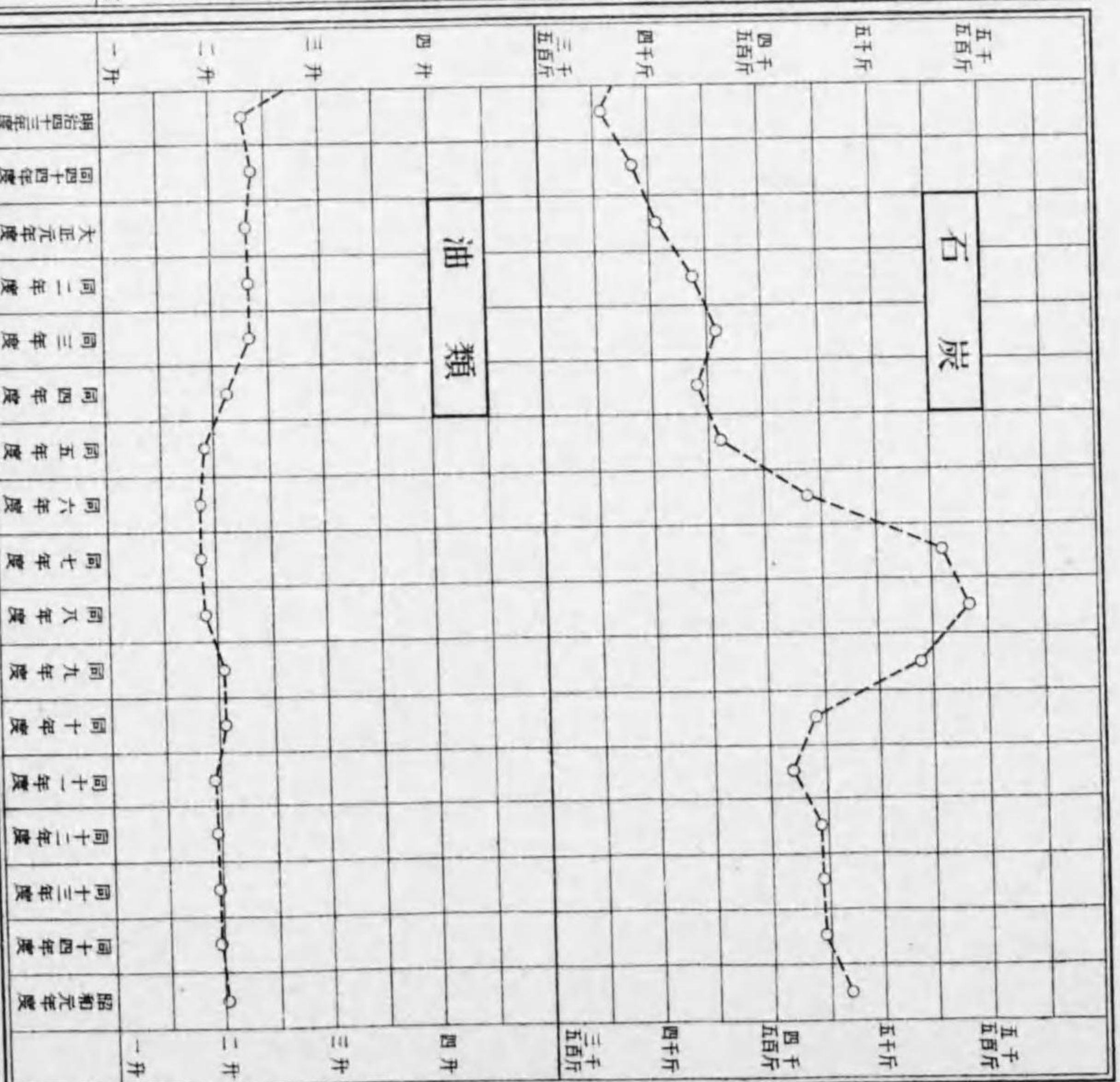


高消費油及炭石用車機關蒸汽

(△客貨車及汽車動車非)

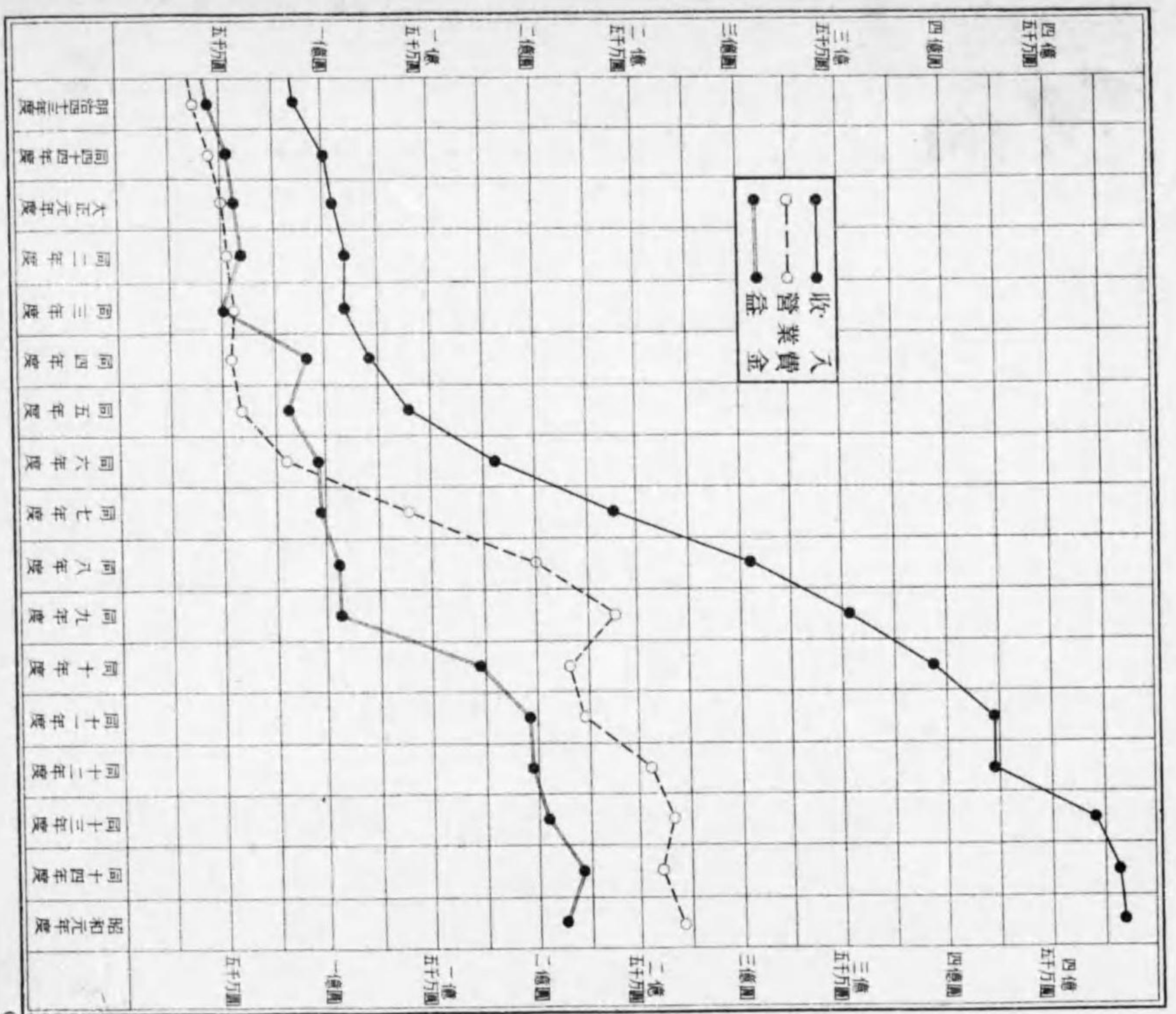


合割又哩百走行車關機

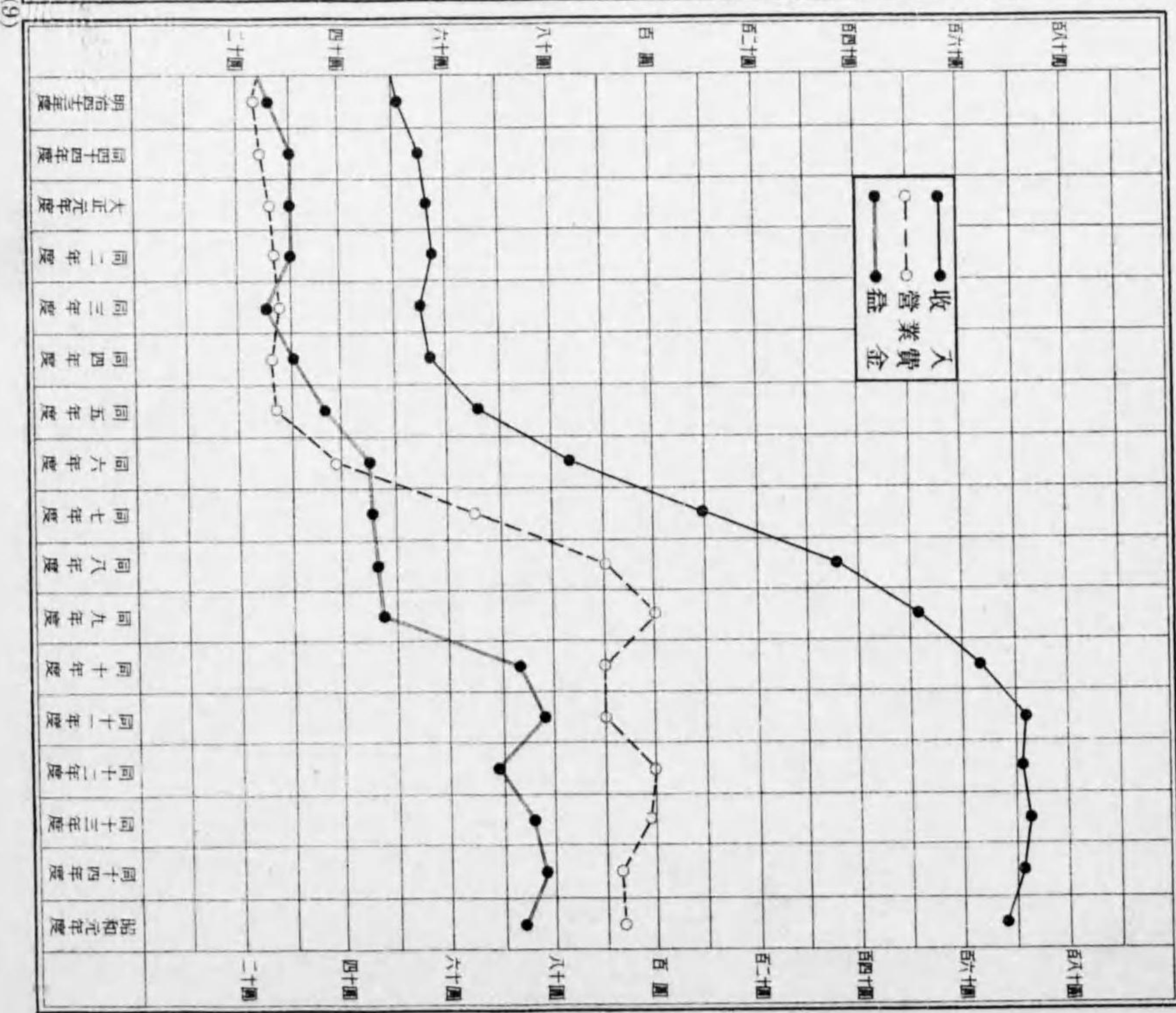


(8)

營業收入及營業費並益金



一日一哩平均收支益金



(9)

昭和二年十二月十五日印刷  
昭和二年十二月十七日發行

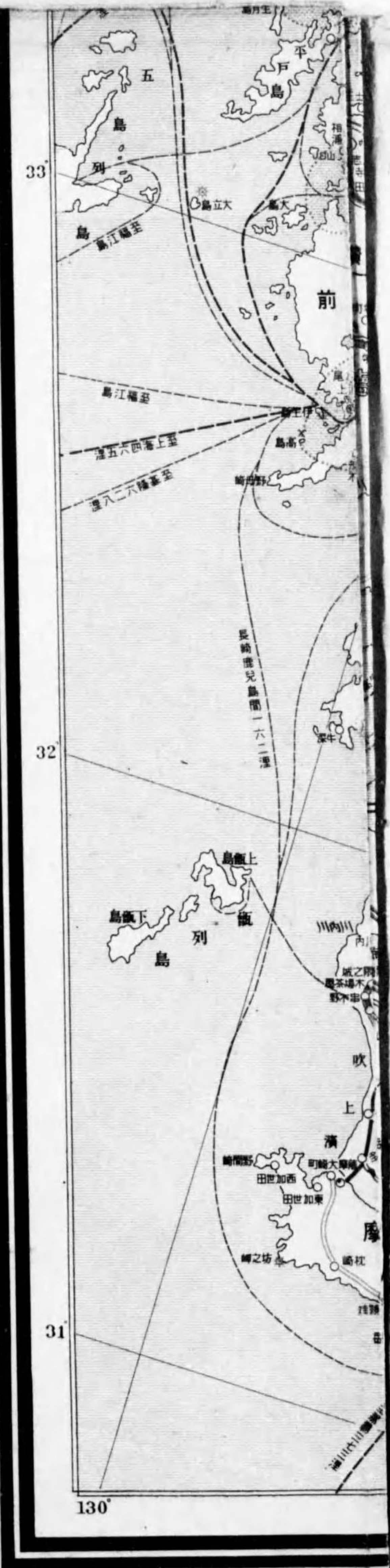
# 鐵道省

東京市牛込區西五軒町五十二番地

印刷者 小長谷勝之助

東京市牛込區西五軒町五十二番地

印刷所 行政學會印刷所第二工場



昭和三年十二月

































凸版印刷株式會社印刷

北海道

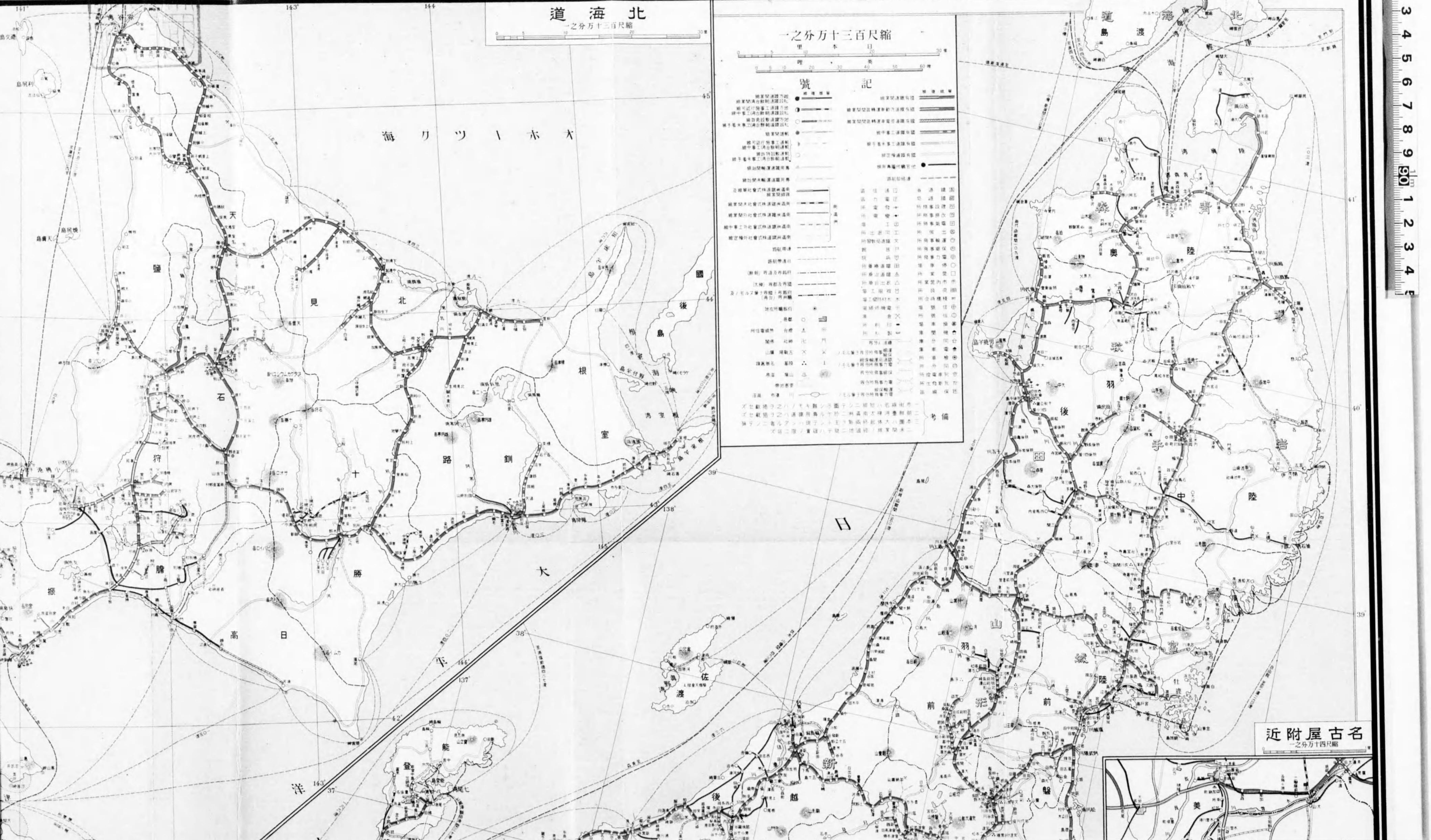
縮尺三萬分之一

縮尺三萬分之一

記號

	國營鐵道		支那鐵道
	地方鐵道		國庫債券
	臨時鐵道		支那鐵道
	臨時鐵道		支那鐵道
	臨時鐵道		支那鐵道
	臨時鐵道		支那鐵道
	臨時鐵道		支那鐵道
	臨時鐵道		支那鐵道
	臨時鐵道		支那鐵道
	臨時鐵道		支那鐵道
	臨時鐵道		支那鐵道
	臨時鐵道		支那鐵道
	臨時鐵道		支那鐵道
	臨時鐵道		支那鐵道
	臨時鐵道		支那鐵道
	臨時鐵道		支那鐵道

考備



名古屋附近

縮尺四萬分之一

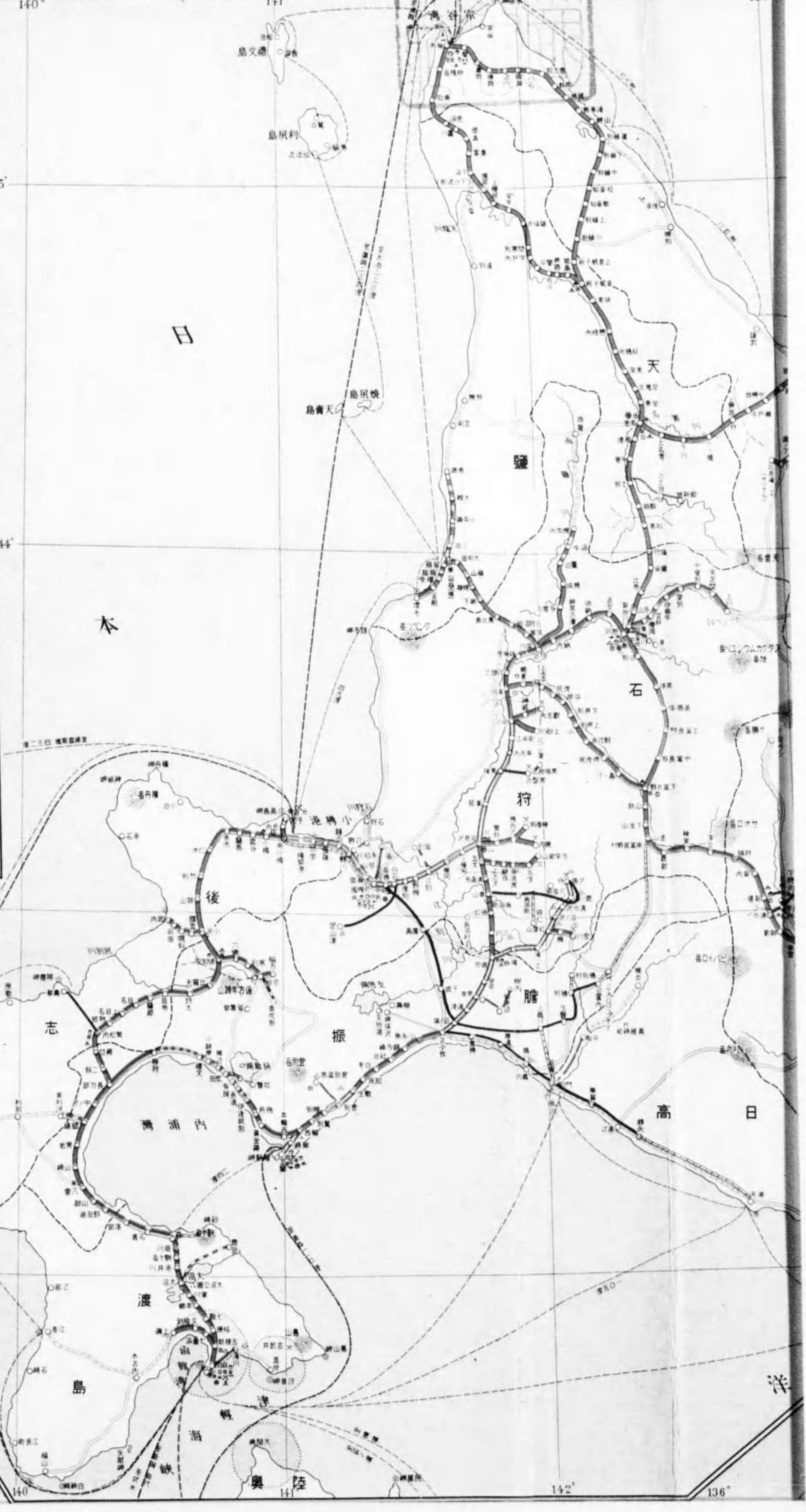
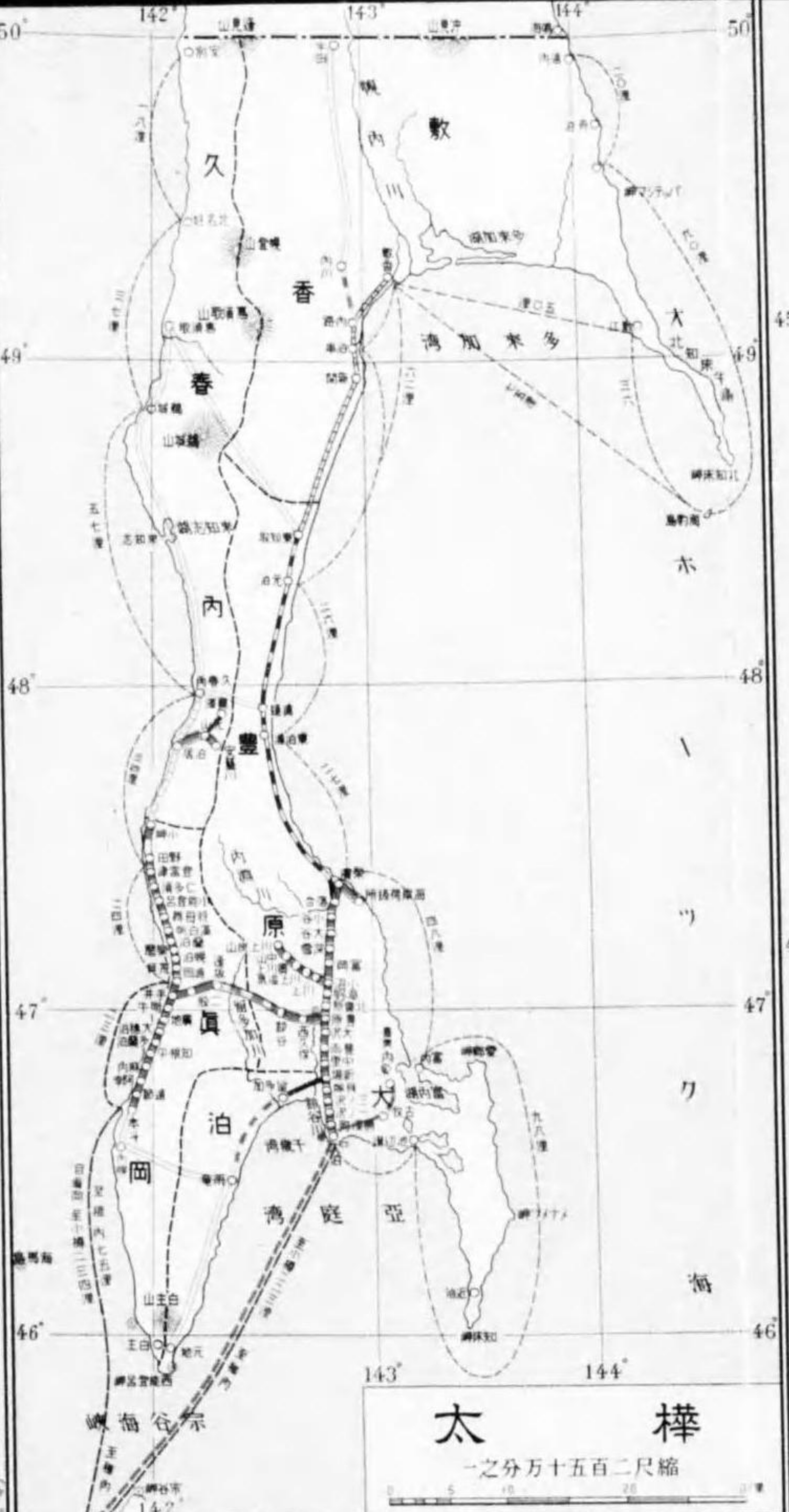
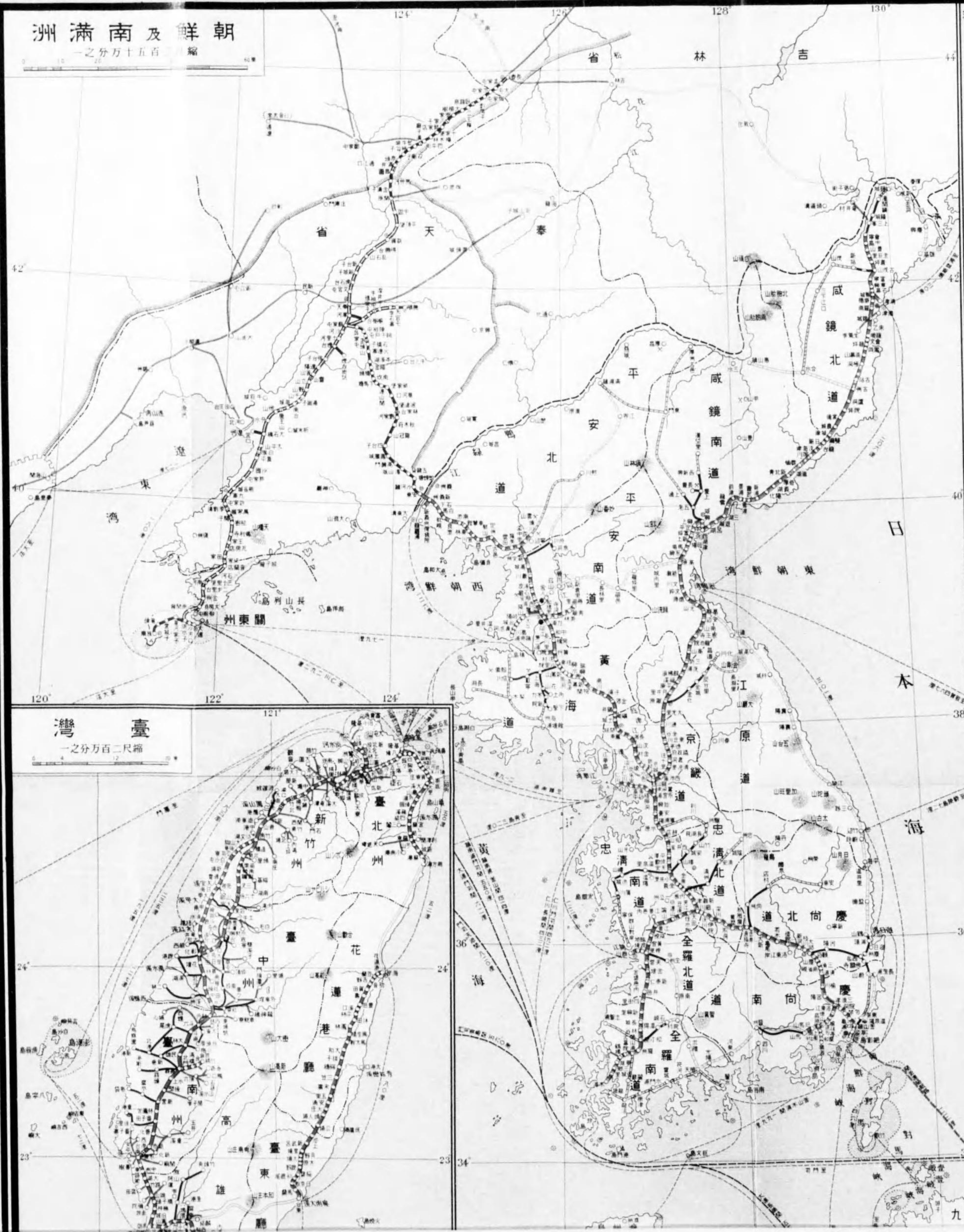




全 國 鐵 道 線 路 圖 附 南 滿 洲 鐵 道 省 道 鐵

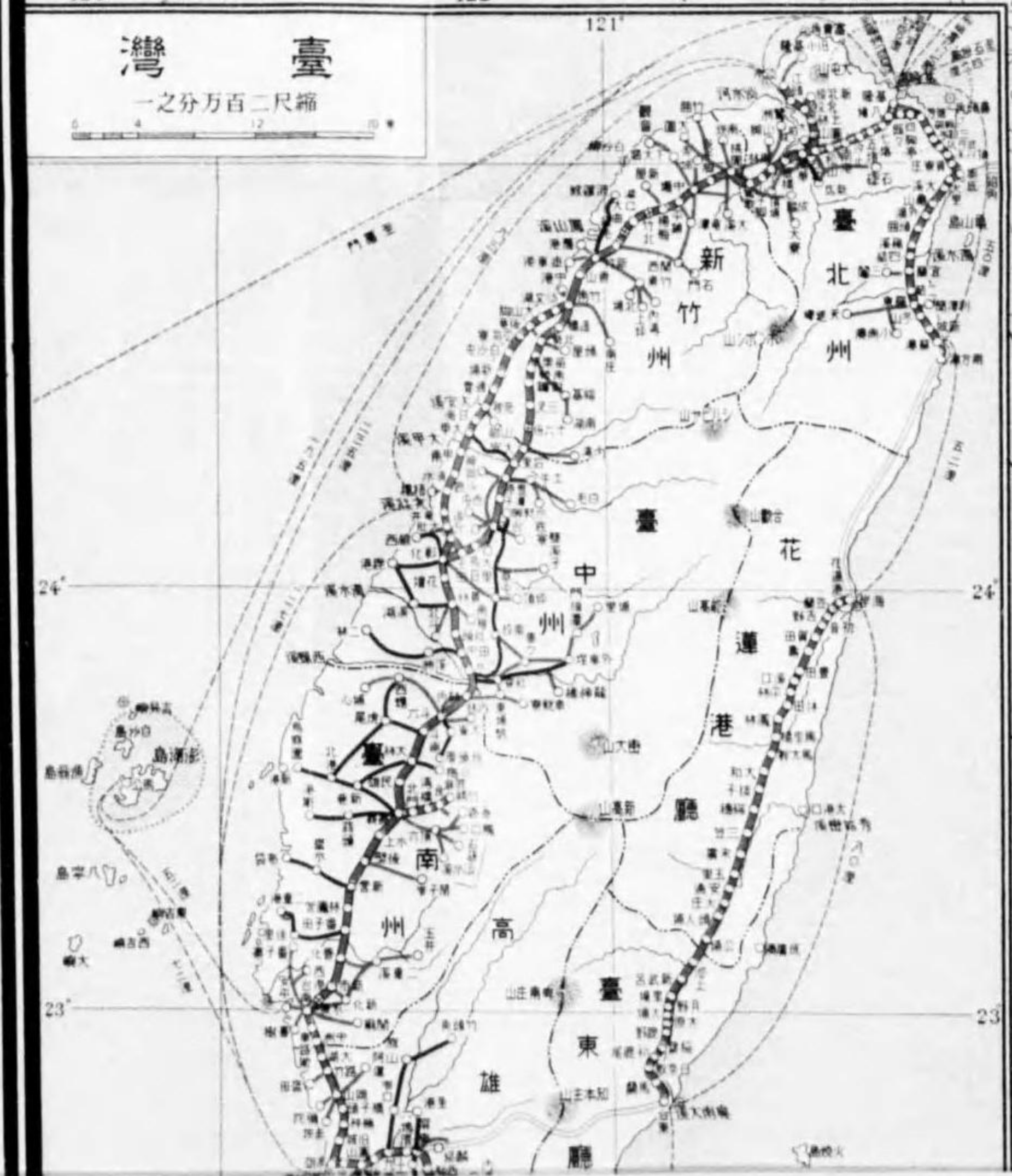
洲 滿 南 及 鮮 朝

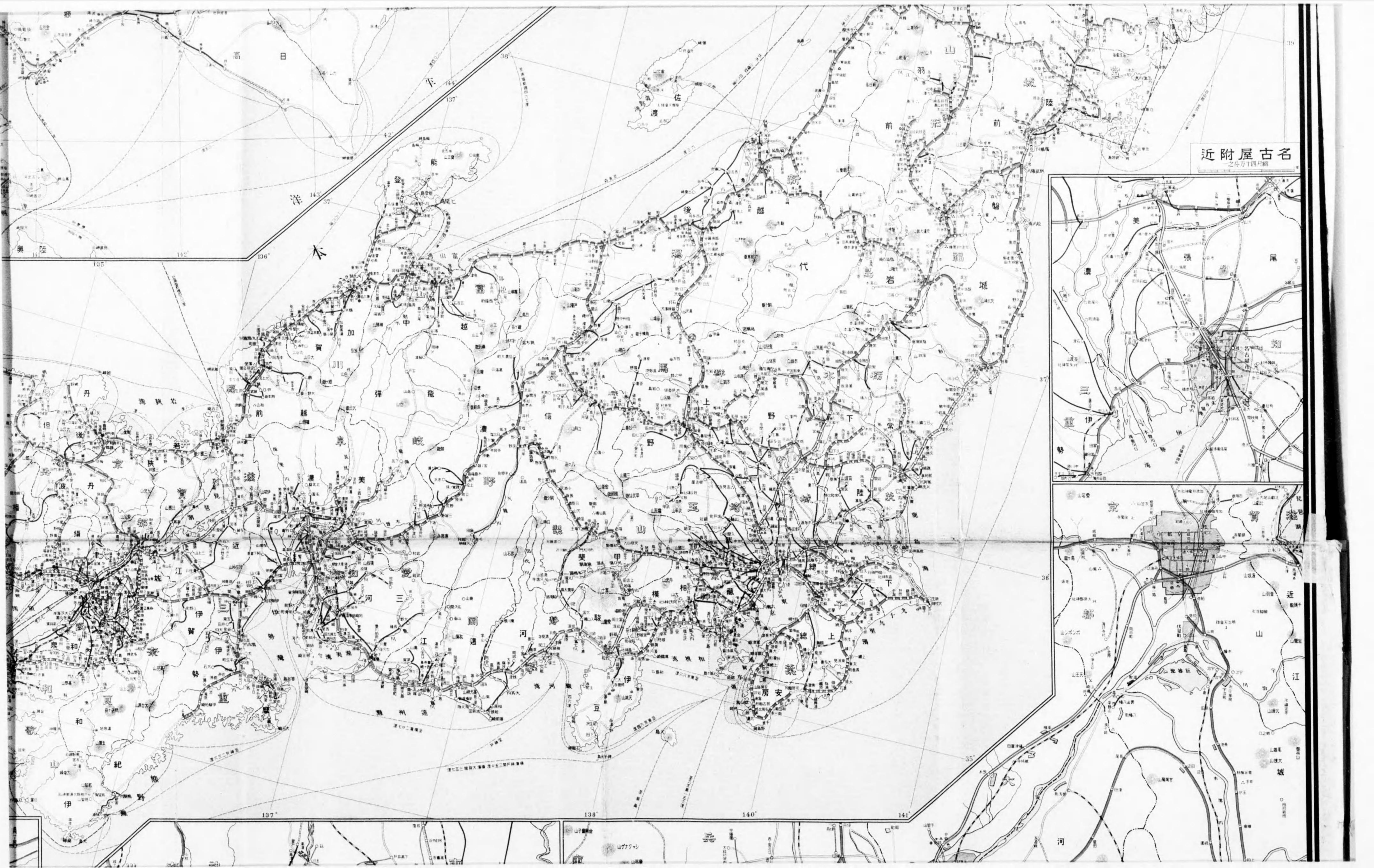
一 之 分 万 五 百 二 尺 縮



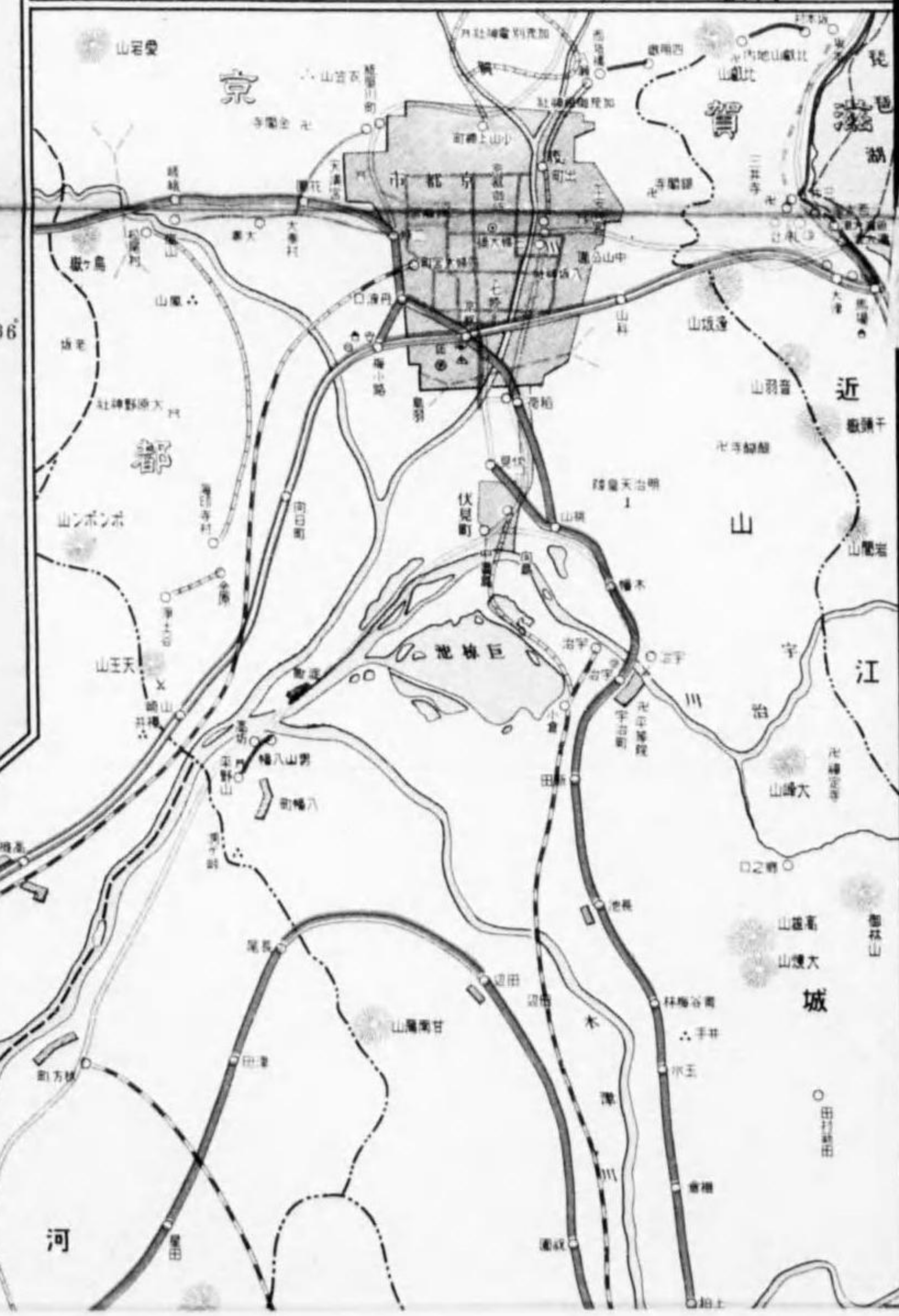
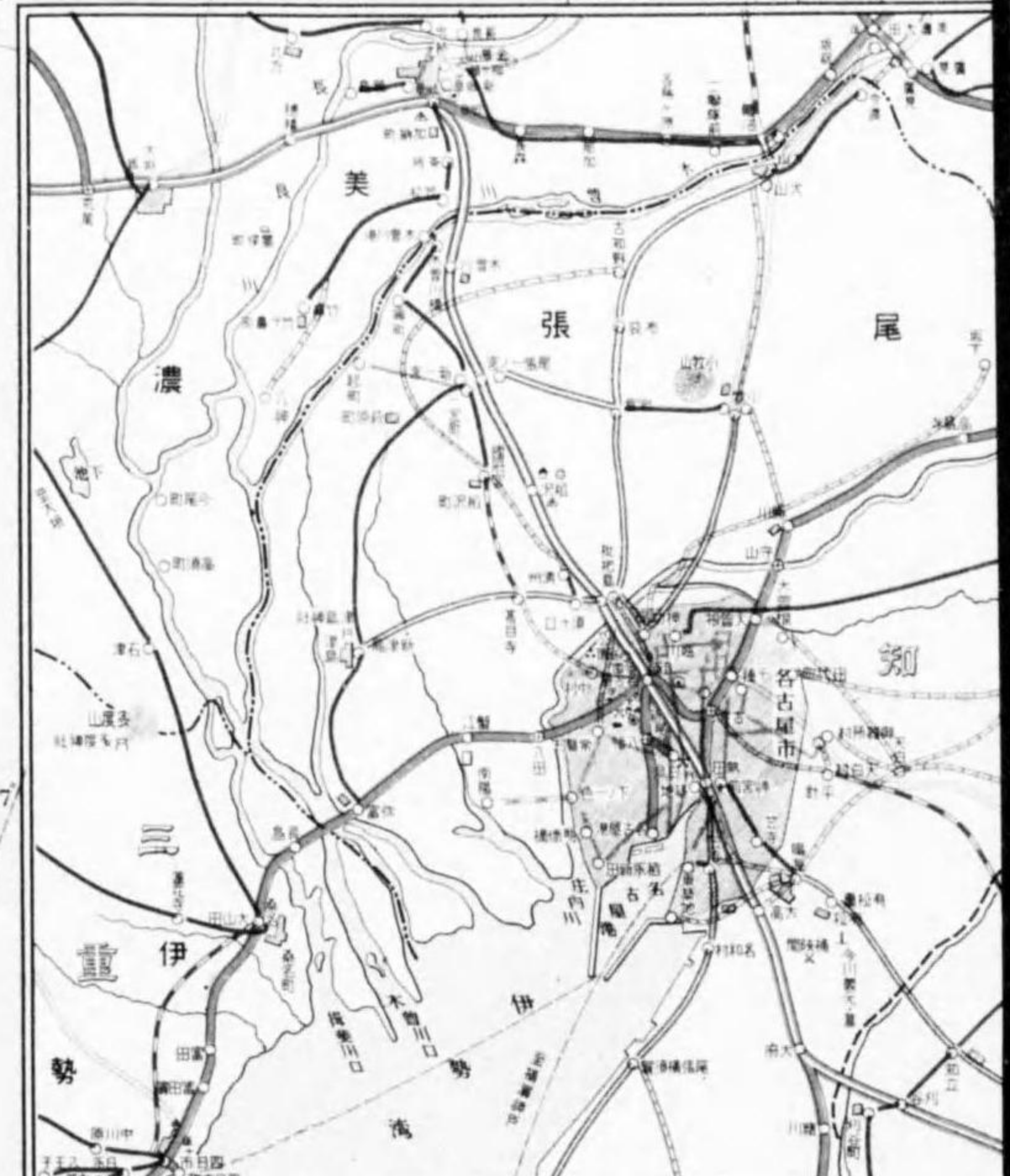
灣 臺

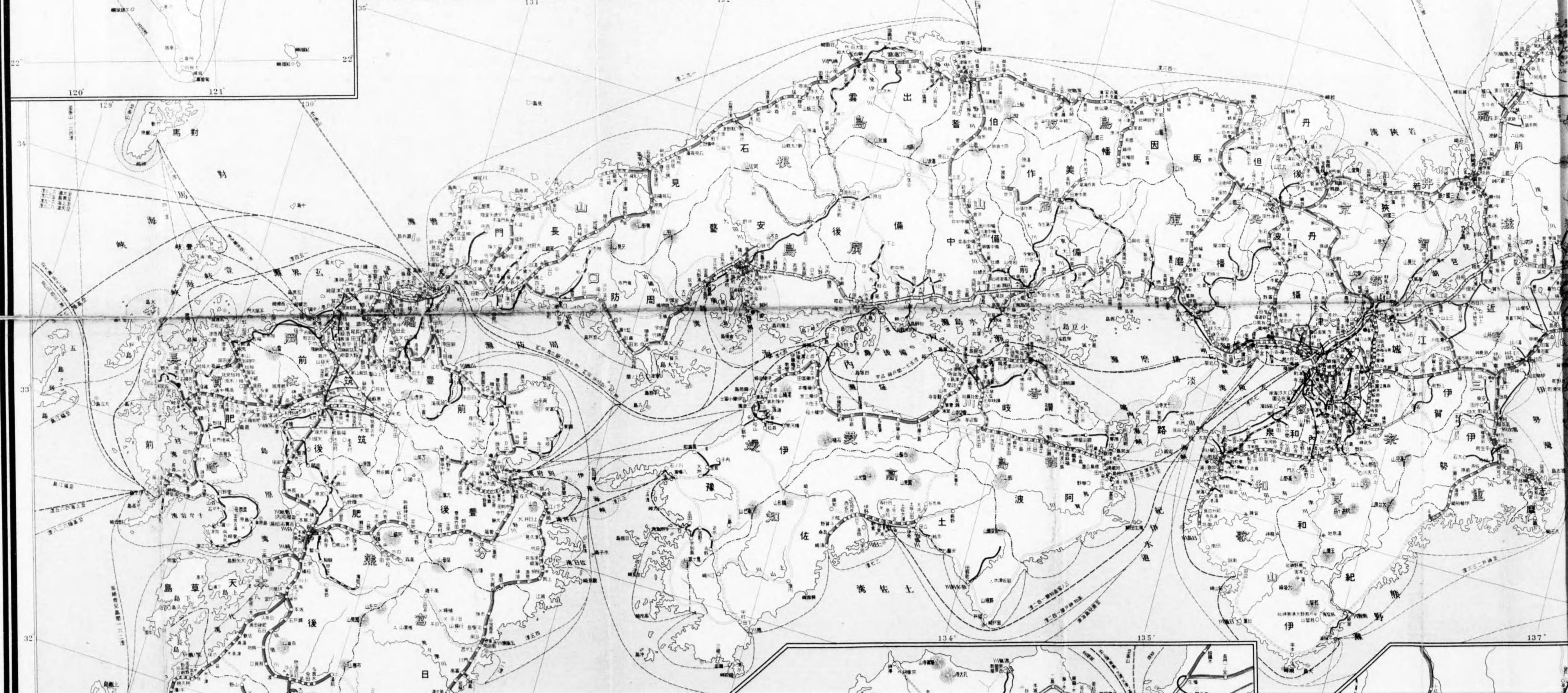
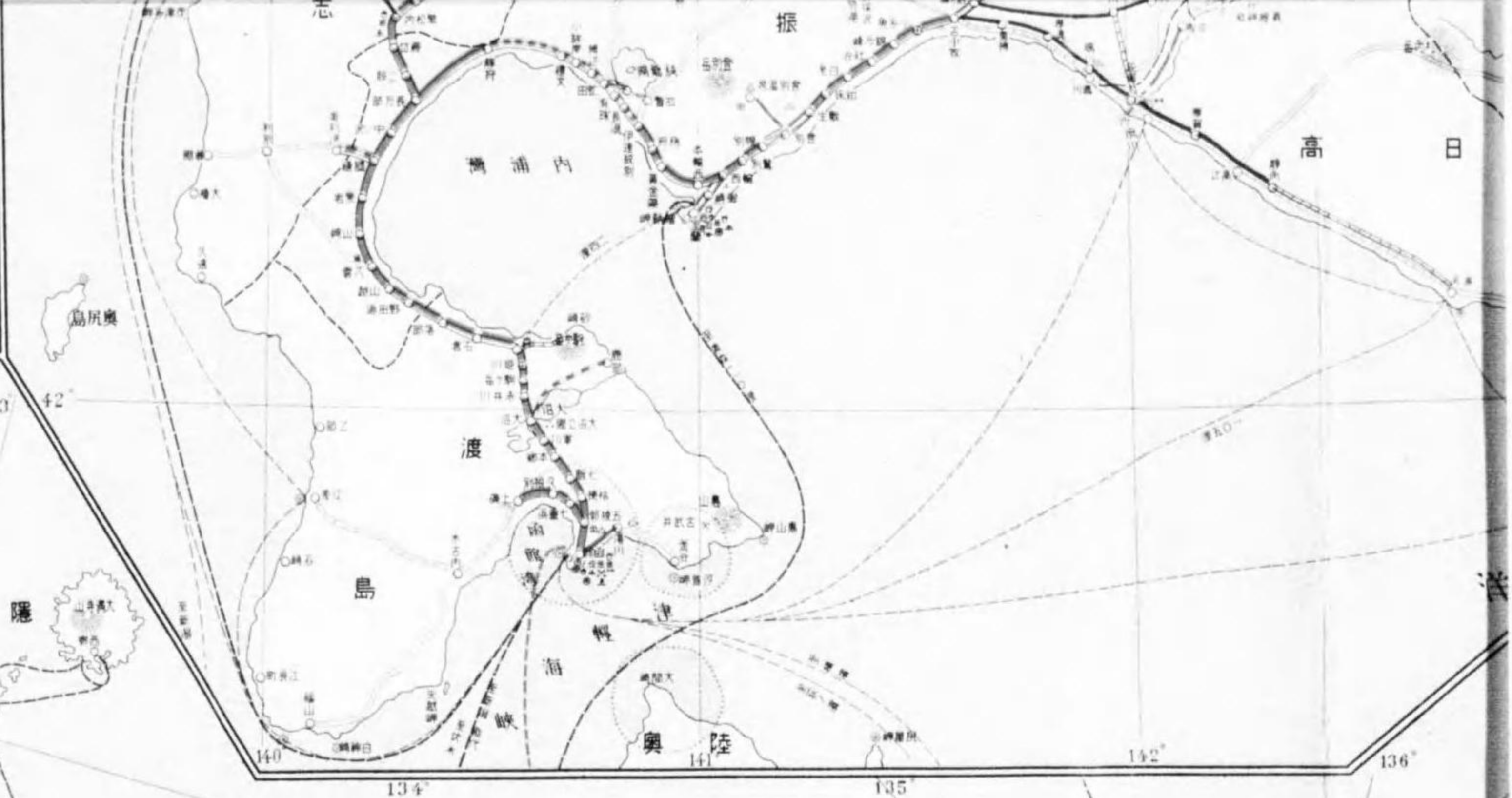
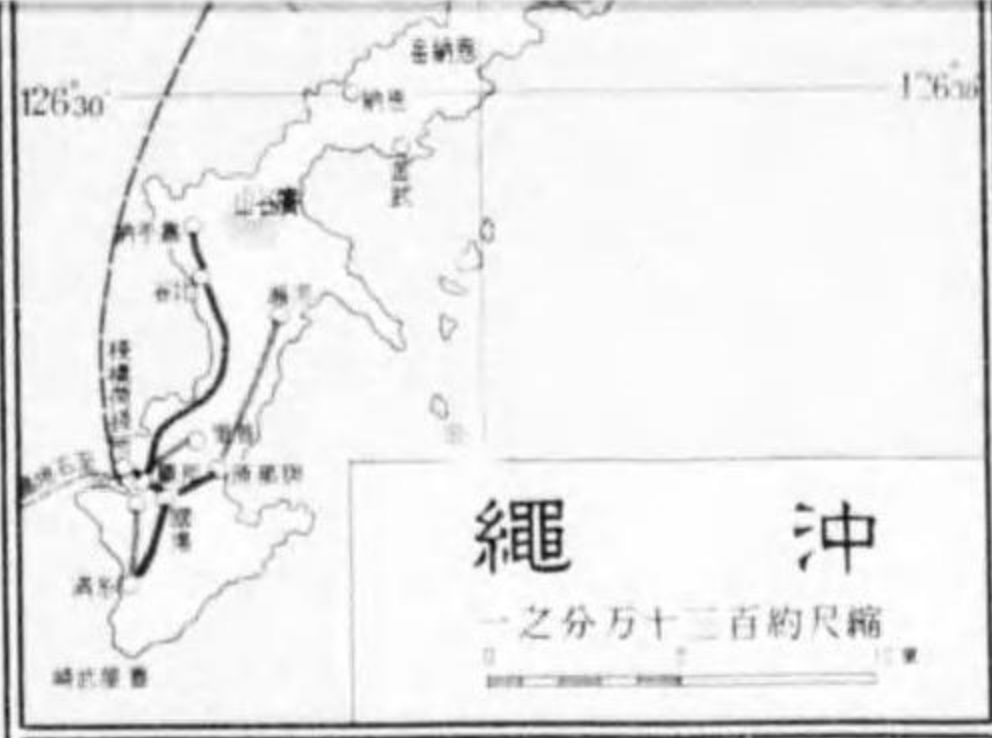
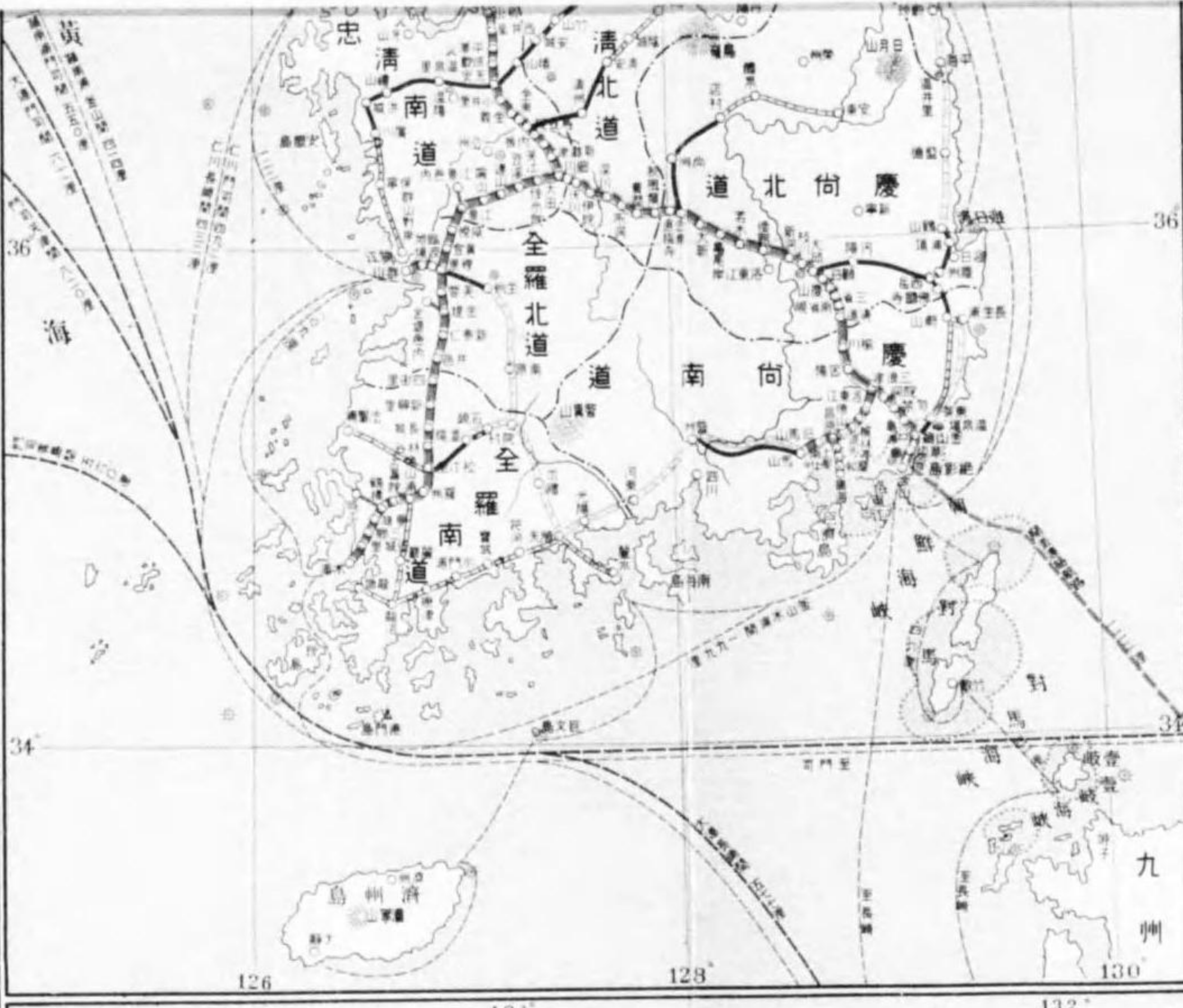
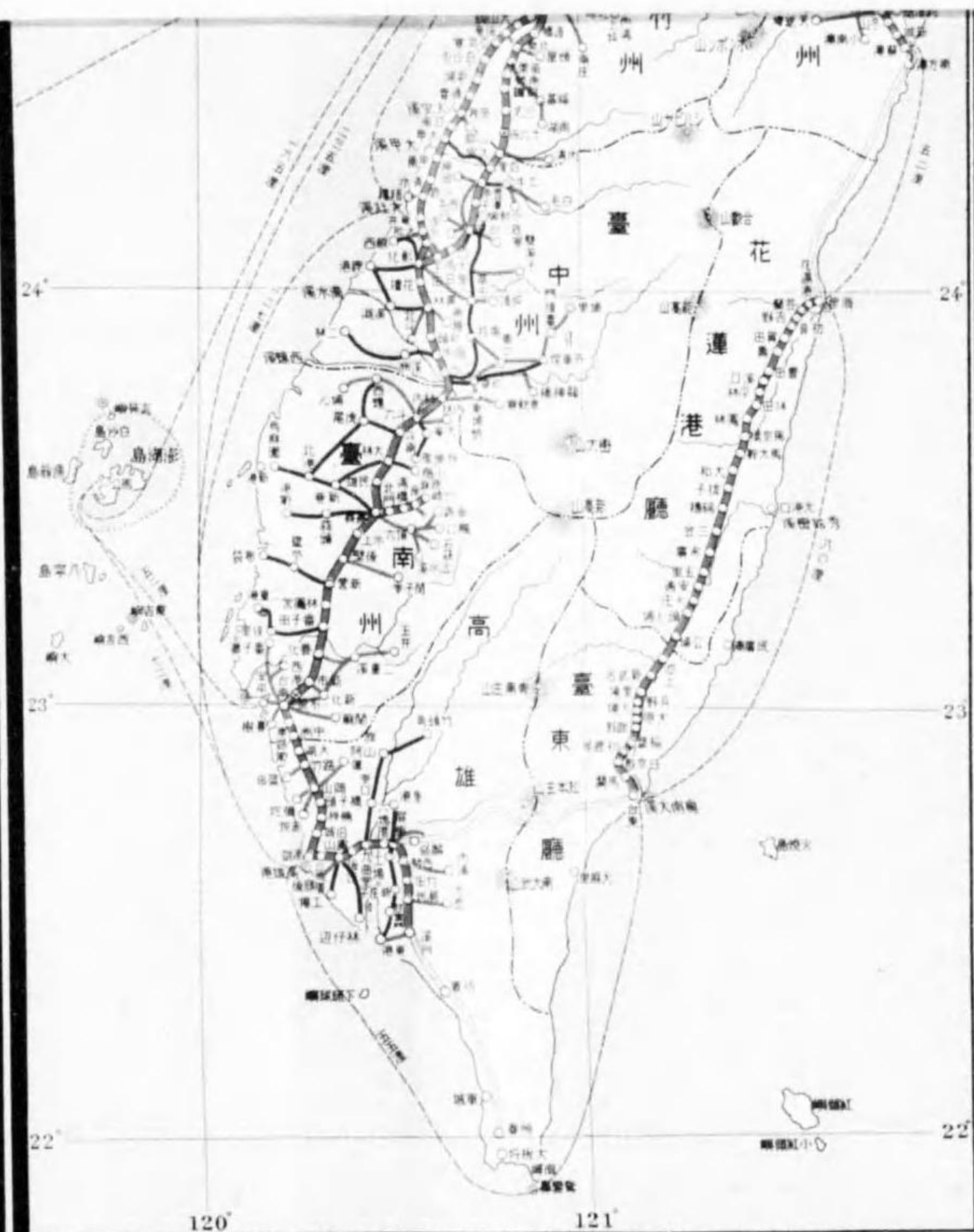
一 之 分 万 百 二 尺 縮

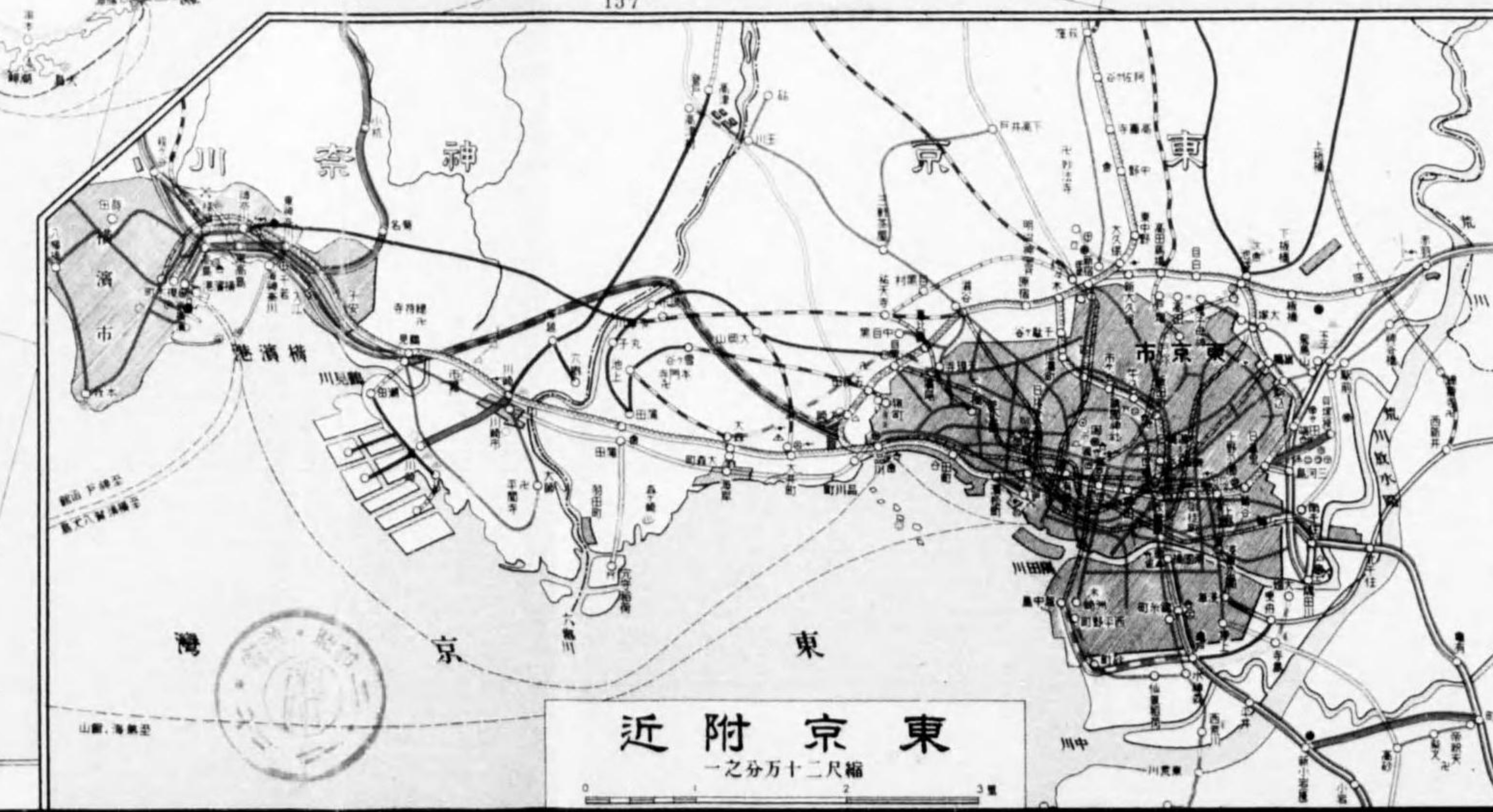
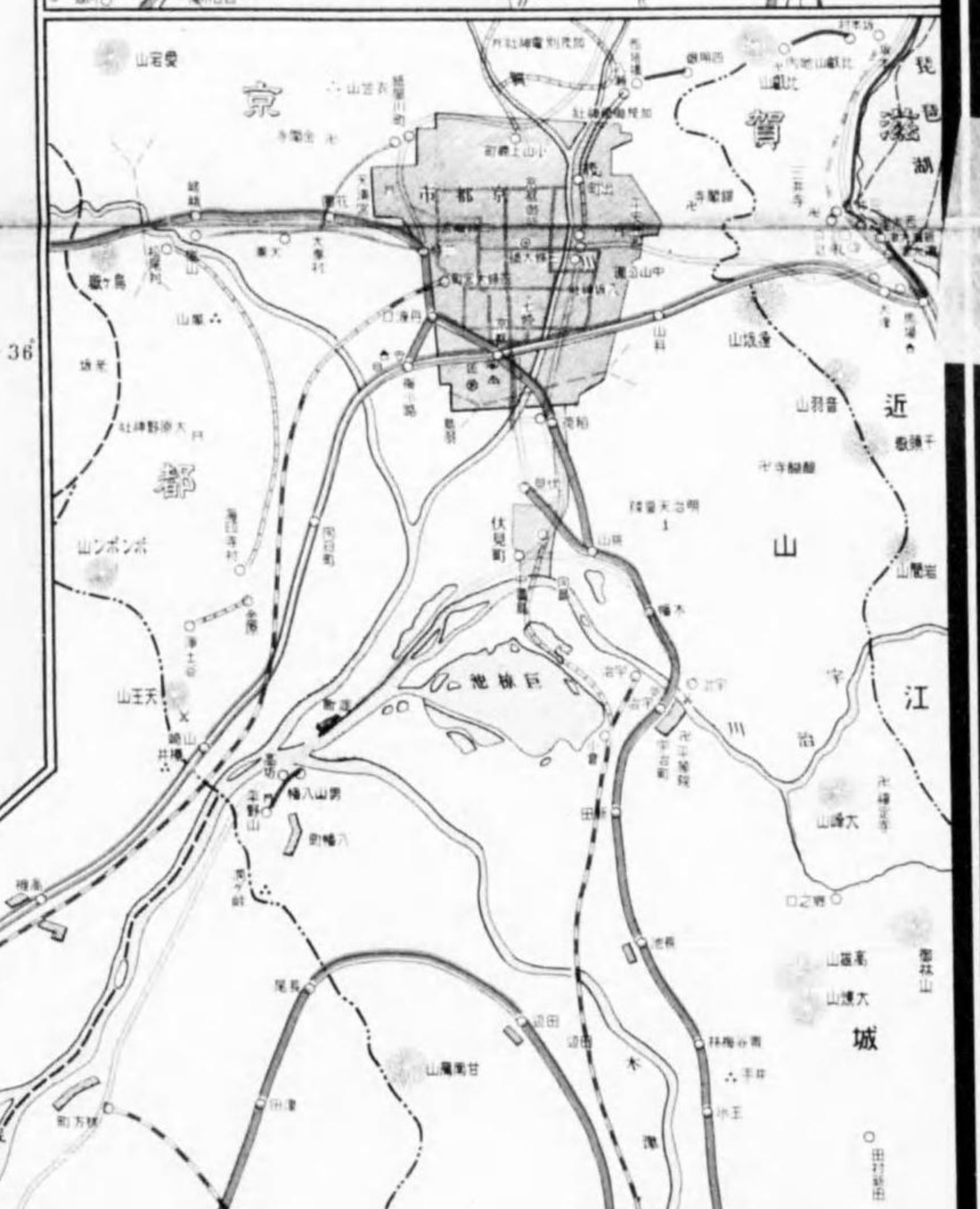
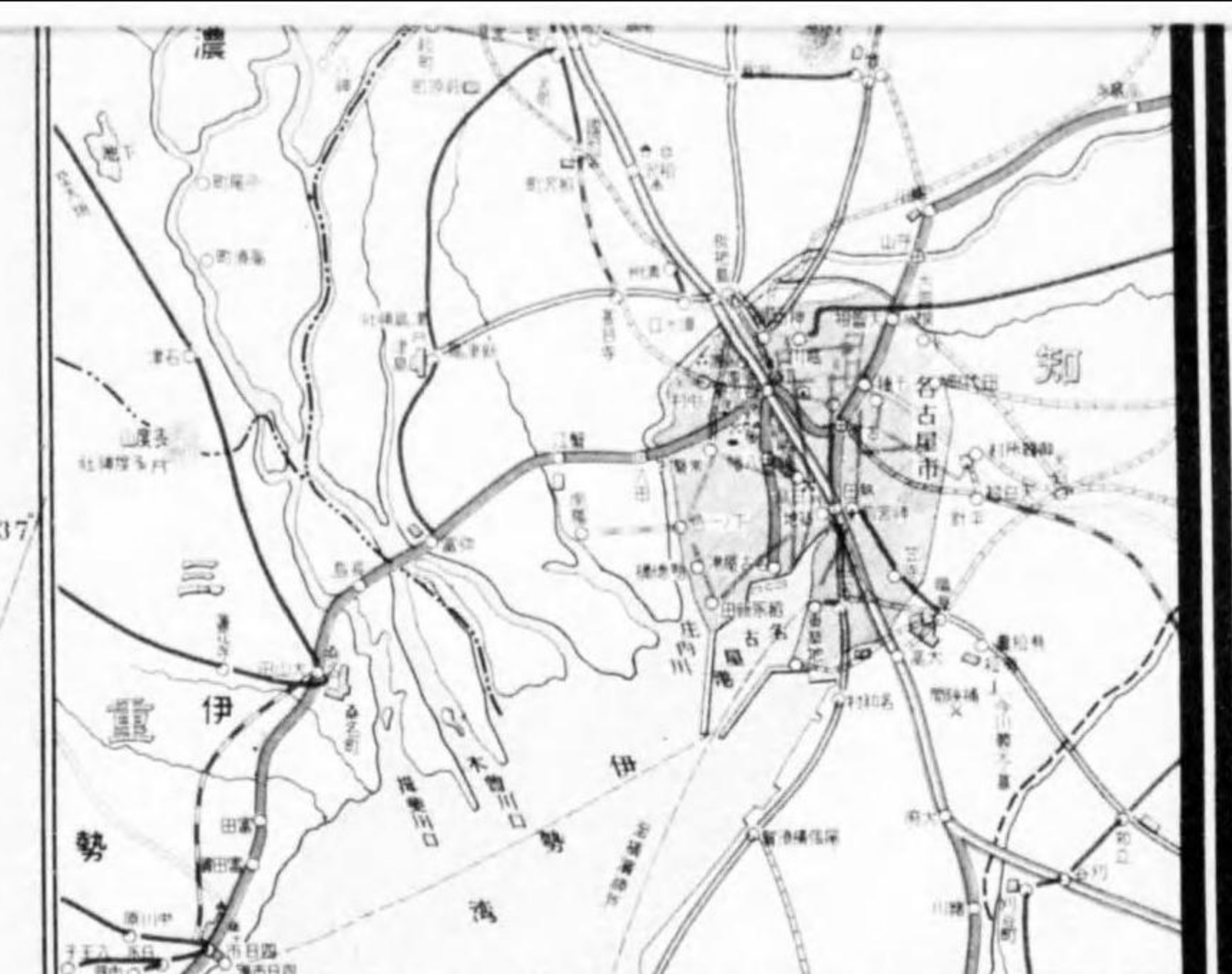
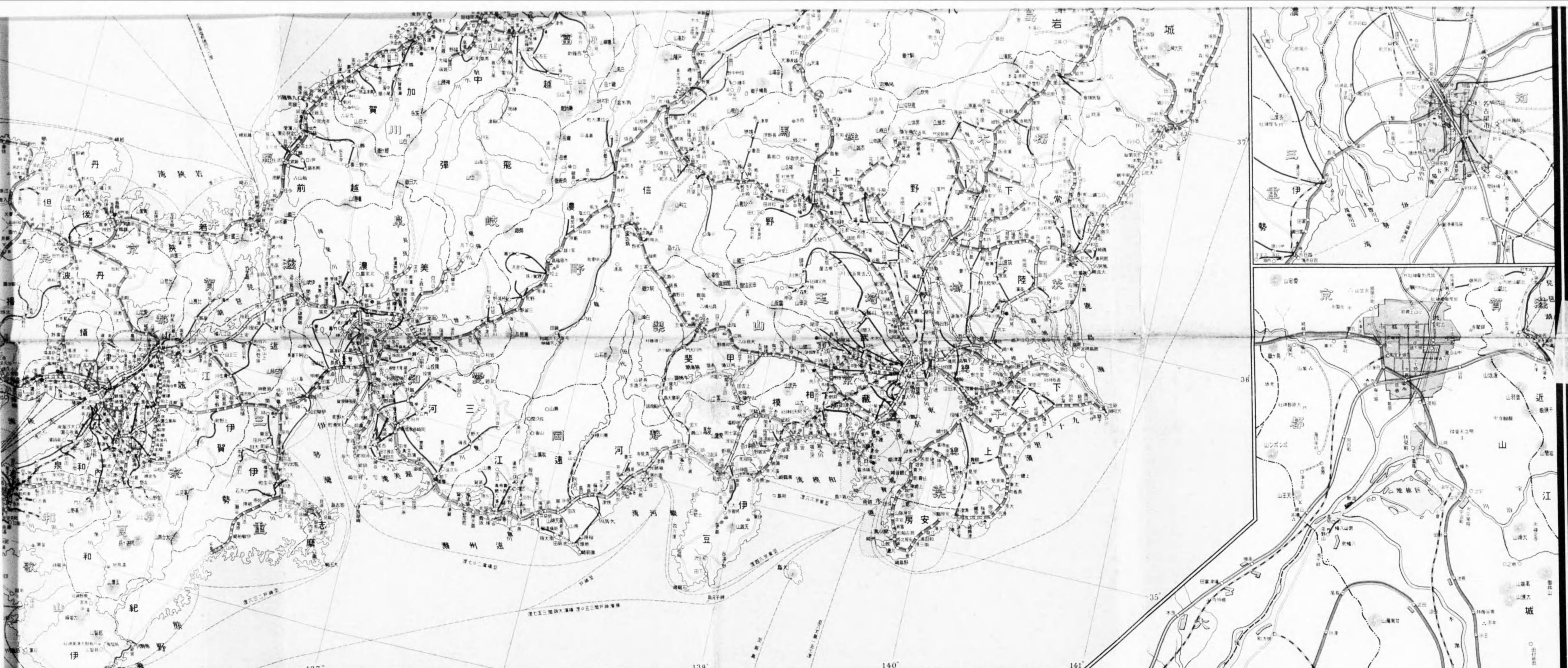




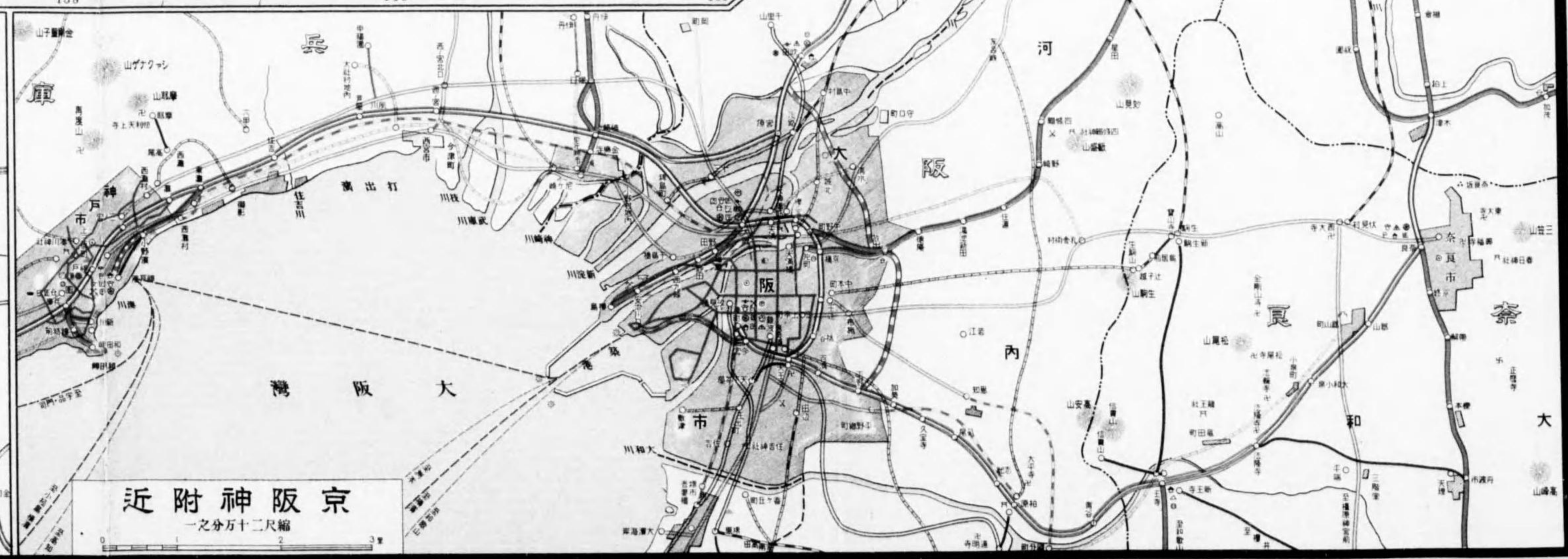
近附屋古名  
之方寸四尺縮



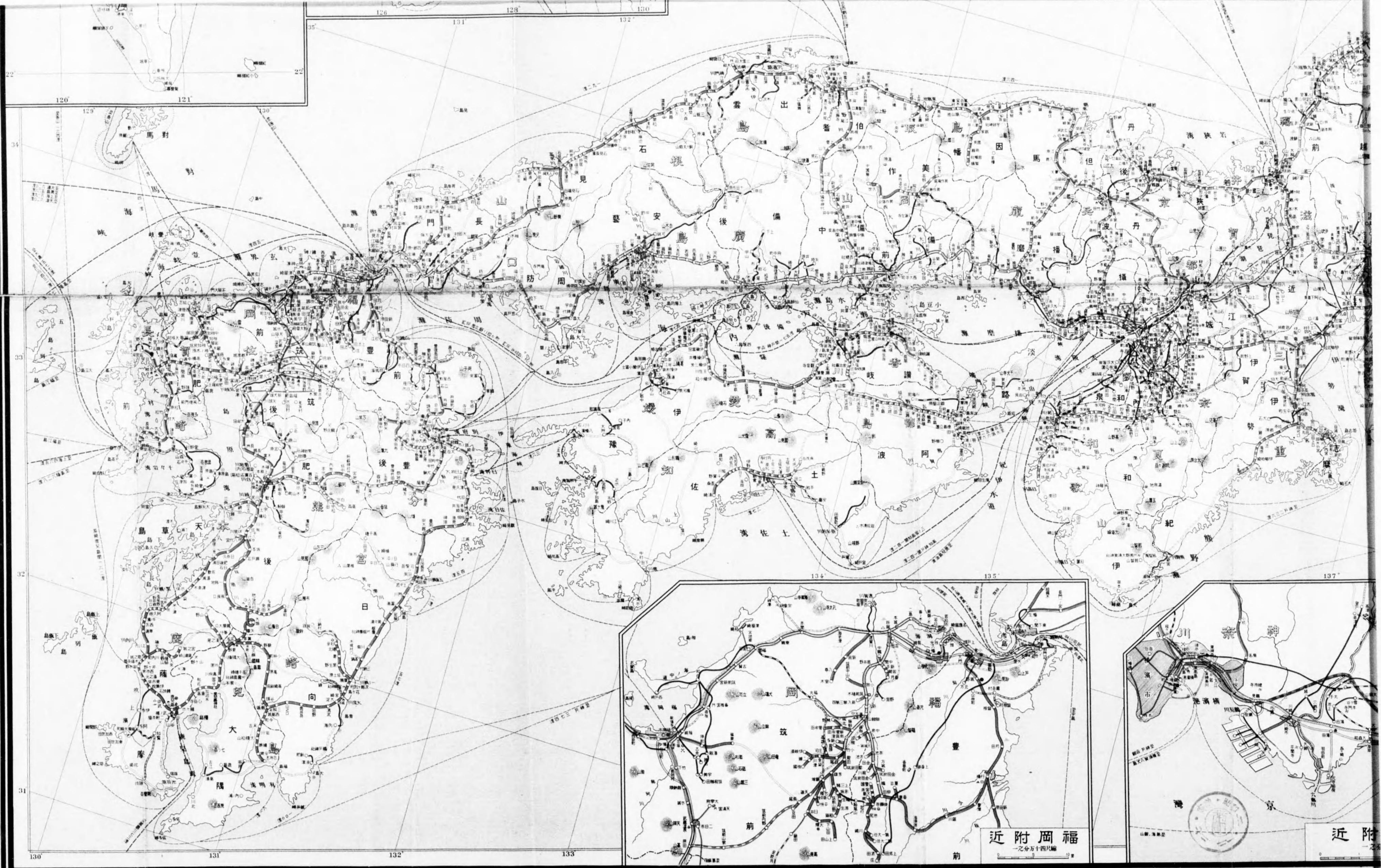




近附京東  
一之分万十二尺縮



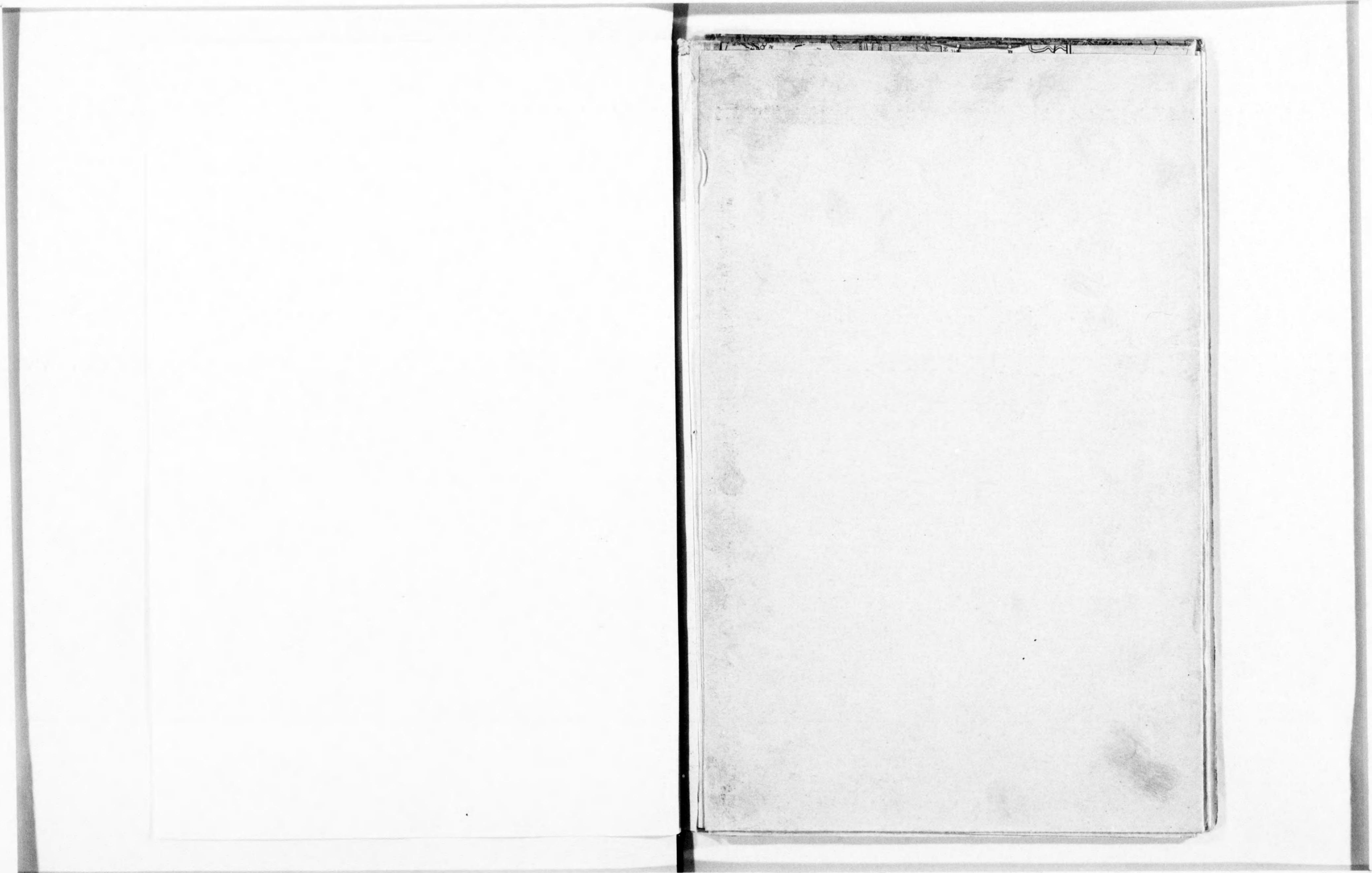
近附神阪京  
一之分万十二尺縮



昭和二年十月  
凸版印刷株式會社

福岡附近  
一之令方十四尺縮

附近



終